別記様式第2号(その1の1)

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学科連係課程実施学科の設置（学科の設置）	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　スミレガクエン 学校法人　純美禮学園	
フリガナ 大学の名称	シガタンキダイガク 滋賀短期大学　(Shiga Junior College)	
大学本部の位置	滋賀県大津市竜が丘24番4号	
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、心技一如の建学の精神の基に、豊かな教養と実践的な専門の知識と技術を授け、もって社会の発展と文化の向上に貢献する人を育成することを目的とする。	
新設学科等の目的	デジタル社会の到来を迎え、生活にもデジタルテクノロジーが浸透するとともに、ビジネス現場においては、ＤＸによるビジネスモデルの変革の必要性が叫ばれている。きたるべきSociety5.0においては、社会全体でデジタル化を意識した新しいライフとビジネスへの取組みが必要である。本学科は、新時代を意識しながら、生活とビジネスの基礎を身につけ、データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野の知識やスキルを学び、高度なデジタル社会の中で、それらを活かして活躍できる人材を育成することを目的とする。	

新設学科等の概要

新設学科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	年	人	年次人	人		年　月 第　年次		
学科連係課程実施学科								
デジタルライフビジネス学科 ［Department of Digital Life and Business］	2	30	－	60	短期大学士（生活ビジネス学）【Associate Degree of Life and Business】	令和4年4月 第1年次	滋賀県大津市竜が丘24番4号	学位の分野：家政関係、経済学関係
連係協力学科（Ⅰ）								
生活学科 ［Department of Living Science］	2	80	－	160	短期大学士（生活学）【Associate Degree of Living Science】	昭和45年4月 第1年次	滋賀県大津市竜が丘24番4号	学位の分野：家政関係
生活学科からデジタルライフビジネス学科の内数とする入学定員数		10	－	20				
連係協力学科（Ⅱ）								
ビジネスコミュニケーション学科 ［Department of Business Communication］	2	100	－	200	短期大学士（ビジネス）【Associate Degree of Business Communication】	昭和62年4月 第1年次	滋賀県大津市竜が丘24番4号	学位の分野：経済学関係
ビジネスコミュニケーション学科からデジタルライフビジネス学科の内数とする入学定員数		20	－	40				
計		－	－	－				

同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	幼児教育保育学科〔定員減〕 （△50） （令和4年4月） ビジネスコミュニケーション学科〔定員増〕 （＋20） （令和4年4月）	

教育課程	新設学科等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
		講義	演習	実験・実習	計	
	デジタルライフビジネス学科	44 科目	39 科目	12 科目	95 科目	62 単位

教員組織の概要	学科等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	学科連係課程実施学科 デジタルライフビジネス学科 連係協力学科（Ⅰ） 生活学科 連係協力学科（Ⅱ） ビジネスコミュニケーション学科	人 ＜0＞ 【4】 (4)	人 ＜0＞ 【0】 (0)	人 ＜1＞ 【1】 (1)	人 ＜0＞ 【1】 (1)	人 ＜1＞ 【6】 (6)	人 ＜0＞ 【0】 (0)	人 ＜0＞ 【48】 (38)
		計	4 (4)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	－ －
	既設分	生活学科	4 【2】 (4)	0 【0】 (0)	1 【0】 (1)	1 【0】 (1)	6 【2】 (6)	4 【0】 (4)	54 【7】 (42)
		幼児教育保育学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	60 (53)
		ビジネスコミュニケーション学科	5 【2】 (5)	2 【0】 (2)	1 【0】 (1)	1 【1】 (1)	9 【3】 (9)	0 【0】 (0)	56 【13】 (46)
		計	15 (15)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	26 (26)	4 (4)	－ －
	合計		4 (4)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	－ －

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	人 20 (20)	人 16 (16)	人 36 (36)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	1 (1)	4 (4)	5 (5)
	その他の職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	計	22 (22)	20 (20)	42 (42)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	校舎敷地	12,681㎡	0㎡	0㎡	12,681㎡
	運動場用地	2,836㎡	0㎡	0㎡	2,836㎡
	小計	15,517㎡	0㎡	0㎡	15,517㎡
	その他	5,236㎡	0㎡	0㎡	5,236㎡
	合計	20,753㎡	0㎡	0㎡	20,753㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	12,813 ㎡ (12,813 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	12,813 ㎡ (12,813 ㎡)

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	12 室	19 室	8 室	3 室 （補助職員 0人）	0 室 （補助職員 0人）	大学全体

専任教員研究室	新設学科等の名称	室数	
	デジタルライフビジネス学科	32 室	大学全体

図書・設備	新設学科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	デジタルライフビジネス学科	90,410〔2,988〕 (90,410〔2,988〕)	251〔10〕 (251〔10〕)	1〔0〕 (1〔0〕)	310 (310)	2 (2)	0 (0)	学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	90,410〔2,988〕 (90,410〔2,988〕)	251〔10〕 (251〔10〕)	1〔0〕 (1〔0〕)	310 (310)	2 (2)	0 (0)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	586 ㎡	63	100,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	1,336 ㎡	テニスコート（3面）	大学全体

経費の見積及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		250千円	250千円	－千円	－千円	－千円	－千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	共同研究費等		1,500千円	1,500千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	図書購入費	1,000千円	500千円	500千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	2,000千円	5,000千円	2,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	1,220千円	1,020千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	学生納付金は全学科同額

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、雑収入 等

既設大学等の状況	大学の名称	滋賀短期大学							
	学科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	生活学科	2	80	－	160	短期大学士（生活学）	0.93	昭和45年4月	滋賀県大津市竜が丘24番4号
	幼児教育保育学科	2	150	－	300	短期大学士（幼児教育保育学）	0.83	昭和45年4月	滋賀県大津市竜が丘24番4号
	ビジネスコミュニケーション学科	2	100	－	200	短期大学士（ビジネス）	1.11	昭和62年4月	滋賀県大津市竜が丘24番4号

附属施設の概要	該当なし

学校法人　純美禮学園　設置認可に関わる組織の移行表

学科連係課程実施学科の設置、学科収容定員変更

令和3年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
滋賀短期大学				滋賀短期大学				
生活学科	80	—	160	生活学科	80	—	160	入学定員数のうち10名はデジタルライフビジネス学科定員数とする。
幼児教育保育学科	150	—	300	幼児教育保育学科	100	—	200	入学定員変更（△50）
ビジネスコミュニケーション学科	100	—	200	ビジネスコミュニケーション学科	120	—	240	入学定員変更（＋20） 入学定員数のうち20名はデジタルライフビジネス学科定員数とする。
				デジタルライフビジネス学科	(30)	—	(60)	学科の設置（届出）
計	330	—	660	計	300	—	600	総入学定員変更（△30）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（デジタルライフビジネス学科：以下略称としてDLBとする。）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	ことばと人間	1･2前		2		○								兼1	
	美術をみる目	1･2前		2		○								兼1	
	音楽とは何か	1･2前		2		○								兼1	
	近江学入門	1･2前		2		○								兼1	
	国際地理	1･2後		2		○								兼1	
	テレビ映像と現代社会	1･2後		2		○								兼1	
	教育を考える	1･2後		2		○								兼1	
	心理学	1･2前		2		○								兼1	
	心と身体のヘルスケア	1･2前		2		○								兼1	
	生活文化論	1･2前		2		○								兼1	
	子ども社会	1･2前		2		○								兼1	
	子どもの世界	1･2後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1･2前		2		○								兼1	
	現代の健康	1･2後		2		○								兼1	
	数の不思議	1･2後		2		○								兼1	
	データ分析入門	1･2後		2		○			1						
	健康スポーツ論	1後		1		○								兼1	
	スポーツ実技（テニス）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（フィットネス）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（バレー）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）	1前･休		1				○						兼2	集中、※実技
	スポーツ実技（キャンプ）	1前･休		1				○						兼2	集中、※実技、共同
	スポーツ実技（スノースポーツ）	1後･休		1				○						兼2	集中、※実技、共同
	日本語Ⅰ	1前		1			○					1			留学生対象
	日本語Ⅱ	1後		1			○					1			留学生対象
	英語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	英語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	キャリア基礎演習	1前	1				○		2		1	1		兼4	8回授業、オムニバス、共同、DLB・ビジ横断
	キャリアデザイン演習	2後	1				○		2		1	1		兼1	8回授業、オムニバス、共同、DLB・ビジ横断
	環びわ湖単位互換科目	—		8		○									単位互換
	生活文化入門	1前		1		○			2					兼4	集中（8回）、オムニバス方式
	子ども理解入門	1前		1			○							兼8	集中（8回）、オムニバス方式
	ビジネス入門	1前		1		○			2					兼3	集中（8回）、オムニバス方式
	小計（37科目）	—	2	58	0	—			4	0	1	1	0	兼28	—
	データサイエンス入門	1前	2			○			1						
	データサイエンス応用	1後		2		○			1						
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1前	1				○		1						DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1後	1				○		1						DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1前	1				○							兼1	DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	2前	1				○							兼1	DLB・ビジ横断
	情報処理	1後	2			○								兼1	DLB・ビジ横断
	情報社会論	2前	2			○								兼1	
	経営学概論	1前		2		○			1						DLB・ビジ横断
	簿記会計実務Ⅰ	1前	2				○		1						DLB・ビジ横断
	ビジネス法規入門	1前	2			○								兼1	DLB・ビジ横断
	日本語表現	1前		2		○						1			
	ウェブデザインⅠ	1後		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	ウェブデザインⅡ	2前		2			○							兼1	DLB・ビジ横断
	プログラミングⅠ	2前		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	プログラミングⅡ	2後		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	CG演習	1後		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	マルチメディア演習	2前		2			○							兼1	DLB・ビジ横断

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	SNS Ⅰ	1後		1			○							兼1	
	SNS Ⅱ	2前		1			○							兼1	
	SNS起業プロジェクト	2後		1			○							兼1	
	デザイン論	2前		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	ファッションデザイン	1前		2		○					1				
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ	1前		2				○			1				
	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	1後		2				○			1				
	ハウスプランニング	1後		2		○								兼1	
	インテリアデザインⅠ（理論）	2前		2		○								兼1	
	インテリアデザインⅡ（演習）	2後		1			○							兼1	
	ハンドメイドデザインⅠ	2前		2			○				1				
	ハンドメイドデザインⅡ	2後		2			○				1				
	ネイルアートデザインⅠ	2前		1			○				1				
	ネイルアートデザインⅡ	2後		1			○				1				
	映像デザインⅠ（実習）	2前		1				○						兼1	
	映像デザインⅡ（実習）	2後		1				○						兼1	
	ショップマネジメントⅠ	2前		2			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	ショップマネジメントⅡ	2後		1			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	ビジネスマナー	1前		2		○								兼1	
	アントレプレナー論	1後		2		○			1						
	インターネットビジネス	1後		2		○								兼1	
	イベントプロデュース論	1後		2		○								兼1	
	イベントプロデュースプロジェクト	2前		1			○							兼1	
	ファッションマーチャンダイジング	1前		2		○								兼1	
	ライフ・ファイナンシャルプランニング	1後	2			○								兼1	
	フードコーディネート論	2前		2		○								兼4	DLB・生活・ビジ横断、オムニバス方式
	フードライフデザイン（食品と栄養）	1後		2		○			1						
	フードライフデザイン（調理と文化）	2前		2		○			1						DLB・生活横断
	フードライフ実習Ⅰ	2前		1				○	1						8回授業、DLB・生活横断
	フードライフ実習Ⅱ	2後		1				○	1						8回授業、DLB・生活横断
	カラーコーディネート論	1後		2		○					1				DLB・生活横断
	きものコーディネート	2前		2			○				1				
	ラッピング演習	2後		1			○							兼1	DLB・生活横断
	染色演習	2後		2			○							兼1	隔年開講
	生活学概論	1後	2			○								兼1	DLB・生活横断
	マーケティング	1前		2		○			1						
	インターンシップⅠ	1前・休		1			○					1		兼2	集中、DLB・ビジ横断、共同
	インターンシップⅡ	1後・休		1			○					1		兼2	集中、DLB・ビジ横断、共同
	地域貢献演習Ⅰ	1後		1			○		2					兼2	集中、DLB・ビジ横断、共同
	地域貢献演習Ⅱ	2後		1			○		2					兼2	集中、DLB・ビジ横断、共同
	小計（58科目）	—	18	74	0	—			4	0	1	1	0	兼22	—
合計（ 95 科目）		—	20	132	0	—			4	0	1	1	0	兼48	—

学位又は称号	短期大学士（生活ビジネス学）	学位又は学科の分野	家政分野、経済学分野

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修2単位、選択から10単位以上を修得し、12単位以上修得する。選択科目は、必修18単位、選択から32単位以上を修得し、50単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：30単位（半期）） なお、共通科目の選択科目のうち、英語Ⅰ、英語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、日本語Ⅰ、日本語Ⅱから2単位を選択必修とする。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注意）備考欄に記載している「DLB」はデジタルライフビジネス学科の略称。「生活」は生活学科の略称。
「ビジ」はビジネスコミュニケーション学科の略称。
2つ以上の学科で同一科目を開設する科目には、それぞれ開設する学科名の後に「横断」と記載。

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（生活学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	ことばと人間	1･2前		2		○								兼1	
	美術をみる目	1･2前		2		○								兼1	
	音楽とは何か	1･2前		2		○								兼1	
	近江学入門	1･2前		2		○								兼1	
	国際地理	1･2後		2		○								兼1	
	テレビ映像と現代社会	1･2後		2		○								兼1	
	教育を考える	1･2後		2		○			1						
	心理学	1･2前		2		○								兼1	
	心と身体のヘルスケア	1･2前		2		○								兼1	
	生活文化論	1･2前		2		○								兼1	
	子ども社会	1･2前		2		○			1						
	子どもの世界	1･2後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1･2前		2		○								兼1	
	現代の健康	1･2後		2		○								兼1	
	数の不思議	1･2後		2		○								兼1	
	データ分析入門	1･2後		2		○								兼1	
	健康スポーツ論	1後		1		○								兼1	
	スポーツ実技（テニス）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（フィットネス）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（バレー）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）	1前･休		1				○						兼2	集中、※実技
	スポーツ実技（キャンプ）	1前･休		1				○						兼2	集中、※実技、共同
	スポーツ実技（スノースポーツ）	1後･休		1				○						兼2	集中、※実技、共同
	日本語Ⅰ	1前		1			○							兼1	留学生対象
	日本語Ⅱ	1後		1			○							兼1	留学生対象
	英語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	英語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	キャリア基礎演習	1前	1				○		4		1	1			8回授業、オムニバス方式
	キャリアデザイン演習	2後	1				○		4		1	1			8回授業、オムニバス方式
	環びわ湖単位互換科目	―		8		○									単位互換
	生活文化入門	1前		1		○			4		1	1			集中（8回）、オムニバス方式
	子ども理解入門	1前		1			○							兼8	集中（8回）、オムニバス方式
	ビジネス入門	1前		1		○								兼5	集中（8回）、オムニバス方式
	小計（37科目）	―	2	58	0		―		4	0	1	1	0	兼26	―
	生活学概論	2後		2		○								兼1	DLB・生活横断
	食生活論	1･2前	2			○					1				
	情報処理基礎Ⅰ	1･2前	1				○							兼1	
	情報処理基礎Ⅱ	1･2後	1				○							兼1	
	公衆衛生学Ⅰ	1前･1後		2		○								兼2	
	公衆衛生学Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	衛生法規	1前		2		○								兼1	
	生理学	1前		2		○								兼1	
	解剖生理学	1前		2		○								兼1	
	解剖生理学実験	2前		1				○						兼3	12週、オムニバス形式、共同
	生化学Ⅰ	1後		2		○			1						
	生化学Ⅱ	1後		2		○			1						
	生化学実験	2後		1				○	1						12週
	食品学総論	1前	2			○			1						
	食品学各論	1･2後		2		○								兼1	
	食品学実験	1･2前		1				○	1						12週
	食品衛生学Ⅰ	1前･後		2		○								兼2	
	食品衛生学Ⅱ	1前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	食品衛生学Ⅲ	1後		2		○								兼1	
	菓子と食生活	1後		2		○								兼1	
	食品衛生学実験	1･2後		1				○						兼1	12週
	基礎栄養学	1前･後	2			○			1						
	応用栄養学	1後		2		○						1			
	応用栄養学実習	2前		1				○				1			12週
	臨床栄養学	2前		2		○					1				
	臨床栄養管理学	2後		2		○					1				
	臨床栄養学実習	2前		1				○			1				12週
	臨床栄養管理学実習	2後		1				○			1				12週
	栄養教育論Ⅰ	1前		2		○						1			
	栄養教育論Ⅱ	1後		2		○						1			
	栄養教育論実習Ⅰ	1前		1				○				1			12週
	栄養教育論実習Ⅱ	1後		1				○						兼1	12週
	公衆栄養学	2後		2		○								兼1	
	調理学	1前		2		○			1						
	調理学実習Ⅰ	1前		1				○	1						12週
	調理学実習Ⅱ	1後		1				○	1						12週
	フードライフデザイン（調理と文化）	2前		2		○			1						DLB・生活横断
	フードライフ実習Ⅰ	2前		1				○	1						8回、DLB・生活横断
	フードライフ実習Ⅱ	2後		1				○	1						8回、DLB・生活横断
	給食経営計画管理論	2前		2		○					1				
	給食経営計画実習	2前		1				○			1				12週
	給食経営管理実習	2後		1				○			1				12週
	給食経営管理学外実習（栄養士）	2前		1				○			1				集中、履修条件あり
	給食経営管理学外実習事前事後指導	1後～2前		1			○				1				集中（8･7）、履修条件あり
	世界と地域の食文化	2後		2		○			1						
	地域伝統食実習	2後		1				○	1						集中
	献立作成演習	1後		1			○					1			
	学校食育論	2前		2		○						1			
	地域食育演習	2後		2			○		1			1			集中、共同
	製菓理論（総合）	1後		2		○								兼1	
	製菓理論（和菓子）	1前		2		○								兼1	
	製菓理論（洋菓子）	1前		2		○								兼1	
	製パン理論	1前		2		○								兼1	
	製菓基礎実習（和菓子）	1前		2				○						兼1	
	製菓基礎実習（洋菓子）	1前		2				○						兼1	
	製菓基礎実習（製パン）	1前		2				○						兼1	
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅰ	1後		2				○						兼1	
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅱ	1後		2				○	1						
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅲ	1後		2				○	1						
	製菓専門実習（技術）	1前		2				○	1						
	製菓専門実習（製パン）	1後		2				○						兼1	
	製菓応用実習Ⅰ	2前		2				○	1						
	製菓応用実習Ⅱ	2後		2				○	1						
	マイスター・トレーニング	2前		1				○	1						
	ショップマネジメントⅠ	2前		2			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	ショップマネジメントⅡ	2後		1			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	製菓特別実習	1後･休		1				○	1						集中
	ラッピング演習	2後		1			○					1			DLB・生活横断
	フードコーディネート論	2前		2		○								兼4	DLB・生活・ビジ横断、オムニバス方式
	カラーコーディネート論	2前		2		○								兼1	DLB・生活横断
	ブライダル論	2前		2		○								兼1	生活・ビジ横断
	ホスピタリティ論	2前		2		○								兼1	生活・ビジ横断
	マーケティング論	1後		2		○								兼1	
	小計（73科目）	―	8	113	0	―			4	0	1	1	0	兼25	―
	教師論	1後		2		○			1						
	教育原理	1前		2		○			1						
	教育心理学	1前		2		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教職専門科目	特別支援教育	2前		1		○								兼1	
	教育の課程と方法	1後		2		○								兼1	
	道徳教育論	2前		1		○			1						
	特別活動論（総合的な学習の時間を含む）	2前		1		○			1						
	生徒指導論	2前		2		○			1						
	教育相談	2後		2		○								兼1	集中
	栄養教諭教育実習	2前		1				○	1			1			集中、履修条件あり、共同
	教職実践演習(栄養教諭)	2後		2				○	1			1			オムニバス方式
	教育実習事前事後指導(栄養教諭)	1後～2前		1				○	1			1		兼1	オムニバス方式
	小計（12科目）	—	0	19	0	—			1	0	0	1	0	兼5	—
合計（ 小計（122科目） 科目）		—	10	190	0	—			4	0	1	1	0	兼54	—

学位又は称号	短期大学士（生活学）	学位又は学科の分野	家政分野

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修2単位、選択から10単位以上を修得し、12単位以上修得する。選択科目は、必修8単位、選択から42単位以上を修得し、50単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：30単位（半期）） なお、共通科目の選択科目のうち、英語Ⅰ、英語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、日本語Ⅰ、日本語Ⅱから2単位を選択必修とする。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注意）備考欄に記載している「DLB」はデジタルライフビジネス学科の略称。「生活」は生活学科の略称。
「ビジ」はビジネスコミュニケーション学科の略称。
2つ以上の学科で同一科目を開設する科目には、それぞれ開設する学科名の後に「横断」と記載。

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（ビジネスコミュニケーション学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	ことばと人間	1･2前		2		○								兼1	
	美術をみる目	1･2前		2		○								兼1	
	音楽とは何か	1･2前		2		○								兼1	
	近江学入門	1･2前		2		○								兼1	
	国際地理	1･2後		2		○								兼1	
	テレビ映像と現代社会	1･2後		2		○								兼1	
	教育を考える	1･2後		2		○								兼1	
	心理学	1･2前		2		○								兼1	
	心と身体のヘルスケア	1･2前		2		○								兼1	
	生活文化論	1･2前		2		○								兼1	
	子ども社会	1･2前		2		○								兼1	
	子どもの世界	1･2後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1･2前		2		○								兼1	
	現代の健康	1･2後		2		○			1						
	数の不思議	1･2後		2		○								兼1	
	データ分析入門	1･2後		2		○			1						
	健康スポーツ論	1後		1		○								兼1	
	スポーツ実技（テニス）	1前		1				○	1						※実技
	スポーツ実技（フィットネス）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（バレー）	1前		1				○						兼1	※実技
	スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）	1前･休		1				○	1					兼1	集中、※実技
	スポーツ実技（キャンプ）	1前･休		1				○	1					兼1	集中、※実技、共同
	スポーツ実技（スノースポーツ）	1後･休		1				○	1					兼1	集中、※実技、共同
	日本語Ⅰ	1前		1			○					1			留学生対象
	日本語Ⅱ	1後		1			○					1			留学生対象
	英語Ⅰ	1前		1			○							兼2	
	英語Ⅱ	1後		1			○							兼2	
	フランス語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	中国語Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	中国語Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	キャリア基礎演習	1前	1				○		5		1	1		兼1	8回授業、オムニバス、共同、DLB・ビジ横断
	キャリアデザイン演習	2後	1				○		2		1	1		兼1	8回授業、オムニバス、共同、DLB・ビジ横断
	環びわ湖単位互換科目	—		8		○									単位互換
	生活文化入門	1前		1		○								兼6	集中（8回）、オムニバス方式
	子ども理解入門	1前		1			○							兼8	集中（8回）、オムニバス方式
	ビジネス入門	1前		1		○			4		1				
	小計（37科目）	—	2	58	0		—		5	0	1	1	0	兼28	—
	日本語表現Ⅰ	1前	2			○						1			
	日本語表現Ⅱ	1後	2			○						1			
	ホスピタリティ論	2前	2			○				1					生活・ビジ横断
	コミュニケーション論	2後	2			○				1					
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1前	1				○		1						DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1後	1				○		1						DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1前	1				○							兼1	DLB・ビジ横断
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	2前	1				○							兼1	DLB・ビジ横断
	プログラミングⅠ	2前		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	プログラミングⅡ	2後		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	情報システム概論	1後	2			○			1						
	ビジネス基礎	1前	1				○		1		1				共同
	教養基礎	1後	1				○		2	2	1				
	簿記会計実務Ⅰ	1前	2				○							兼1	DLB・ビジ横断
	簿記会計実務Ⅱ	1前		1			○							兼2	
	経営学概論	1前	2			○			1						DLB・ビジ横断
	オフィス総論	1前	2			○				1					
	秘書実務Ⅰ	1前	1				○			1				兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	秘書実務Ⅱ	1後	1				○			1				兼1	
	特別演習Ⅰ	1後	1				○		5	2	1				8週、共同
	特別演習Ⅱ	2前	1				○		5	2	1				8週、共同
	英会話Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	英会話Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	心理学概論	1後		2		○								兼1	
	現代社会論	2後		2		○								兼1	
	ビジネス法規入門	1前		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	プレゼンテーション演習	2前		1			○			1					
	地域ビジネス論	1後		2		○			1						
	マーケティング論	2前		2		○			1						生活・ビジ横断
	事務管理	2前		2		○			1						
	総合実践論	2後		2		○				1					
	情報処理	2後		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	データベース演習	2後		1			○		1						
	デザイン論	2前		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	ウェブデザインⅠ	1後		2		○								兼1	DLB・ビジ横断
	ウェブデザインⅡ	2前		2			○							兼1	DLB・ビジ横断
	ウェブデザイン演習	2後		2			○							兼1	
	ＣＧ演習	1後		1			○							兼1	DLB・ビジ横断
	マルチメディア演習	2前		2			○							兼1	DLB・ビジ横断
	観光学	1前		2		○								兼1	
	観光概論	1後		2		○								兼1	
	国内地理	1前		2		○								兼1	
	ホテル業務概論	1後		2		○				1					
	ブライダル論	2前		2		○				1					
	ホテル業務演習	2後		1			○			1					
	ホテルマネジメント論	2前		1		○				1				8週	
	からだの構造と機能	1前		2		○			1						
	医療関係法規	2後		2		○			1						
	医療情報学	2後		2		○								兼1	
	患者論と医の倫理	2前		2		○								兼1	
	健康と疾病	1後		2		○			1						
	臨床検査と薬の知識	1後		2		○			1						
	医療用語	2前		2		○			1						
	医療保険事務Ⅰ	1前		2		○			1						
	医療保険事務Ⅱ	1後		1			○		1						
	医療保険事務Ⅲ	2前		1			○		1						
	医療保険事務Ⅳ	2後		1			○		1						
	医療事務コンピュータ	2前		1			○		1						
	電子カルテ演習	2後		1			○		1						
	医療秘書学	1前		2		○			1						
	医療秘書実務	2前		1			○		1	1					
	医療経営学	2後		2		○								兼1	
	医療事務総論	1前		2		○								兼1	
	手話	2後		1			○							兼1	
	簿記会計演習	1後		1			○							兼1	
	工業簿記	1後		1			○							兼1	
	インターンシップⅠ	1前･休		1			○			2		1			集中、DLB・ビジ横断、共同
	インターンシップⅡ	1後･休		1			○			2		1			集中、DLB・ビジ横断、共同
	実技演習	2前･休		1			○		2						集中
	栄養学	1前		2		○								兼1	
	販売管理論	1後		2		○								兼1	
	安全運転管理	1前		1			○							兼2	集中、共同
	産業車両演習	1後		1			○							兼1	集中
	地域づくり論	2後		2		○			1						
	地域福祉	2後		2		○								兼1	
	地域貢献演習Ⅰ	1後		1			○		2	2					集中、DLB・ビジ横断、共同
	地域貢献演習Ⅱ	2後		1			○		2	2					集中、DLB・ビジ横断、共同

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
	公務員特講Ⅰ	1前･休		1			○							兼1	集中
	公務員特講Ⅱ	1後･休		1			○							兼1	集中
	公務員演習Ⅰ	1前･休		1			○							兼1	集中
	公務員演習Ⅱ	1後		1			○				1				集中
	ショップマネジメントⅠ	2前		2			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	ショップマネジメントⅡ	2後		1			○							兼1	DLB・生活・ビジ横断
	フードコーディネート論	2前		2		○								兼4	DLB・生活・ビジ横断、オムニバス方式
	おもしろ観光ツアー演習	1･2前		1			○							兼1	8回
	イベントプロデュース実習	1後		1			○							兼1	8回
	経済学概論	1前		2		○								兼1	
	経済学特講Ⅰ	1後		1		○								兼1	8回、GPA2.0以上
	経済学特講Ⅱ	2前		1		○								兼1	8回、GPA2.0以上
	経済学演習	2前		1			○							兼1	集中(8)、GPA2.0以上
	経営学特講Ⅰ	1後		1		○								兼1	8回、GPA2.0以上
	経営学特講Ⅱ	2前		1		○								兼1	8回、GPA2.0以上
	経営学演習	2前		1			○							兼1	集中(8)、GPA2.0以上
	観光学特講Ⅰ	1後		1		○				1					8回、GPA2.0以上
	観光学特講Ⅱ	2前		1		○				1					8回、GPA2.0以上
	ＴＯＥＩＣⅠ	1前		1		○					1				8回、GPA2.0以上
	ＴＯＥＩＣⅡ	1後		1		○					1				8回、GPA2.0以上
	ＴＯＥＩＣⅢ	2前		1		○					1				8回、GPA2.0以上
	ビジネス日本語	2前		2		○						1			
	小計（99科目）	―	26	118	0	―			5	2	1	1	0	兼30	―
合計（ 136 科目）		―	28	176	0	―			5	2	1	1	0	兼56	―

学位又は称号	短期大学士（ビジネス）	学位又は学科の分野	経済学分野

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修2単位、選択から10単位以上を修得し、12単位以上修得する。選択科目は、必修26単位、選択から24単位以上を修得し、50単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：30単位（半期）） なお、共通科目の選択科目のうち、英語Ⅰ、英語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、日本語Ⅰ、日本語Ⅱから2単位を選択必修とする。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注意）備考欄に記載している「DLB」はデジタルライフビジネス学科の略称。「生活」は生活学科の略称。
「ビジ」はビジネスコミュニケーション学科の略称。
2つ以上の学科で同一科目を開設する科目には、それぞれ開設する学科名の後に「横断」と記載。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要（デジタルライフビジネス学科）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	ことばと人間	私たちは「ことば」というものを普段何気なく使っているが、そこには大変面白い現象・事実がたくさん観察される。国語や英語の時間に習った「文法」とは一味違う、ことばの世界の奥深さを学ぶ。毎回の授業後、テーマに関連したコメントシートを提出する。具体的には、言語と方言、ことばと年齢差、ことばの機能、ことばの変化、ことばと場面・状況、ことばと文化・世界観、比喩表現・ことわざ・慣用句、日本語と世界の言語、ことばの系統と類型、消滅の危機に瀕したことば、などについて概観し、言葉の全体像を理解する。	
共通科目	美術をみる目	ものをみる目、中でも美術をみる目はそれによって自らの感性を養い、創造する目を生み出す。画面形式・材質技法・表現様式などを理解し、より多くの美術作品に接することで創造する力を養う。授業をとおして、造形表現活動を考察することにより美術という作品を見る手がかりを習得する。また、美術鑑賞に欠かせない、主題、形式、材質、技法、様式などの観点を理解できる。さらに、実際に美術館に行く機会を持ち、作品と対話し、鑑賞する。	
共通科目	音楽とは何か	この授業は、教員の長年にわたる音楽表現者としてのキャリア、また音楽療法士としての臨床経験を反映させた講義内容である。音楽とは何であるか。音楽は、人間にとってなくてはならないものである。授業では、毎回異なったテーマで音楽について知り、考えていく。目には見えない音楽というものを、実際に私たちはどのように感じているのかを改めて意識してほしい。授業をとおして、音楽とは何かについて考え、音楽と人間とのつながりを知る。	
共通科目	近江学入門	近江というのが古代日本に生まれた国の一つであることから始めて、その国がどのような性格の地域であったかを述べる。そしてその中でどのような産業が発達し、どのような文化が生まれたのか、それらが現在にどのように引き継がれて滋賀県になったのかを明らかにする。授業ではできるだけ映像や地図を使い、滋賀県のことをあまり知らない人でもわかりやすいように心がける。参加者はそれぞれ滋賀県内の具体的な地域をとりあげ、その地域がどのような個性をもっているかを、様々な資料を使って調べ、それを発表する。	
共通科目	国際地理	本授業では、最初に世界を地理的に見る視点について述べ、それを踏まえて世界各地がどのような特色をもっているか、とくに一定の範囲をもつ地域性が、どのような歴史的背景や文化的特色によって形成されているのかを述べる。個々の地域について述べる際には比較するという方法を重視する。またその地域が日本とどのようにかかわり、これからどういう関係ができればよいかを考える。あわせて現代世界がかかえる地域格差の問題や地域間・国家間の紛争などの問題の背景にある地理的要因についても触れていきたい。	
共通科目	テレビ映像と現代社会	本授業では、まずテレビとインターネット双方を国民への情報伝達という視点で総合的に計画している国の考え方を判りやすく解説し、そのうえで、授業計画に従って、テレビ映像が国内外の政治・経済・文化にどのような影響を与えたかを実際の映像を見ながら振り返る。そしてテレビニュース、スポーツコンテンツ、情報番組、ドキュメンタリーなどについて制作方法やインターネット社会での変化について個別に考える。また「企画を立て取材をする」ことの楽しさと難しさを少しでも体験してもらうため、実際に映像企画書を書いてもらう。数多くの映像作品を見ながら、社会の動きや物事の本質を掴む能力がつくように、判りやすい授業を目指す。	
共通科目	教育を考える	日本の教育状況を理解するうえで必要となる基礎的事項を学ぶ。その際、子どもとおとなの関係という視点から、子ども社会の意味世界にふれることができるように講義する。授業では、バズ・セッションなどのアクティブラーニングの手法を取り入れる。この授業を履修することにより、日本の教育状況に関する基本的な事項を理解することができるようになり、また、日本の教育状況を相対化・対象化するための視点を獲得することができる。	
共通科目	心理学	公認心理師として、心理学的視点から教育や心理機能について講義を行う。学習理論、言語機能、記憶、情報処理、動機づけ、集団性と学習環境など、学校場面での人の発達と学習について焦点を当てる。授業をとおして、教育心理学に関する基本的な知識を理解するとともに、学校場面における集団の機能と学習援助について理解を深める。それにより、人がどのように学び、なにを学び成長するかを理解し、その支援ができるようになることを目指す。	
共通科目	心と身体のヘルスケア	本講義では、主なストレス理論と心身の健康に有効なさまざまな対処法をとりあげ、講義する。一般的なストレス・マネージメント法を中心に、心身のセルフケアとして広く親しまれ、実践しやすいものを取り上げ、その背景にある人間観や健康観に留意しつつ学んでいく。この講義を履修することにより、「心と身体の健康」という観点から、主に心理学、リラクゼーションやストレス理論を用いて、自分自身の心身の状態を見直すことができる。さらに、講義で習得したことを、実際の日常生活に応用し、自分自身の「心身の健康」について考察することができる。	
共通科目	生活文化論	生活文化とは人が生活していくための技術や手段である。この授業では日本人が日常生活のなかでどのような行動や考え方をしてきたか、そのことが生活にどのように反映されてきたかということを、衣食住や遊びに関する文化から考察する。また、生活のなかで継承されてきた様々な技術や生活道具をとりあげることによって、文化の多様性について検討する。本講義で紹介する様々な生活文化を通して、日本文化の特徴や特質について理解を深め、他国の文化についても関心をもつことができるようになる。	
共通科目	子ども社会	子どもがおかれている社会を理解するうえで必要となる基礎的事項を、事例の検討をとおして学ぶ。その際、個別具体的な問題を、基本的人権の尊重と社会構造という２つの視点から読み解く。授業では、バズ・セッションなどのアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。授業をとおして、子どもがおかれている社会を理解するうえで必要となる基礎的事項を身につけ、子どもがおかれている社会を相対化・対象化するための視点を獲得する。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	子どもの世界	本授業では、自分の子ども時代を思い出したり子どもの遊びや暮らしについて考えたりしながら、子どもの世界について学ぶ。子ども時代を想起しながら、子どもの育ちについて考え、子どもに関わるおとなの存在について自分なりの考えを持つことができるようにする。授業をとおして、子ども時代を想起しながら、子どもの育ちについて考えるようになり、子どもに関わる大人の存在について自分なりに考えをまとめる。	
共通科目	日本国憲法	「憲法」と聞いて、人々が持つイメージは様々である。最近、マスメディアを通じて「憲法」について目にする、耳にする機会も増えてきている。本授業では、小・中学校や高等学校などでの憲法学習で得られた知識をもとに、より体系的に日本国憲法の全体像を理解することを目的とする。特に、私たちの身近な生活にかかわる事柄や人権保障をめぐる問題を中心に、あらためて憲法とは何か、その意義や役割等について受講者全員で考える。	
共通科目	現代の健康	本講義は、医師免許を持ち、医療の経験を有する教員が担当する。健康に生きるための知識として、食事（栄養素）、摂取エネルギー、消費エネルギー、細胞の仕事、生体内のエネルギー通貨ATP、脳による代謝の統合について解説する。さらに、健康や栄養に関連したマスメディアにみられる「ニセ科学」についても触れる。本講義を履修することにより、生きている」ことの基本を理解することができる。また、マスメディアにみられる「ニセ科学」について理解することができるようになる。さらに、科学的思考方法の有効性と限界について知ることができる。	
共通科目	数の不思議	本講義は、小学校教員の経験を持つ教員が担当する。数・量・図形に関する古来からの各国の様々な問題やパズルについて解説を加えながら一緒に考えグループで検討していく。その中で、数学の歴史や、数の持つ美しさ、不思議さを実感していく。この講義を履修することにより、数・量・図形に関する問題やパズルを解く中で、数学の歴史を学び、数学的思考力を身につけることができる。また、数・量・図形の美しさや不思議さに触れることで、数学に興味・関心をもち、日常の数的なことについて考えることができるようになる。	
共通科目	データ分析入門	社会調査データなどの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。具体的には度数分布表、グラフの作成、代表値、分散、変動係数、ジニ係数などの記述統計量、因果関係と相関関係、クロス集計、回帰分析、簡単な時系列データの分析などを扱う。統計的資料の整理と提示法についても学ぶ。本授業を履修することにより、データ処理に必要な統計の基礎を学び、さらにEXCELを用いて、実務データの分析を行うための手法を身につけることができる。	
共通科目	健康スポーツ論	健康とは何かを知り、維持・増進に必要な運動、栄養、休養についての正しい知識を得て実践する力を身につける。自分自身の実際の生活習慣や現代の生活環境も振り返り、将来的な健康のために必要な取り組みとその実践方法について考察し、実行する力を養う。最終的に健康を維持、増進するために必要な知識を習得し、生涯を健康に過ごすために必要な知識を実践する能力を身につける。	
共通科目	スポーツ実技（テニス）	様々なスポーツやアクティビティを通じた“健康なこころとからだ”への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実践していく。テニスでは、基本的な技術練習を進めながら、最終的にはダブルスのゲームを楽しめるよう学習を進める。雨天時は体育館で授業を行うが、体育館の使用状況や人数的な条件から、テニス以外の種目となる場合もある。ウォーミングアップやクーリングダウンとして、ストレッチや簡単な筋力トレーニングも行う。	※実技
共通科目	スポーツ実技（フィットネス）	様々なスポーツやアクティビティを通じた “健康なこころとからだ”への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実施する。健康維持のキーワードは、体組成・心肺機能・筋力・柔軟性である。フィットネスの授業ではこれらの要素に注目し、理論的な学習も含めた実践を行う。具体的には、ストレッチング（柔軟性）、エアロビック（有酸素）、ストレングス（筋力）の３つのエクササイズを取り上げ、それぞれについての理解と実践力の獲得を目指す。理論的な講義も交えながら、Nordic Walkingや自重を利用した体幹トレーニング、またバランスボールなども利用して〝からだへの気付き〟をテーマに授業を行う。	※実技
共通科目	スポーツ実技（バレー）	様々なスポーツやアクティビティを通じた“健康なこころとからだ”への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実践する。この授業では、未経験者でもラリーが続きやすい軽量のローインパクトボールを使用し、基本技術練習、戦術的なプレーの練習、そして技術レベルに応じたゲームを楽しみながら学習する。６人制バレーボールだけにとどまらず、生涯スポーツとして盛んに取り組まれているソフトバレーボールも取り上げる。ウォーミングアップやクーリングダウンとして、ストレッチや簡単な筋力トレーニングも行う。	※実技
共通科目	スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）	様々なアクティビティを通じてコミュニケーション能力を涵養することは、より豊かな生活を送ることにもつながる。このような観点から、様々なスポーツやアクティビティを通じた “健康なこころとからだ” への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実施する。スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）は、夏期休暇中に両種目が開講される集中実技である。学内では経験できないスポーツにも触れることで、生涯に渡ってスポーツに親しみ、楽しむことのできる身体的教養を身につけることを目標とする。 ゴルフ担当　　（12　山中　博史） ボウリング担当　（18　北尾　岳夫）	集中、※実技
共通科目	スポーツ実技（キャンプ）	様々なアクティビティを通じてコミュニケーション能力を涵養することは、より豊かな生活を送ることにもつながる。このような観点から、様々なスポーツやアクティビティを通じた “健康なこころとからだ” への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実施する。 キャンプでは、キャンプ場という自然の中の非日常的な環境のもとで、仲間と生活を共にして様々な「体験」を積み重ね、「協力」「コミュニケーション」の大切さについて再考することをねらいとしている。また、原体験（火・石・土・水・木・草・動物・ゼロ）を通して、“生きる力” について再考することもねらいのひとつである。個性を持つ “人” が集まり同じ目標に向かって協力していく中で、“本当に必要なもの” について考える機会とする。	集中、※実技、共同

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	スポーツ実技（スノースポーツ）	様々なアクティビティを通じてコミュニケーション能力を涵養することは、より豊かな生活を送ることにもつながる。このような観点から、様々なスポーツやアクティビティを通じた “健康なこころとからだ” への気付きと実践力の獲得をテーマに授業を実施する。スキーもしくはスノーボードを安全に楽しむことのできる知識と技術を習得し、生涯にわたって活動できるフィールドを雪上へも拡げ、より豊かなスポーツライフを送ることのできる素養を身につけることを目標とする。	集中、※実技、共同
共通科目	日本語Ⅰ	この授業では、敬語表現を中心に場面別の会話を学習する。特に日常生活やビジネスシーンで応用できるような実践的な会話練習や簡単なスピーチを行うことで大学生として必要な日本語の能力を養うと同時に、それぞれの場面において的確な日本語を運用する力を身につけることを目指している。毎回の授業で簡単なロールプレイングの会話文を考え実演することで、場面ごとに使用される定型表現を定着させる。なお、この授業は外国人留学生対象科目である。	留学生対象
共通科目	日本語Ⅱ	この授業は、様々なタイプの文章を読んだり聞いたりして、自分の考えを述べるアクティブラーニング型の授業である。毎回の授業で行うグループディスカッションなどを通して意見交換を行う。ニュースや新聞記事などの内容を理解する力、リスニング力・自分の意見を正しい日本語で伝える力の他に、グループディスカッションにおいて話し合いをまとめ、円滑なコミュニケーションをとる力を身につける。なお、この授業は外国人留学生対象科目である。	留学生対象
共通科目	英語Ⅰ	この授業では、①身近な科学にまつわる文章を題材に、基礎的な語彙・文法を習得し、読む・書く力を涵養する。② 関連する実用的な表現を学び、聴く・話す力を涵養する。具体的には、科学に関する幅広いトピックを扱ったやさしめの英文を読み、英文読解の力を育む。また、英文で使用される表現を習得することでライティングやスピーキング力の向上を図るとともに、授業中に行う英文の聞き取りを通してリスニングの力を身につける。そして、総合的な英語力を高められるようになる。	
共通科目	英語Ⅱ	この授業では、①身近な科学にまつわる文章を題材に、基礎的な語彙・文法を習得し、読む・書く力を涵養する。②関連する実用的な表現を学び、聴く・話す力を涵養する。具体的には、様々な科学に関する英文のエッセイを読み、リーディングの力をつけると共に、英文中の表現を習得しライティング・スピーキング能力の向上を図る。また、授業内に予習で取り組んだ英文に関するリスニングの練習も行い、総合的な英語力を身につける。	
共通科目	フランス語Ⅰ	フランス語はファッションや料理、映画やアートなど、さまざまな分野で用いられている。フランス語を学ぶことは、こうした分野への関心や理解を深め、世界を広げることにつながる。この授業では、基礎的な文法の学習と会話練習を中軸とし、折に触れてフランス語に関係する分野に言及する。本講義を履修することにより、フランス語の基礎文法を身につけることができる。また、フランス語での簡単な会話ができるようになる。さらに、フランスの文化についても知ることができる。	
共通科目	フランス語Ⅱ	フランス語はファッションや料理、映画やアートなど、さまざまな分野で用いられている。フランス語を学ぶことは、こうした分野への関心や理解を深め、世界を広げることにつながる。この授業では、基礎的な文法の学習と会話練習を中軸とし、折に触れてフランス語に関係する分野に言及する。本講義を履修することにより、フランス語の基礎文法を身につけることができ、フランス語での簡単な会話ができるようになる。さらに、フランスの文化についても知ることができる。フランス語Ⅰで学習した内容をさらに深めていく。	
共通科目	中国語Ⅰ	発音はことばの基礎である。この授業ではテキストを中心に中国の共通語である「普通話」の発音、声調、発音符号を中心に基礎的な練習を重ねながら、基本文型、文法を学び、中国人とやさしい日常会話ができることを目標に授業を進めていく。また副読本も併用して、ことばを理解する背景としての”異文化”への理解を深める。本講義を履修することにより、中国語の基礎となる発音、文の仕組みを理解することができ、また、簡単な中国語会話ができるようになる。同時に、異文化への関心、理解も深めることができる。	
共通科目	中国語Ⅱ	中国語Iの履修者を対象に、テキストを中心に中国の共通語である「普通話」の発音、声調、発音符号を中心に基礎的な練習を重ねながら、基本文型、文法を学び、中国人とやさしい日常会話ができることを目標に学習を発展させていく。また副読本も併用して、ことばを理解する背景としての”異文化”への理解を深める。とくに、Ⅱでは、中国映画から学ぶ授業も計画している。本講義を履修することにより、中国語の基礎となる発音、文の仕組みを理解することができ、簡単な中国語会話ができるようになる。また、聞き取りもできるようになる。同時に、異文化への関心、理解も深めることができる。	
共通科目	キャリア基礎演習	本演習では、様々な業種や職種についての知識を身に付け、キャリア形成や職業人としての意識をどう持つべきかということについて考える。また、就職活動を進めるうえで必要な準備を整えることも目的とする。授業では様々なテーマでグループディスカッションを行う。 （オムニバス方式／全8回） （2　小山内幸治／1回）職業人意識について （5　江見和明／1回）キャリアとは何か （6　清水美里、1　河村梨花／2回）就職活動について （11 沖山圭子／1回）業界・企業研究の基本 （12 山中博史／1回）社会人基礎力について （13 田中裕之／1回）課題テスト （16 伊澤亮介／1回）就職活動の仕組み	8回授業、オムニバス方式、DLB・ビジ横断、一部共同

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	キャリアデザイン演習	１年次の「キャリア基礎演習」で学んだことを受けて、本演習では、さらに実際に社会人として組織で働くための心構えや考え方を身に付けることを目的とする。本学の卒業生や、企業担当者を招いて、いま企業でどのような人材が必要とされているのかを考える機会にする。 （オムニバス方式／全8回） （2　小山内幸治／2回）先輩から学ぶ、就職試験対策 （5　江見和明／2回）認知症サポーター、生活設計について （6　清水美里、1　河村梨花／2回）就職試験対策、キャリア形成 （16 伊澤亮介／2回）企業が求める人材、就職試験対策	8回授業、オムニバス方式、DLB・ビジ横断、一部共同
共通科目	環びわ湖単位互換科目	滋賀県内にある13の大学・短期大学は「環びわ湖大学･地域コンソーシアム」を結成している。ここに参加する大学・短期大学は、協定に基づき、単位互換制度を採用していることから、滋賀県内の他の大学若しくは短期大学が提供する科目が履修可能となっている。この単位を修得すると、本学の単位として認定される。「近江でのＳＤＧｓの実践」「地球の歴史と琵琶湖」「日本・京滋の食料と農業」といった滋賀県特有の内容をテーマにした科目や、各大学・短期大学で特徴的な科目などが受講可能で、2021年度は63科目が提供された。	単位互換
共通科目	生活文化入門	生活を豊かにするための知識や技術について学び、実習や演習により専門課程で必要な基本技術を身につける。食と健康では生活と健康の関わりについて食を通して理解する。製菓分野では滋賀県の有名企業でパティシェとして勤務経験のある教員により実習を行う。 ファッション分野では衣生活を彩る作品作りを行う。具体的には、つぎのような内容を取り上げる。 (オムニバス方式／全8回) （3　清水まゆみ／1回）食べ物と健康担当 （4　中平真由巳／1回）世界の主食―トウモロコシ編― （7　笹倉千佳弘 ／1回）自立するということ （8　石井明／3回）製菓実習 （9　山岡ひとみ／1回）給食ができるまでを知ろう （10 灰藤友理子／1回）日常で使う贈り物のマナー	集中（8回）、オムニバス方式
共通科目	子ども理解入門	様々な専門領域を持つ教員による授業の中で、乳幼児期の子どもに必要な保育・教育の基礎的な部分について講義を行う。また、保育者養成コースでの学びの流れや、保育者を目指す学生としての心構えについても説明する。具体的には、つぎのような内容を取り上げる。 （オムニバス方式／全8回） （18 北尾 岳夫／1回）保育学を学ぶ （19 深尾 秀一／1回）乳幼児期の造形遊び （20 柚木 たまみ／1回）ガイダンス （21 永久　欣也／1回）多文化共生の保育 （22 久米　央也／1回）幼児の中の算数 （23 松井 典子／1回）乳幼児期の音楽遊び （24 李（山田） 霞／1回）幼児期の教育について （25 三上　佳子／1回）遊びを通して子どもを知る	集中（8回）、オムニバス方式
共通科目	ビジネス入門	企業や医療の現場で勤務した経験をもつ教員が担当する。 本講義は、大きく分けて企業経営の基礎と、医療事務の基礎という２つの内容を柱にしている。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例を多く取り上げる。授業では様々なテーマでグループディスカッションを行う（アクティブラーニング）。具体的には、つぎのような内容を取り上げる。 （オムニバス方式／全8回） （2　小山内幸治／1回）ITとビジネス （5　江見和明／1回）企業経営の仕組み （11 沖山圭子／3回）医療機関、診療機関とホスピタリティ （13 田中裕之／1回）医療の言葉 （16 伊澤亮介／2回）クリティカルシンキング入門	集中（8回）、オムニバス方式
専門科目	データサイエンス入門	高度情報化社会の現在、暮らしの中には多くのデータが溢れている。近年、そのデータを正しく扱い、適切な方法で分析し、それらから導き出された情報を活用することの重要性が注目されている。本講義では、データに基づいて課題解決を行っていくデータサイエンスの入門編として、難しい数学は用いず、データサイエンスはどのような分野のどのようなことに役立っているのかを具体例を用いて解説する。本講義を、履修することにより、データサイエンスとはどのようなものであるかを、理解することができる。	
専門科目	データサイエンス応用	データサイエンスはデータに関する総合的な学問及び学術分野といえる。ただし、その対象となる領域は、データの分析や処理、活用方法など広範囲に及ぶ。本演習では、データサイエンスのうち、ビジネス分野で活用できるデータサイエンスの基礎を学び、EXCELを用いて、各種のデータ分析を行いながら、データサイエンスの基礎を学ぶ。本演習を、履修することにより、ビジネス分野でのデータサイエンスの活用方法の基礎を理解することができる。	
専門科目	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	ネットワーク環境下で、代表的なＯＳのひとつであるWindowsの基本的な操作を学習する。つづいて表計算ソフト「Excel」の実践的な使い方を習得する。具体的には、まずWindowsの基本操作、ファイルやフォルダの作成・保存・表示の方法などを学習し、「Excel」を用いて、文字やデータ・表などの入力・作成・編集を行い、簡単な計算やグラフの作成法等の学習を行う。この講義を履修することにより、以下のような能力が身につく。 ① Windowsの基本的な操作方法（起動・終了、ファイル操作など）を理解し、操作できるようになる。 ② 表計算ソフトウェアの基礎を理解し、実務レベルに近い使い方ができるようになる。 ③ 表計算ソフトウェアのデータベース的利用を理解し、データ検索ができるようになる。 ④ 表計算ソフトウェアにおけるグラフの作成方法を理解し、視覚的にも説得力のある資料を作成できるようになる。 ⑤ 具体的な応用事例を体験し実践的な使い方ができるようになる。	DLB・ビジ横断

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰで学習した表計算ソフト「Excel」について、更に高度な使い方を習得する。特に重要な機能である関数を中心に行う。具体的には、関数の基礎から始めて、数値計算、データの分析統計、日付時刻、条件分岐、財務などの関数を扱う。この講義を履修することにより、以下のような能力が身につく。 グラフを使いこなすことができ、具体的な事例に応用できるようになる。 ① 数値計算や統計について関数を用いて分析できる。 ② 関数を用いて財務計算ができる。 ③ 条件の分岐やデータベース機能が使える。 ④ 実務で利用する書式について理解し、作成できる。	DLB・ビジ横断
専門科目	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	講義と演習を組み合わせた授業形式の下、サンプル文書を基に「Word」上での文字入力・文書作成・文書編集等の基本的な操作を学習する。さらに、将来の実務に活用できるよう、各種機能を使った応用編としてのツール（媒体）作成にも触れる。また、ビジネス現場で相手によりよく、魅力的に伝えるための文章の書き方も指導する。教員の経験から授業には「広告・広報」の観点を導入し、日々の学習を通じてビジネスコミュニケーションの本質と現場感覚を体得できることを目指す。なお、この授業ではノートパソコンを使用し、社会的な状況によっては双方向型のリモート授業（Google classroom使用）を併用して行う。	DLB・ビジ横断
専門科目	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	IT企業に勤務し、実務経験を持つ教員が担当し、プレゼンテーション作成ソフトの基礎から最新の状況までを紹介する。情報化社会において、コンピュータを使った情報処理のスキルと知識は、日々の勉強や仕事だけでなく、日常生活の上でも必要不可欠となっている。本授業では、大学や企業において幅広く利用されているプレゼンテーションソフトを使って、基本的な情報処理知識および操作技術を習得する。	DLB・ビジ横断
専門科目	情報処理	コンピュータは、数値計算のみでなく、一般に情報とよばれる文字・文章・画像などを処理したり、それらを統合してマルチメディアとして処理する道具となり、今日の社会に広く普及している。本授業では、はじめに上記のコンピュータに関する基礎的な情報処理知識を修得する。そのうえで「情報」の本質・特徴について深く考察し、情報社会における諸問題を通して「情報」を適切に判断し活用する能力を育成する。また、適時実施するグループワークを通して、自分の意見を積極的に述べるコミュニケーション能力を育成する。	DLB・ビジ横断
専門科目	情報社会論	私たちは高度情報社会において社会生活を送っている。現代の市場経済社会では現実空間のみならず仮想空間において多数の売り手と買い手が取引をおこなっている。価格をはじめとした「情報」は、昔から市場における決定要素として重要な位置づけがなされていたが、それらを取り巻く環境に大きな変化が起こりつつある。これらの変化を見ていく上で、まず現代の情報メディアや情報端末が従来からの情報伝達メディアとどのような点で異なり、この変化をもたらすことになったのかについて明らかにする必要がある。それを解き明かすカギとなるのがアナログからデジタルへの変化である。また、広告との関連で情報を保存するメディア・情報を運ぶメディアについても解説する。急速にSNSが浸透し、ビジネスにおいても大きな影響を及ぼすようになっている。市場のEC化ひいてはソーシャル化にまつわる問題、それらがどのように進展し、社会をどのように変えてきつつあるのかを解説する。 Society5.0が生活やビジネスに及ぼす影響についても考察する。	
専門科目	経営学概論	本講義では、経営学をはじめて学ぶにあたり、企業とは何か、経営とは何かということを理解しやすいように、理論的だけでなく具体的な事例を紹介しながら勉強していく。企業が地域社会で果たしている役割、会社が機能する仕組み、会社同士のつながり・ネットワーク、従業員が頑張って働けるようにするための仕組み、消費者にモノやサービスを届けるための仕組みなど、様々なトピックについて学ぶ。企業経営をめぐる様々なテーマでディスカッションを行う（アクティブラーニング）。	DLB・ビジ横断
専門科目	簿記会計実務Ⅰ	簿記とは、企業規模や業種、業態に関係なく、会社における日々の経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする技能である。企業の経理部門で働くことを目標としている人、自分が勤める会社や取引先の経営状態を把握したいと思っている人に役立つ知識や技能を身につける。企業で働くうえで最低限求められるのは、一つひとつの仕事を確実に行うということである。簿記の多くのルールや知識を理解し、記憶し、それらを使って作業を正確に行う重要性を理解する。	DLB・ビジ横断
専門科目	ビジネス法規入門	JASRACで14年勤務し、音楽著作権の実務及び立法にも参加、毎日放送で23年知的所有権を中心としたコンテンツ（番組、映画、アニメ、音楽、イベントなど）ビジネスに従事していた教員が担当する。その間、必要となり自ら学んだ法律についてわかりやすく授業を進める。社会生活を営むうえで、自分を守ってくれるものが「法律」であることを学ぶ。マンガやドラマ、映画でも法律を扱ったものが多くある。普段気になっていること、新聞やテレビなどで気づいたこと、疑問などをテーマとして持ち寄り、法律の種類、歴史、仕組み、用語などが身につくよう実務経験に基づき講義を進める。	DLB・ビジ横断
専門科目	日本語表現	実践的な文章を作成する演習を中心に進める。毎回の授業で提示するテーマや場面に沿った作文作成を通して、大学生・社会人として必要な日本語の表現力を身に着けることを目指す。具体的には、紹介文などの課題作文の他、目的に応じたメール文の作成といった実践的な作文能力を身につける。最終的には、小論文やレポートの作成をすることで、文献や資料を探して読み解く力、論理的に自分の意見を表現する力を身につける。	
専門科目	ウェブデザインⅠ	デザイン業務全般のディレクションに携わる経験を持つ教員が、その経験を反映させ、WEBデザインの基礎から最新の状況までを紹介する。人々の日常に密接した存在となったWEBについて、そのアウトプットとなっているWEBサイト・WEBページの構造を理解するとともに、情報編集・発信のツールとしてWEBサイトをデザインするための基本スキルを身につける。情報編集・発信に伴い知的所有権、倫理に反していないかを常に検証する。具体的にはWEBページ記述言語の最も基本となるHTMLの学習から、既存のWEBサービスを利用した情報の取り扱い、発信を広義のデザインとして捉え、デザイン性の高いWEBページ制作を行う。スマートフォン閲覧も視野に入れた制作を目指す。	DLB・ビジ横断

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ウェブデザインⅡ	ウェブサイト作成ソフトを用いてウェブサイトを作成し、ウェブデザインの実際を学ぶ。ウェブデザインの一連の作業工程を理解したうえで、各自が選んだテーマに沿ったウェブサイトを作成する。どのようなデザインにすれば利用する人にとって使いやすいサイトになるのかを十分に考慮し、また、近年利用者が多くなっているスマートフォンやタブレット型端末での閲覧にも対応できるようなデザインへの配慮についても取り上げる。	DLB・ビジ横断
専門科目	プログラミングⅠ	IT企業に勤務した実務経験を持つ教員が担当し、大学や企業において幅広く利用されている表計算ソフトを使用して、基本的な情報処理知識および操作技術を習得する。パソコンを用いた情報処理に関する演習のより高度なレベルを目標とした授業である。１回生時に学習してきたExcelの知識を使って、Excelの応用的な操作方法のマクロ機能を中心に学ぶ。そしてマクロ機能の中身であるVisual Basicを把握する。	DLB・ビジ横断
専門科目	プログラミングⅡ	Python（パイソン）は汎用性が高く、Javaと並び人気の軽量プログラミング言語である。データ解析/分析、機械学習/AI（人工知能）、GPUコンピューティング、IoTなど、Pythonはあらゆる分野の標準言語となっており、Googleをはじめ様々なクラウドサービスから数多くのAPIが提供されている。近年その応用分野はさらに拡大しており、Pythonのスキルが広く求められている。本科目ではPythonの基礎知識を学び、Pythonプログラミングを通して代表的なAPIやサービスの活用方法を身につける。	DLB・ビジ横断
専門科目	CG演習	この授業は、映像作家、映像デザイナー（作品発表、映像コンペ審査員、受賞歴あり）の教員が担当する。現在、映像、医療、建築など、多彩な分野で驚くほど大量の3DCGが溢れており、最近では3Dプリンターや、3Dプロジェクション・マッピングという言葉が流行している。しかし、3DCG作品を実際に制作したり、三次元の感覚を理解している人材はとても少ない。絵画やイラストなどと違い、感覚だけでは対応しきれない「技術」が必要だからである。この授業では毎週3DCG作品を制作しながら、新しい感覚を養い、育てていく事を目標とする。	DLB・ビジ横断
専門科目	マルチメディア演習	この授業は、映像作家、映像デザイナー（作品発表、映像コンペ審査員、受賞歴あり）の教員が担当する。はじめに、マルチメディアとはなにかを学ぶ。さらに文字、静止画像、動画、音楽についての基礎理論と、それを処理するためのソフトウェアを用いた実習を行い、理解を深める。最終的にそれらを統合したマルチメディア作品（映像作品）を作成し、提出する。（※写真・実写・アニメーション・サウンドを駆使して、映像作品を作る。）	DLB・ビジ横断
専門科目	SNSⅠ	本科目では、SNSを用いた情報発信の方法について、具体的に学ぶとともにSNSマーケティングの考え方や運用方法をはじめ、炎上など危機管理などの基本事項を学ぶ。Youtube 、Instagram、Twitter、Facebookなどへの投稿方法や、戦略立案を含むSNSのさまざまな活用方法、運用企画の基本について先端事例を取り上げる。また、SNS広告における基礎知識から戦略設計、広告の出稿方法、さらに、SNSキャンペーンの目的や種類、そしてそれらの注意事項などを確認し、SNSレポートの活用方法や作成方法についても実例をもとに学習する。本講義を受けることにより、SNSを用いた情報発信、SNSマーケティングの基礎を身につけることができる。	
専門科目	SNSⅡ	本科目では、SNSⅠで学んだ内容をもとに、個人やグループでSNS活用のための設計、計画を行い、実際にSNSで情報発信を行う。危機管理方法も十分に確認したうえで、Youtube、Instagram、Twitter、 Facebookを用いて、ハンドメイドデザインⅠなどで作成した作品の販売のための情報発信などを通じてSNSマーケティングの実際を体験する。本講義を受けることにより、SNSを用いた情報発信を行い、SNSマーケティングを実際に活用する技術や方法を身につけることができる。	
専門科目	SNS起業プロジェクト	企業に就職することだけが収入を得る手段としての選択肢ではない。自ら起業家となって、市場ニーズを見出し、必要な資金や人材を集め、新製品や新サービスを顧客へ提供する道もある。起業は成功率の低さにおいてリスクが高いとされているが、必要な知識を体系的に学習し実践することで成功確率を高めることも可能である。この授業では、インターネットビジネスで学んだ内容をもとに実際にインターネット上に企業を起ち上げる。そのためにビジネスアイディアからビジネスプランを作成し、実際の事業の立ち上げと展開、組織作り、マーケティングなど一連の企業の流れを体験する。この授業を履修することにより、ネット企業を起ち上げるための知識やスキル、ノウハウを身につけることができる。	
専門科目	デザイン論	この授業では、そもそも「デザイン」とは何かを知ることからスタートし、あらゆる分野において活用可能な、デザイン全般における基礎知識と見方・考え方を学ぶ。また、本講師の現代美術作家及びデザイナーとしての両経験を元に、グラフィックデザイン分野における仕事としてのデザインについて、またデザインとアートやイラストとの関係性についても説明する。デザイン的思考を活かした企画提案が求められる。	DLB・ビジ横断
専門科目	ファッションデザイン	ファッションデザイナー実務経験10年以上の講師が学んだ、ファッションデザインにおける基礎知識と技術を習得しながら、『表現することを楽しもう!!』をテーマに、ファッションデザインが作り上げられていく過程を学ぶ。また、着心地の良い衣服の条件・ジャンル別のコーディネートの基礎知識を修得する。自己分析後、自分に似合うファッションデザインを考案し、その考案したファッションをコラージュ技法で使って表現することで、個性的に発想し、楽しく表現力が身に付く。	
専門科目	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ	被服製作実務経験10年以上の講師が学んだ知識や技術を取り入れながら『楽しく服を作る！！』をテーマに、楽しく服作りの基本を学んでいく。〝自分サイズのかわいいスカートとトップス(ブラウスまたはシャツ)〟をデザイン・パターンメイキング・仮縫い・試着・補正・本縫いを経て作品を製作し、トータルコーディネート(アクセサリー・靴など)を考え着装する。製作をとおして、服作りの基礎的な知識や構成方法・縫製技術を習得し、コーディネートの楽しさを学ぶ。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	被服製作実務経験10年以上の講師が学んだ知識や技術を取り入れながら『楽しく自分らしい服を作る!!』をテーマに、楽しく服作りを学んでいく。〝自分らしいワンピースドレス〟のコンセプトを考えデザインし、素材探し・裁断・仮縫い・試着・本縫い(服製作)・小物製作(ヘッドドレス又はアクセサリーなど)を経て製作実習をし、カタチ(作品)に表現する。デザインコンセプト、コーディネートについてプレゼンテーションする。授業を通して、イメージとデザイン要素(色・素材・カタチ)との関連性を探求し、服作りの高度な知識や技術を習得し、着心地の良い服の条件や表現能力、ジャンル別のコーディネート力を楽しく学ぶ。	
専門科目	ハウスプランニング	住まいは、食事の場であり、休息の場であり、家族のだんらんや文化を伝えていく場でもある。住まいは私達の生活をいれる“器”である。豊かな生活を送るためには、住まいの質を向上させるとともに、「いかに住まうか」ということが大切である。そのために、現実の住宅事情や望ましい住宅のあり方などの基本的な知識を学習し、各自が自分自身のライフスタイルとそれを実現できる住まいをきちんとイメージできることをめざす。この科目では将来の自分の生活を推定し、それにふさわしい住まいと住生活を考える。具体的には、20年後の自分の家族、職業、日常生活等を考え、その生活を送る場としての住まいの平面計画、インテリアデザイン、生活様式を考える。平面図を描き、家具を置いて、着彩したり、家族が過ごすLDKの模型を作成し、プレゼンテーションを行う。	
専門科目	インテリアデザインⅠ（理論）	本授業は、建築史、建築の構造について理解し、各室の設計の基本と計画を学び、それを踏まえてインテリア業界の全体像や仕事内容について把握していく。インテリアデザインに必要な色彩計画、照明 計画、モデュール、構造、仕上げ、材料、法規といった、インテリアを計画するための基礎知識を修得する。また、クライアントとコーディネーターの立場になってヒアリングからプレゼンテーションまでをシミュレーションし、顧客の要望、計画者の視点を考える。	
専門科目	インテリアデザインⅡ（演習）	身近な“もの”や“空間”に関心を持ち、住まい方や空間に対する感性を磨いて住宅・インテリア図面の読み方・描き方を、手を動かして学ぶ。演習では、人間が主に生活の場とする室内空間を、生活する人間の立場で捉えることを基本に、図面着彩、スケッチパース、起こし 絵製作、模型製作などを行う。演習を通じて寸法感覚を養い、優れた空間構成を身につけて図面を読み取り、表現する（描く・実 際にモノをつくる）力を修得する。	
専門科目	ハンドメイドデザインⅠ	ハンドメイド実務経験10年以上の講師が学んだ知識や技術を取り入れながら『くらしを彩り、心を癒す身の回りの小物を作る!!』をテーマに、身近にある素材や小物をちょっとしたアイデアで、オリジナリティー溢れるハンドメイド雑貨を製作実習する授業を行う。製作後には、自身の作品についてプレゼンテーションする。実習をとおして、デザイン力を育み、モノづくりの楽しさとハンドメイドの各種技法を学び、色やデザイン構成からくらしと心を豊かにするために独自の発想力や表現力、想像力を高め、今後のモノづくりへの視野を広げていく。また、製作を進めていくことで、真心を込めて、丁寧に取り組む姿勢を養い、クオリティの高い作品を仕上げる力を養う。	
専門科目	ハンドメイドデザインⅡ	ハンドメイド実務経験10年以上の講師が学んだ知識や技術を取り入れながら『くらしを美しく華やかに彩る、エレガントな小物を作る！！』をテーマに、自分好みのオリジナリティー溢れるエレガントな作品を製作することができる。製作後、自身の作品についてプレゼンテーションする。実習を通して、デザインの表現力・デザインを考えるプロセスが養い、モノづくりの楽しさと各種技法を学び、色やデザイン構成から暮らしと心を豊かにするために独自の発想力や想像力を高め、今後のモノづくりへの視点を広げることができる。また、製作を進めていくことで、真心を込めて、丁寧に取り組む姿勢を養い、クオリティーの高い作品を仕上げる力を養う。	
専門科目	ネイルアートデザインⅠ	ネイルには、その人を明るくさせ、見た人に元気な印象を与えることもできるトータルファッションの一部として社会の関心も高く、ビジネスエチケットとして定着しつつある。その為、ファッションやビジネスシーンとの関わりを理解し、ネイルの歴史や爪の構造・ネイルケアやネイルアートの基礎知識や技術を学び身に付ける。『楽しく美しいネイルケア!!』をテーマに、自由な発想でデザインし、ネイルチップに作品を製作する。製作後、デザインコンセプト、コーディネートについてプレゼンテーションする。実習を通して、ネイルケア・ネイルアートの基礎を習得し、お手入れの基本・デザインの表現力・デザインを考えるプロセスを養う。	
専門科目	ネイルアートデザインⅡ	ネイルアートデザインⅠの授業で身に付けた基礎知識や技術を活かし、ジェルアート技法の基礎知識・安全に丁寧な技術を習得する。そして、サロンワークに必要なハンドトリートメントの基礎知識・技術学び、グループワークをする。『ジェルアートの楽しさを知る!!』をテーマに作品表現を高め、幅広い創造・感性を高めて作品を製作する。製作後、デザインコンセプト、コーディネートについてプレゼンテーションする。実習を通して、ジェルアートの基礎技術を習得、デザインの表現力・デザインを考えるプロセスを構築し、サロンワークのハンドケアなどの基本を身に付けていく。	
専門科目	映像デザインⅠ（実習）	SNSなどで、コミュニケーションツールとしてコンピュータが用いられるようになって、個人の映像を中心としたデジタルコンテンツ制作が一般化しつつある。このようななかにあって、この演習では、個人またはグループで、動画撮影の技術やスキルを、実際に機器を使用しながら学ぶ。また、動画制作の立案や計画、編集方法の基礎について学習する。本演習を、履修することにより、デジタルコンテンツ制作の基礎を身につけることができる。	
専門科目	映像デザインⅡ（実習）	映像デザインⅠで学んだ内容をもとに、Youtube、Instagram、Twitterなどで情報発信するための、映像作品の制作を行う。各自、各グループでどのような映像を制作するかを立案・計画し、それに基づいて、撮影を行う。また、Aftereffectを用いて編集を行い、作品を完成させる。完成した作品は、SNSなどで公開することを前提として作成を行う。本演習を、履修することにより、デジタルコンテンツ制作のノウハウを身につけることができる。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ショップマネジメントⅠ	コンサルタントして数多くの店舗の経営支援に携わった経験を有する教員が、実践事例を折り込みながら授業を行う。販売士３級資格試験に出題される５科目（（１）小売業の類型、（２）マーチャンダイジング、（３）ストアオペレーション、（４）マーケティング、（５）販売・経営管理）を学ぶ。各科目の終わりに小テストを実施して、知識の定着を図る。できるだけ学生の皆さんにとって身近な事例やニュース、参考になる事柄を例に楽しく勉強できる環境づくりに努める。具体的なマーケティングに関わる事例を取り上げてグループディスカッションを実施する。	DLB・生活・ビジ横断
専門科目	ショップマネジメントⅡ	コンサルタントして数多くの店舗の経営支援に携わった経験を有する教員が、実践事例を折り込みながら授業を行う。販売士2級資格試験に出題される5科目（（1）小売業の類型、（2）マーチャンダイジング、（3）ストアオペレーション、（4）マーケティング（5）販売・経営管理）を学ぶ。各科目の終わりに小テストを実施して、知識の定着を図る。できるだけ学生の皆さんにとって身近な事例やニュース、参考になる事柄を例に楽しく勉強できる環境づくりに務める。具体的な店舗管理に関わる事例を取り上げてグループディスカッションを実施する。	DLB・生活・ビジ横断
専門科目	ビジネスマナー	職場では、周囲の人達からの信頼や協力を得ることなく業務を遂行することはできない。年齢や立場の異なる多くの人達と良好な人間関係を築くためにビジネスマナーは不可欠である。どのような職種においても必要とされるビジネスマナーの知識を深め、実践できることを目指す。職場での言葉遣いや立ち居振る舞い、電話応対や来客応対、冠婚葬祭や文書作成等についてロールプレイングを交えながら身につけ、さらに業務に近いかたちを想定したインバスケット方式での演習に取り組み、職場で必要とされる判断力や状況対応力を養成する。ビジネスマナーの知識やスキルを基盤に、組織内で協働することの重要性を体験的に学ぶ。	
専門科目	アントレプレナー論	アントレプレナーは「起業家」と訳される。つまり、いわゆる「経営者」とは異なり、新しく事業を起こす人を意味している。新しいビジネスを起こすためには、独創的なビジネスアイディアを発想し、最新のテクノロジーを活用することが必要である。アントレプレナーシップとは「起業家精神」と訳される。「起業家」が新たに事業を起こす人と書いたが、この「起業家精神」は今日仕事をする上ですべての人に必要とされるマインドであると言える。昨今の新型コロナウィルスの感染拡大は、企業を取り巻く環境を大きく変えた。これまでのやり方が通用しなくなってきている。今こそ、現状を打破するために「起業家精神」が必要である。この授業ではアントレプレナーとアントレプレナーシップの両面から考えていく。	
専門科目	インターネットビジネス	インターネット上で行われているビジネスの仕組みについて理解し、インターネットビジネスにはどんな可能性があるのかについて学ぶ。また、現在行われているインターネットビジネスの成功例、失敗例を学ぶことにより、インターネットビジネスが求められているもの、インターネットビジネスの限界などについて学び、インターネットビジネスへの理解を深める。さらに、インターネットビジネスを行う際に必要となるインターネットマーケティングの基礎や関連法規などについても学び、実際にインターネットビジネスを起ち上げる際に必要な最低限の知識を身につける。	
専門科目	イベントプロデュース論	放送局で長年在籍した教員が、イベント企画・制作・実施・運営した経験をもとに解説し、実学・現場学を身につけるよう指導する。イベントには大小ある。家族・友人の誕生会から、学園祭、展覧会、講演会、バザー、コンサートなどなど。人々はイベントに日常ではなく非日常を求める。素晴らしく、心に残るイベントに作り上げるのはプロデュースという裏方の仕事である。身近なイベントに目を向けながら、その背景（「ヒト」・「カネ」・「モノ」そして「思い」）をイメージし、現場実習を経てイベント企画、プレゼンテーションを完成させる。	
専門科目	イベントプロデュースプロジェクト	放送局に長年在籍した教員が、イベント企画・制作・実施・運営した経験をもとに、実学・現場学を身につけるよう指導する。イベントプロデュースで学んだ内容を活かし、実際に学内イベント（純美禮祭のイベント）を企画・立案・実施する。これにより、企画・運営・演出・進行・手配関係といったセグメントを1つのテーマで結びつけ、新しいアイデア、高いクオリティでイベントをトータルプロデュースする力を身につけることができる。	
専門科目	ファッションマーチャンダイジング	ファッションを単に表層的な世界と捉えず、文化学、社会学、心理学、マーチャンダイジングを含めた横断的な視点から学ぶ。また、ファッションが社会を揺さぶり、産業や生活を豊かにする「大いなる平和産業」であることについても考察を深める。ファッション文化と向き合うための新情報(ファッションショー、ブランドマーチャンダイジング、ショップリサーチ、ファッション専門誌)を示しながら、実際にアパレル企業で行う実務業務を授業で行う。	
専門科目	ライフ・ファイナンシャルプランニング	終身雇用制や年功序列賃金制の崩壊、少子高齢化など昨今の経済・社会環境は急激に変化している。もはや、国や企業が守ってくれるとは限らない。自己責任・自助努力が求められる。自立して生きていくためには、家計の現状を把握し、目標・計画を立てる準備が必要。これがファイナンシャル・プランニングである。また、そのために、自分自身のライフプランを描くことが涵養できる。この授業では、自分自身のライフプランを作成するとともに、財政的裏付けを行うためにファイナンシャルプランも作成する。	
専門科目	フードコーディネート論	現役のホテルサービスマンと日本料理･西洋料理･中国料理の各料理長による食の専門知識の講義を行う。食文化の歴史や現代のニーズ、体験談を踏まえ授業をする。後半は将来必要となりうるマネジメント目線での基礎知識を学習する。アクティブラーニングとしてホテルの施設見学を実施し、テーブルセッティングの基本や飲食サービス業務を学習する。 （オムニバス方式／全15回） （47 弓削高広／8回）ホテルサービスなど全体を担当 （48 濱地紳一／3回）日本料理担当 （49 海津比呂可／3回）西洋料理担当 （50 馬場知也／1回）中国料理担当	DLB・生活・ビジ横断、オムニバス方式

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	フードライフデザイン（食品と栄養）	食物の摂取は健康の保持・増進と密接な関係にあり、栄養素の量と質が適正でなければならない。そのためには栄養と健康を関連づけた知識を身につける必要がある。本講義では栄養素の種類、性質・機能、消化と吸収、エネルギー代謝など、基本となる項目を解説する。また、食品の一般成分である水分、炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラルの構造や特性を説明する。これらの知識を基に、食品の色や味、香りなどの嗜好成分、食品の物性や成分の変化、成分間の反応などについて理解する。	
専門科目	フードライフデザイン（調理と文化）	食文化とは民族が歴史の中で形成してきた食に関する価値観と生活様式である。この授業では、各地域の食文化を決定する背景となってきた気候や風土などの環境的要因、文化や歴史を理解して食文化の価値や意義について考察する。調理面からは経験的に伝承されてきた調理技術を理論によってひも解き、料理をいつもおいしく再現性のあるものにする『調理のコツ』を科学で学ぶ。食について考えることは人や自然、環境について思いを寄せることにつながる。食を通して自然との付き合い方、持続可能な食環境について理解を深め、『共に生きる』をテーマに授業を行う。	DLB・生活横断
専門科目	フードライフ実習Ⅰ	「調理」は創造的な仕事であり生活に楽しみや潤いを与えるものである。真に豊かで健康、幸せな生活を築くうえで食事の果たす役割は大きい。この授業では、日常の食事作りが出来るようになることを目指し、食品素材の扱い方、煮る、焼く、揚げる等の調理操作を中心とした基本技術を学ぶ。また、日本料理、西洋料理、中国料理やエスニック料理の特徴と基礎的な調理操作を日常の食卓に取り入れ、手作りで簡単、おいしく健康的な食事作りを身につける。テーブルセッティングやコーディネートなどの雰囲気作りも大切に、楽しい食卓づくりを目指す。	8回授業、DLB・生活横断
専門科目	フードライフ実習Ⅱ	「食生活」は人が幸せに生きていくための基盤となるものである。フードライフ実習Ⅰの基本的な調理技術を基に季節の食材を取り入れた料理や行事の食事、諸外国の料理、滋賀県の郷土料理などを作り、食習慣・食事様式などを食文化と共に味わい理解を深める。滋賀県の郷土料理では「祭りのすし」「地域の特産野菜」「みそと豆腐」などのテーマを設定して学び、食品の加工技術から保存食の知恵と技術を理論と体験を通して身につける。また、料理や発達段階、年齢や健康状態に応じた食事作りにも取り組む。祖先が培ってきた食の知恵を取り入れて持続可能で豊かな食文化のある暮らしを未来に残し、健康的でおいしく楽しいフードライフを目指す。	8回授業、DLB・生活横断
専門科目	カラーコーディネート論	ファッションデザイナー実務経験10年以上の講師が学んだ色の知識や色の配色、カラー心理等を取り入れながら授業を行う。『色』の基礎から応用までとPCCSを利用してTONEを作り、美しく見える配色方法、快適にすごせる配色など、色彩検定テキストを使い学んでいく。また、『色』の心理的効果により、疲れが取れる色・ダイエットに効く色・ストレス解消する色・勉強 が捗る色などのテーマを設定し、グループワークをする。身の回りにある美しい配色をフィールドワークをし、毎回、リアクションペーパーに記入し、色について研究をする。カラーコーディネート実習を通して色の知識を身につけ高めることで、日常生活の中で自由に表現し活用できる色彩知識を修得する。	DLB・生活横断
専門科目	きものコーディネート	被服製作実務経験10年以上の講師が学んだ知識や技術を取り入れながら、『おしゃれにきものを楽しく美しく着る！！』をテーマに、日本の伝統衣装である『きもの』文化の継承と基本的な知識・技術を学び、浴衣を製作実習する。たたむ・保管する・着物(浴衣)の着付け・帯結びを習得し、自分で着ることができ、着物での立ち振る舞い、着物の所作を学び、身に付ける。その後、着物の着付・帯結びのペアワーク(作業型)とプレゼンテーションを行う。	
専門科目	ラッピング演習	一般社団法人全国製菓衛生師養成施設協会の認定を受けたパティスリーラッピング検定の取得を目指す演習である。ラッピングは商品価値を高める大切な要素であり、ショップの品格を左右するものと言われている。単に商品を包むことではなく、「ラッピングは相手へのおもてなし」と心得て、日本や西洋の贈り物の知識、常識を学び、基礎・技術を身につける。ラッピングには様々な方法があるが、1つ1つを正確に丁寧に取り組み、くり返し練習する。その際グループで互いに確認し、チェックする。授業終了後に実施する筆記試験、実技試験に合格することで、パティスリーラッピング検定の資格を取得できる。	DLB・生活横断
専門科目	染色演習	わたしたちを包む衣服は布から出来ており、その多くの布は美しい色で彩られている。本授業では、色落ちしにくいスレン染料や染着性抜群のリアック染料による染色実習などを通じて、天然染料、化学染料を用い染料の扱い方や模様や柄のつけ方等基本的な染色の技法を学び、人間と染色文化のかかわりを学ぶ。布を身近な染料で染め発色や模様つくりの感動を味わうことで、染めた布を使ってのものつくりの楽しさ、染色の楽しさを知り、ものづくりに染色を応用できる力を身につける。	隔年開講
専門科目	生活学概論	私達一人ひとりが、生活者としてよりよい生活を実現するために、生活を営むとはどのようなことかを学ぶ。生活の主体である家族について、その構成や機能の歴史的な変遷を概観し、現代の家族の特徴や課題を理解する。また、欲求実現の手段としての生活資源について知り、その管理方法について、生活時間を例として学ぶ。さらに、生活資源として不可欠なお金について、ライフステージと家計の実態を家計調査のデータをもとにその特徴を理解し、自身の将来設計に結びつける。	DLB・生活横断
専門科目	マーケティング	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶとともに、製品戦略から事業戦略へ、さらに企業戦略へと拡大しているマーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得することを目的とする。伝統的なマーケティング諸概念に加え、SNSマーケティング・脳科学マーケティング・コンテンツマーケティングなど今日的なトピックについても適宜取り上げる。本科目を履修することにより、マーケティングの理論と実務について具体的に理解することができる。	

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	インターンシップⅠ	企業における勤務経験をもつ教員等が担当する。事前指導で、職場でのマナーや心構えをしっかり学んだうえで、基本的に5日間のインターンシップに参加することとする。インターンシップ後には、事後指導として、学んだ内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションする。受講生は、自らが希望する企業での就業体験をとおして、将来の進路選択に資する理解とキャリアに関する意識を高める。	集中、DLB・ビジ横断、共同
専門科目	インターンシップⅡ	企業における勤務経験をもつ教員等が担当する。事前指導で、職場でのマナーや心構えをしっかり学んだうえで、基本的に5日間のインターンシップに参加する。インターンシップ後には、事後指導として、学んだ内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションしてもらう。受講生は、社会生活や職業生活に必要とされる能力や基礎的な技能は何であるかを体感し、それらの獲得のために主体的な行動ができるようになる。	集中、DLB・ビジ横断、共同
専門科目	地域貢献演習Ⅰ	本講義では、①地域におけるボランティア活動などへの参加を通して社会貢献の意義を理解できるようになること。②地域企業などとの連携事業に参加し、実践力を身に着けるとともに、社会で必要とされる能力を理解できるようになること。そして、③地域の住民とのコミュニケーションをとることにより、郷土意識を高めることを目的としている。今日、地球環境を守りながら、貧困、飢餓、格差のない豊かな社会を実現することが目標とされており、企業にもそうした考えに基づいた活動が求められている。この授業を通じて、社会や地域に貢献することにどのような意味があるのか、仕事を通じてどう人の役に立てるのかを考える。	集中、DLB・ビジ横断、共同
専門科目	地域貢献演習Ⅱ	地域企業との連携事業や地域のボランティア活動、地域の行事への参加（アクティブラーニング）をとおして、これまでに培った知識とスキルを実際の地域貢献の場で生かし、指導者やスタッフの一員として、地域の方や企業の人達とコミュニケーションをとりながら実践する。また、事後に、この経験のノウハウや改善点を蓄積するためのミーティングをgoogle classroomなどを活用して行い、意見交換を行うとともに記録を蓄積する。この講義を履修することにより、以下のような能力が身につく。 ①地域におけるボランティア活動などを通して社会貢献活動を体験し、社会貢献の意味を理解することができる。 ②地域企業などとの連携事業に参加し、実践力を身に着けるとともに、社会で必要とされる能力を理解することができる。 ③地域の住民とのコミュニケーションをとることにより、郷土意識を高めることができる。	集中、DLB・ビジ横断、共同

滋賀短期大学学則

第１章　総　則

（目的）

第１条　本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、心技一如の建学の精神の基に、豊かな教養と実践的な専門の知識と技術を授け、もって社会の発展と文化の向上に貢献する人を育成することを目的とする。

（目的達成と評価）

第２条　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

２　本学は、教育研究等の総合的な状況について、学校教育法施行令第 40 条で定める期間ごとに、文部科学 大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受ける。

３　前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については、別に定める。

第３条　本学は、授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。

２　前項の委員会に必要な事項は、別に定める。

（名称及び位置）

第４条　本学は、滋賀短期大学と称し、滋賀県大津市竜が丘 24 番４号に置く。

第２章　学科、学生定員及び修業年限

（学科及び学生定員）

第５条　本学に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
生活学科	人 80【10】	人 160【20】
幼児教育保育学科	100	200
ビジネスコミュニケーション学科	120【20】	240【40】
デジタルライフビジネス学科	(30)	(60)
合　計	300【30】	600【60】
（備考）デジタルライフビジネス学科は、短期大学設置基準(昭和 50 年文部省令第 21 号)第３条の２に基づく学科連係課程実施学科であり、その入学定員及び収容定員は、連携協力学科の内数として（ ）内の数とし、連携協力学科に係る内数は【 】内の数とする。		

２　前項の各学科における人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。

（１）生活学科は、生活に関する専門の知識と技術を授け、科学的な視点から生活を捉える姿勢を養い、家庭及び社会でより良い生活を提案できる能力をもった人材の育成を目的とする。

（２）幼児教育保育学科は、幼児教育保育に関する専門の知識と技術を授け、時代や社会の要請に応え得る幼稚園教諭や保育士等の人材の育成を目的とする。

（３）ビジネスコミュニケーション学科は、ビジネスに関する専門の知識と技術を授け、社会で即戦力となるビジネス実務能力とホスピタリティマインドをもった人材の育成を目的とする。

（４）デジタルライフビジネス学科は、生活とビジネスの基礎及び、データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野に関する専門の知識と技術を授け、高度なデジタル社会の中でそれらを活かして活躍できる人材の育成を目的とする。

（修業年限）

第６条　本学の修業年限は、２年とする。ただし、在学年数は４年を超えてはならない。

第３章　学年、学期及び休業日

（学年）

第７条　学年は、毎年４月１日から翌年３月 31 日までとする。

（学期）

第８条　学期は、次の２期とする。ただし、必要がある場合、学長は前期及び後期の期間を臨時に変更することができる。

前期　　４月１日から９月 30 日まで

後期　　10 月１日から翌年３月 31 日まで

（１年間の授業期間）

第９条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

（休業日）

第 10 条　休業日は、次のとおりとする。

（１）日曜日及び土曜日
（２）国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
（３）学園創立記念日　５月 10 日
（４）夏季休業
（５）冬季休業
（６）春季休業
２　前項第 4 号から第 6 号の休業の期間は、学長が別に定める。
３　第１項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。また、休業日においても、学長が必要と認める場合は、授業及び試験を行うことができる。

第４章　入学、退学、転学、転科、休学、復学、留学、除籍及び復籍

（入学資格）
第 11 条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。
（１）高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
（２）通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）
（３）外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（４）文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が別に定める日以後に修了した者
（６）文部科学大臣の指定した者
（７）高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
（８）個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達した者
（入学の時期）
第 12 条　入学の時期は、学年の始めとする。
（入学選考）
第 13 条　入学志願者については、調査書、学力検査、面接等により総合判定のうえ選考する。
（転入学、再入学）
第 14 条　次の各号の一に該当する者で、本学に転入学又は再入学を願い出た者があるときは、選考のうえ相当の年次に入学を許可することがある。
（１）他の大学に在学中の者で、本学に入学を志願する者
（２）本学を退学した者で、再入学を志願する者
２　前項第１号に該当する者は、その大学の学長の承諾書を添えて願い出なければならない。
（入学手続）
第 15 条　前２条の規定による選考に合格した者は、別に定めるところにより、入学手続きをしなければならない。
２　前項の手続きをした者に入学を許可する。
（退学、転学）
第 16 条　退学又は他の大学に転学しようとする者は、理由書を添えて学長に願い出て、許可を受けなければならない。
（転科）
第 17 条　他学科に転籍を希望する者があるときは、選考の上、学長が許可することがある。
２　転科について必要な事項は、別に定める。
（休学）
第 18 条　病気その他の理由により、引続き２月以上就学することができない者は、休学願を提出し、学長の許可を受けて休学することができる。ただし、休学期間は学年を超えてはならない。
２　休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の理由があるときは、さらに、１年以内の休学を許可することがある。
３　休学期間は、在学年数に算入しない。
４　学長は、病気のため修学に適しないと認める者に対し、休学を命ずることがある。
（復学）

第 19 条　休学期間中であっても、その理由が消滅したときは、復学願を提出し、学長の許可を受けて復学することができる。
（留学）
第 20 条　第 33 条第２項の規定により、外国の大学等で履修するため留学を志願する学生は、書面をもってその旨を学長に願い出て、その許可を受けなければならない。
２　前項の規定により留学した期間は、第６条（修業年限）に規定する修業年限に通算する。
（除籍、復籍）
第 21 条　次の各号の一に該当する者があるときは、除籍する。
（１）授業料その他この学則に規定する学費の納付を怠り、督促されても、なお、納入しない者
（２）在学年数が４年におよんでも、なお、所定の履修が終わらない者
２　前項第１号の規定により除籍された者で、復籍を希望する者は、復籍願を提出し、学長の許可を受けて復籍することができる。
（１）復籍を許可された者の既修得授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、学長が決定する。
（２）復籍について必要な事項は、別に定める。

第５章　教育課程及び卒業

（教育課程）
第 21 条の２　本学の教育課程は、学科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に編成するものとする。
２　本学に、全学科に共通する授業科目として、教養教育に関する科目等を置く。
３　前２項に規定する授業科目は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
（授業科目の区分）
第 22 条　授業科目は、共通科目と専門科目と選択自由科目とし、必修科目と選択科目に分ける。
２　授業科目の種類及び単位数は、別表（１）のとおりとする。
（履修科目の登録）
第 23 条　学生は、学年のはじめに、履修すべき授業科目を登録しなければならない。
（履修方法）
第 24 条　履修の方法は、次の各号に定めるところにより 62 単位以上を修得する。
（１）共通科目については、12 単位以上
（２）専門科目については、50 単位以上
（３）選択自由科目については、一部を専門科目に代えて認めることができる。
２　前項について必要な事項は、別に定める。
（卒業及び学位の授与）
第 25 条　本学に２年以上在学し、前条に規定する授業科目及び単位を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。
２　第 24 条第 1 項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 21 条の 2 第 3 項の授業の方法により修得する単位数は、30 単位を超えないものとする。
３　第 1 項の規定により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。
（教員免許）
第 26 条　教育職員免許状を受けようとする者は、前条の規定によるもののほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
２　本学の各学科において取得できる教員免許状の種類は、次のとおりとする。

学科	取得できる教育職員免許上の種類
生活学科	栄養教諭二種免許状
幼児教育保育学科	幼稚園教諭二種免許状

（保育士の資格）
第 27 条　幼児教育保育学科において、保育士の資格を得ようとする者は、第 25 条の規定によるもののほか、児童福祉法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
２　前項の教育課程については、別に定める。
（栄養士免許）
第 28 条　生活学科において、栄養士免許を得ようとする者は、第 25 条の規定によるもののほか、栄養士法施行令及び栄養士法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
２　前項の教育課程については、別に定める。

（単位の算定基準）
第 29 条　各授業科目の単位数を定めるに当たっては、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。
（１）講義については、15 時間の授業をもって１単位とする。
（２）演習については、15 時間から 30 時間の授業をもって１単位とする。
（３）実験、実習及び実技については、30 時間から 45 時間の授業をもって１単位とする。
２　それぞれの時間数は、教授会の議を経て、別に定めることとする。
（単位の授与）
第 30 条　１の授業科目を履修した者に対しては、認定のうえ単位を与える。
２　単位認定の方法は、試験、研究報告その他の方法による。
（単位数の上限）
第 30 条の２　学生が各学期にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。
２　本学は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に規定する単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
３　前２項の登録に関する手続等は、別に定める。
（追試験）
第 31 条　病気等やむを得ない事情により、試験等を受けることができなかったと学長が認めた者については、追試験の機会を与えることができる。
（学習の評価）
第 32 条　試験等の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とする。
（他の短期大学、専門職短期大学又は大学における授業科目の履修等）
第 33 条　本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の短期大学、専門職短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、30 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項の規定は、学生が外国の短期大学等に留学する場合及び外国の短期大学又は大学が行う通信教育における授業科目を国内において履修する場合について準用する。
（短期大学、専門職短期大学又は大学以外の教育施設等における学修）
第 34 条　本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学、専門職短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により修得したものとみなした単位数と合わせて 30 単位を超えないものとし、教授会の議を経て、認定することができる。
（入学前の既修得単位等の認定）
第 35 条　本学は、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に短期大学、専門職短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　学生が入学前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
３　学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業に必要な能力（本学において修得させることとしているものに限る。）を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、当該職業に必要な能力の修得を、本学における授業科目（職業に必要な能力を育成することを目的とする課程において開設するものに限る。）の履修とみなし、15 単位を超えない範囲で本学の定めるところにより、単位を与えることができる。
４　前３項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、第 14 条に規定する再入学又は転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第 33 条第１項及び第 34 条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて、30 単位を超えないものとする。この場合において、第 33 条第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせるときは、45 単位を超えないものとし、教授会の議を経て、認定することができる。

第６章　検定料、入学料、授業料、施設設備費及び履修料

（検定料）
第 36 条　本学に入学を志願する者は、別表（２）に定める検定料を納入しなければならない。
（入学料）

第 37 条　入学を許可された者は、別表（２）に定める入学料を所定の期日までに納入しなければならない。
２　入学料を所定の期日までに納入しない者は、入学の意志がないものとして入学の許可を取消すことがある。
（学費）
第 38 条　授業料及び施設設備費は、別表（２）に定める額を、次の２期に分けて納入しなければならない。

前期　納期　　４月 27 日まで
後期　納期　　10 月 27 日まで

納期が休日等となる場合は、その翌日をもって納期とする。
２　特別の事情により、所定の授業料及び施設設備費を納期に納めることのできない者に対しては、願いにより分納又は延納を許可することがある。
第 39 条　退学若しくは転学した者、除籍された者、退学を命ぜられた者又は停学中の者についても、その期の授業料及び施設設備費は徴収する。
第 40 条　休学の場合は、休学の翌月から復学の前月までの授業料及び施設設備費は徴収しない。
（留学者の授業料）
第 41 条　留学期間中の授業料は、納付しなければならない。
（履修料）
第 42 条　科目等履修生として許可された者は、別表（２）に定める履修料を所定の期日までに納入しなければならない。
（納付した授業料等）
第 43 条　納付した検定料、入学料、授業料、施設設備費及び履修料は、還付しない。ただし、所定の期日までに文書により、入学辞退の申し出のあった授業料及び施設整備費についてはこの限りでない。
（授業料等の減免）
第 43 条の２　入学金、授業料及び施設整備費は、修学支援に関する法令の定めによる場合、これを減免することができる。

第７章　職員組織

（職員）
第 44 条　本学に次の職員を置く。

（１）学長	１名
（２）副学長	３名以内
（３）教授、准教授、講師、助教及び助手	各若干名
（４）事務職員及び技術職員	各若干名
（５）その他必要な職員	若干名

第８章　教授会

（教授会）
第 45 条　本学に教授会を置く。
（教授会の構成）
第 46 条　教授会は、学長及び専任の教授をもって組織する。
２　教授会には、准教授その他の職員を加えることができる。
（その他）
第 47 条　本章の定めるもののほか、教授会に必要な事項は、別に定める。

第９章　科目等履修生、特別聴講学生、研究生、外国人留学生及び委託訓練学生

（科目等履修生）
第 48 条　本学所定の授業科目の一部の履修を志望する者があるときは、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。
２　前項について必要な事項は、別に定める。
（特別聴講学生）
第 49 条　他大学等の学生で本学の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、特別聴講学生として履修を許可する。
２　前項の規定は外国の大学等の学生にこれを準用する。
３　特別聴講学生について必要な事項は、別に定める。
（研究生）

第 50 条　本学において特定の事項を研究しようとする者があるときは、研究生として入学を許可することがある。
（外国人留学生）
第 51 条　外国人で短期大学等において教育を受ける目的で入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することができる。
２　外国人留学生について必要な事項は、別に定める。
（委託訓練学生）
第 51 条の２　職業訓練のために委託訓練学生として本学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ委託訓練学生として入学を許可することができる。
２　委託訓練学生について必要な事項は、別に定める。

第 10 章　図書館

（附属図書館）
第 52 条　本学に附属図書館を置く。
２　附属図書館について必要な事項は、別に定める。

第 11 章　公開講座

（公開講座）
第 53 条　本学は、地域住民の教養と専門知識向上に資するため、公開講座を開設することができる。

第 12 章　賞　罰

（表彰）
第 54 条　学長は、学生として模範となる行為のあった者を表彰する。
（懲戒）
第 55 条　学生が本学の定める規則に違反し、又はその本分に反する行為があったときは、教授会の議を経て、学長が懲戒を加えることがある。
２　懲戒の種類は、訓告、停学及び退学とする。
３　前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行うことができる。
（１）性行不良で、改善の見込がないと認められる者
（２）学力劣等で、成業の見込がないと認められる者
（３）正当の理由がなくて出席常でない者
（４）本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第 13 章　雑　則

（改廃）
第 56 条　この学則の改廃は、教授会の議を経て、理事会が行う。
（学則の施行に必要な事項）
第 57 条　この学則の施行について必要な事項は、別に定める。

附　則

この学則は、昭和 45 年４月１日から施行する。
（中間の改正学則の附則は、省略した。）
附　則
１　この学則は、令和４年４月１日から施行する。
２　改正後の第５条の表中「収容定員」は、同表の規定にかかわらず、令和４年度は次のとおりとする。

学科	収容定員
生活学科	人 160【10】
幼児教育保育学科	250
ビジネスコミュニケーション学科	220【20】
デジタルライフビジネス学科	(30)
合　計	630【30】

３　令和４年３月 31 日に在学する学生については、第 22 条第２項別表（１）の規定にかかわらず従前の例による。

別表（１）第 22 条第２項に定める授業科目の種類及び単位数

学　　科	授　業　科　目	単　位　数		備　考
		必　修	選　択	
生活学科 幼児教育保育学科ビジネスコミュニケーション学科 デジタルライフビジネス学科 （共通）	共　通　科　目	(2)	(58)	
	ことばと人間		2	
	教育を考える		2	
	美術をみる目		2	
	音楽とは何か		2	
	国際地理		2	
	テレビ映像と現代社会		2	
	心と身体のヘルスケア		2	
	近江学入門		2	
	現代の健康		2	
	心理学		2	
	生活文化論		2	
	子ども社会		2	
	子どもの世界		2	
	日本国憲法		2	
	数の不思議		2	
	データ分析入門		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	日本語Ⅰ		1	
	日本語Ⅱ		1	
	健康スポーツ論		1	
	スポーツ実技（テニス）		1	
	スポーツ実技（フィットネス）		1	
	スポーツ実技（バレー）		1	
	スポーツ実技（ボウリング&ゴルフ）		1	
	スポーツ実技（キャンプ）		1	
	スポーツ実技（スノースポーツ）		1	
	キャリア基礎演習	1		
	キャリアデザイン演習	1		
	生活文化入門		1	
	子ども理解入門		1	
	ビジネス入門		1	
	環びわ湖単位互換科目		８単位以内	

学　　科	授　業　科　目	単　位　数		備　考
		必　修	選　択	
生活学科	専門科目	(8)	(113)	
	生活学概論		2	
	食生活論	2		
	情報処理基礎Ⅰ	1		
	情報処理基礎Ⅱ	1		
	マーケティング論		2	
	ラッピング演習		1	
	基礎栄養学	2		
	応用栄養学		2	
	応用栄養学実習		1	
	食品学実験		1	

	食品衛生学実験		1	
	臨床栄養学		2	
	臨床栄養管理学		2	
	臨床栄養学実習		1	
	臨床栄養管理学実習		1	
	栄養教育論Ⅰ		2	
	栄養教育論Ⅱ		2	
	栄養教育論実習Ⅰ		1	
	栄養教育論実習Ⅱ		1	
	公衆栄養学		2	
	地域伝統食実習		1	
	調理学		2	
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	フードライフデザイン（調理と文化）		2	
	フードライフ実習Ⅰ		1	
	フードライフ実習Ⅱ		1	
	フードコーディネート論		2	
	給食経営計画管理論		2	
	給食経営計画実習		1	
	給食経営管理実習		1	
	給食経営管理学外実習（栄養士）		1	
	給食経営管理学外実習事前事後指導		1	
	学校食育論		2	
	献立作成演習		1	
	地域食育演習		2	
	衛生法規		2	
	生理学		2	
	解剖生理学		2	
	解剖生理学実験		1	
	生化学Ⅰ		2	
	生化学Ⅱ		2	
	生化学実験		1	
	食品学総論	2		
	食品学各論		2	
	公衆衛生学Ⅰ		2	
	公衆衛生学Ⅱ		2	
	食品衛生学Ⅰ		2	
	食品衛生学Ⅱ		2	
	食品衛生学Ⅲ		2	
	菓子と食生活		2	
	製菓理論（総合）		2	
	製菓理論（和菓子）		2	
	製菓理論（洋菓子）		2	
	製パン理論		2	
	製菓基礎実習（和菓子）		2	
	製菓基礎実習（洋菓子）		2	
	製菓基礎実習（製パン）		2	
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅰ		2	
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅱ		2	
	製菓専門実習（洋菓子）Ⅲ		2	
	製菓専門実習（技術）		2	
	製菓専門実習（製パン）		2	
	製菓特別実習		1	
	製菓応用実習Ⅰ		2	
	製菓応用実習Ⅱ		2	

	マイスター・トレーニング		1	
	ショップマネジメントⅠ		2	
	ショップマネジメントⅡ		1	
	世界と地域の食文化		2	
	カラーコーディネート論		2	
	ホスピタリティ論		2	
	ブライダル論		2	
	教職に関する専門科目		(19)	
	教師論		2	
	教育原理		2	
	教育心理学		2	
	特別支援教育		1	
	教育の課程と方法		2	
	道徳教育論		1	
	特別活動論(合的な学習の時間を含む)		1	
	生徒指導論		2	
	教育相談		2	
	教育実習事前事後指導（栄養教諭）		1	
	栄養教諭教育実習		1	
	教職実践演習（栄養教諭）		2	

学　　科	授　業　科　目	単　位　数		備　考
		必　修	選　択	
幼児教育保育学科	専門科目	(16)	(83)	
	専門演習Ⅰ	1		
	専門演習Ⅱ	1		
	教育原理	2		
	保育原理	2		
	保育者論	2		
	子どもの心理学	2		
	子ども理解と援助の心理学		1	
	児童・青年期の心理学		2	
	幼児理解と教育相談		2	
	教育の方法及び技術		2	
	多文化共生の保育と方法		2	
	子ども家庭福祉		2	
	臨床福祉学		2	
	保育内容総論		1	
	保育・教育課程論		2	
	領域指導法（健康）		1	
	領域指導法（言葉）		1	
	領域指導法（人間関係）		1	
	領域指導法（環境）		1	
	領域指導法（表現）		1	
	子どもとあそび		2	
	総合表現Ⅰ		1	
	総合表現Ⅱ		1	
	幼児教育保育学入門	2		
	教育実習（事前事後指導を含む）		5	
	保育実習指導Ⅰ		2	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	
	保育実習指導Ⅱ（施設）		1	
	保育所実習Ⅰ		2	
	保育所実習Ⅱ		2	
	施設実習Ⅰ		2	
	施設実習Ⅱ		2	

	音楽Ⅰ	1		
	音楽Ⅱ		1	
	音楽Ⅲ		1	
	図画工作Ⅰ	1		
	図画工作Ⅱ		1	
	造形保育		1	
	幼児体育Ⅰ	1		
	幼児体育Ⅱ	1		
	幼児体育Ⅲ		1	
	算数		2	
	乳児保育Ⅰ		2	
	乳児保育Ⅱ		1	
	子どもの保健		2	
	子どもの健康と安全		1	
	社会福祉		1	
	子ども家庭支援論		2	
	子ども家庭支援の心理学		2	
	子どもの食と栄養		2	
	社会的養護Ⅰ		2	
	社会的養護Ⅱ		1	
	子育て支援		1	
	障がい児保育		2	
	手話Ⅰ		1	
	手話Ⅱ		1	
	情報処理基礎Ⅰ		1	
	情報処理基礎Ⅱ		1	
	地域福祉		2	
	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	
	公務員教育保育職特別講義Ⅰ		2	
	公務員教育保育職特別講義Ⅱ		2	
	特別支援教育		1	
	保育リーダー論Ⅰ		1	
	保育リーダー論Ⅱ		1	
	選択自由科目		(6)	
	レクリエーション概論		2	
	レクリエーション演習		1	
	レクリエーション指導法実習		1	
	公務員特講Ⅰ		1	
	公務員特講Ⅱ		1	

学　　科	授　業　科　目	単　位　数		備　考
		必　修	選　択	
ビジネスコミュニケーション学科	専　門　科　目	(26)	(118)	
	経営学概論	2		
	ホスピタリティ論	2		
	コミュニケーション論	2		
	秘書実務Ⅰ	1		
	ビジネス基礎	1		
	日本語表現Ⅰ	2		
	日本語表現Ⅱ	2		
	簿記会計実務Ⅰ	2		
	簿記会計実務Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1		
	教養基礎	1		
	特別演習Ⅰ	1		

	特別演習Ⅱ	1		
	総合実践論		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	ビジネス法規入門		2	
	プレゼンテーション演習		1	
	オフィス総論	2		
	情報処理		2	
	英会話Ⅰ		1	
	英会話Ⅱ		1	
	事務管理		2	
	心理学概論		2	
	マーケティング論		2	
	秘書実務Ⅱ	1		
	現代社会論		2	
	地域ビジネス論		2	
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	1		
	情報システム概論	2		
	プログラミングⅠ		1	
	プログラミングⅡ		1	
	データベース演習		1	
	ＣＧ演習		1	
	ウェブデザイン演習		2	
	ウェブデザインⅠ		2	
	ウェブデザインⅡ		2	
	デザイン論		2	
	マルチメディア演習		2	
	医療秘書学		2	
	観光学		2	
	観光概論		2	
	ホテル業務概論		2	
	ブライダル論		2	
	ホテル業務演習		1	
	ホテルマネジメント論		1	
	健康と疾病		2	
	患者論と医の倫理		2	
	からだの構造と機能		2	
	臨床検査と薬の知識		2	
	医療用語		2	
	医療秘書実務		1	
	医療情報学		2	
	医療関係法規		2	
	医療保険事務Ⅰ		2	
	医療保険事務Ⅱ		1	
	医療保険事務Ⅲ		1	
	医療保険事務Ⅳ		1	
	実技演習		1	
	医療事務コンピュータ		1	
	電子カルテ演習		1	
	手話		1	
	栄養学		2	
	国内地理		2	
	販売管理論		2	
	安全運転管理		1	
	産業車両演習		1	

	地域づくり論		2	
	地域福祉		2	
	地域貢献演習Ⅰ		1	
	地域貢献演習Ⅱ		1	
	公務員特講Ⅰ		1	
	公務員特講Ⅱ		1	
	公務員演習Ⅰ		1	
	公務員演習Ⅱ		1	
	医療経営学		2	
	医療事務総論		2	
	工業簿記		1	
	簿記会計演習		1	
	ショップマネジメントⅠ		2	
	ショップマネジメントⅡ		1	
	フードコーディネート論		2	
	おもしろ観光ツアー演習		1	
	イベントプロデュース実習		1	
	経済学概論		2	
	経済学特講Ⅰ		1	
	経済学特講Ⅱ		1	
	経済学演習		1	
	経営学特講Ⅰ		1	
	経営学特講Ⅱ		1	
	経営学演習		1	
	観光学特講Ⅰ		1	
	観光学特講Ⅱ		1	
	ＴＯＥＩＣⅠ		1	
	ＴＯＥＩＣⅡ		1	
	ＴＯＥＩＣⅢ		1	
	ビジネス日本語		2	

学　　科	授　業　科　目	単　位　数		備　考
		必　修	選　択	
デジタルライフビジネス学科	専　門　科　目	(18)	(74)	
	データサイエンス入門	2		
	データサイエンス応用		2	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	1		
	情報処理	2		
	情報社会論	2		
	経営学概論		2	
	簿記会計実務Ⅰ	2		
	ビジネス法規入門	2		
	日本語表現		2	
	ウェブデザインⅠ		2	
	ウェブデザインⅡ		2	
	プログラミングⅠ		1	
	プログラミングⅡ		1	
	ＣＧ演習		1	
	マルチメディア演習		2	
	ＳＮＳⅠ		1	
	ＳＮＳⅡ		1	
	ＳＮＳ起業プロジェクト		1	
	デザイン論		2	

	ファッションデザイン		2	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ		2	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ		2	
	ハウスプランニング		2	
	インテリアデザインⅠ（理論）		2	
	インテリアデザインⅡ（演習）		1	
	ハンドメイドデザインⅠ		2	
	ハンドメイドデザインⅡ		2	
	ネイルアートデザインⅠ		1	
	ネイルアートデザインⅡ		1	
	映像デザインⅠ（実習）		1	
	映像デザインⅡ（実習）		1	
	ショップマネジメントⅠ		2	
	ショップマネジメントⅡ		1	
	ビジネスマナー		2	
	アントレプレナー論		2	
	インターネットビジネス		2	
	イベントプロデュース論		2	
	イベントプロデュースプロジェクト		1	
	ファッションマーチャンダイジング		2	
	ライフ・ファイナンシャルプランニング	2		
	フードコーディネート論		2	
	フードライフデザイン（食品と栄養）		2	
	フードライフデザイン（調理と文化）		2	
	フードライフ実習Ⅰ		1	
	フードライフ実習Ⅱ		1	
	カラーコーディネート論		2	
	きものコーディネート		2	
	ラッピング演習		1	
	染色演習		2	
	生活学概論	2		
	マーケティング		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	地域貢献演習Ⅰ		1	
	地域貢献演習Ⅱ		1	

別表（２）第 36 条、第 37 条、第 38 条及び第 42 条に定める額

条　項	種　別	金　額（円）
第 36 条	検　定　料	30,000
第 37 条	入　学　料	200,000
第 38 条	授　業　料（　年　額　）	720,000
	施設設備費（年額）	300,000
第 42 条	履　修　料（　1　単　位　）	10,000

ただし、第 36 条の検定料について、以下の入学試験については次のとおりとする。

（１）大学入学共通テスト利用選抜　10,000 円
（２）総合型選抜　25,000 円
（３）学校推薦型選抜Ａ　25,000 円
（４）併設校在籍者が学校推薦型選抜Ａ及び学校推薦型選抜Ｓを志望する場合　徴収しない
（５）本学卒業生又は在学生の１親等の親族又は兄弟姉妹が本学を専願する場合　徴収しない
（６）入学予定者が一般選抜を志願する場合　徴収しない

また、第 37 条の入学料について、併設校からの入学者は 100,000 円とする。

滋賀短期大学学則改正の概要

（改正理由）

滋賀短期大学において、令和４年４月に、短期大学設置基準第３条の２に規定された**学科連係課程実施学科**として、新たにデジタルライフビジネス学科を設置するとともに、既存学科の定員を変更し、併せて関連する授業科目を整理するため、所要の改正を行うもの。

（改正の内容等）

１．デジタルライフビジネス学科の新設（第５条関係）

学科連係課程実施学科として新たにデジタルライフビジネス学科を設置し、入学定員を30人、収容定員を60人とする。

なお、新学科の定員は、次のとおり**連携協力学科**定員の内数とする。

連携協力学科	内数となる入学定員（人）	内数となる収容定員（人）
生活学科	10	20
ビジネスコミュニケーション学科	20	40
計　（デジタルライフビジネス学科の定員）	30	60

２．既存学科の定員変更（第５条関係）

・幼児教育保育学科の入学定員は150人を100人とし、収容定員は300人を200人とする。

・ビジネスコミュニケーション学科の入学定員は100人を120人とし、収容定員は200人を240人とする。

・これらにより、本学の合計定員は、入学定員は30人減じて300人に、収容定員は60人減じて600人となる。

学　科	入学定員（人）			収容定員（人）		
	変更前	変更後	増減	変更前	変更後	増減
生活学科	80	80	－	160	160	－
幼児教育保育学科	150	100	▲50	300	200	▲100
ビジネスコミュニケーション学科	100	120	20	200	240	40
デジタルライフビジネス学科	－	(30)	(30)	－	(60)	(60)
総　定　員	330	300	▲30	660	600	▲60

※デジタルライフビジネス学科の定員は、生活学科定員及びビジネスコミュニケーション学科定員の内数のため、総定員集計には合算していない。

３．授業科目の整理（別表１関係）

デジタルライフビジネス学科の専門科目を新設するとともに、共通科目及び専門学科（連携協力学科である生活学科とビジネスコミュニケーション学科）の授業科目を整理する。

（１）共通科目

○廃止科目

「世界のことばと文化」、「英文学」、「現代社会と福祉」、「国際理解」、「デイリー・ライフ・イングリッシュ」、「トラベル・イングリッシュ」、「保育音楽入門」

（２）専門科目

〈生活学科〉

○新設科目

「生活学概論」2 単位（選択・講義 15 回授業・1 年次前期）

「フードライフデザイン（調理と文化）」2 単位（選択・講義 15 回授業・2 年次前期・DLB 横断）

「フードライフ実習Ⅰ」1 単位（選択・実習 8 回(週 2)授業・2 年次前期・DLB 横断）

「フードライフ実習Ⅱ」1 単位（選択・実習 8 回(週 2)授業・2 年次後期・DLB 横断）

○授業科目の名称変更

「店舗経営Ⅰ」 ➔ 「ショップマネジメントⅠ」

「店舗経営Ⅱ」 ➔ 「ショップマネジメントⅡ」

○廃止科目：

「きものソーイング」＊、「きものスタイリング演習」＊、「ハンドメイド演習」＊、「染色演習」＊、「ファッションマーチャンダイジング」＊、「ベーシック・ソーイング」、「ソーイング」、「生活工芸演習」、「ファッション造形論」、「ファッションデザイン実習」、「住生活論」、「ハウスストラクチャー」、「ハウスプランニング」、「秘書実務Ⅰ」、「ウェブデザインⅠ」、「コミュニケーション論」、「食品の官能評価・鑑別論」、「食品の官能評価・鑑別実験」、「生活デザイン論」

＊･･･DLB 学科で新設予定（名称変更も含む）

〈ビジネスコミュニケーション学科〉

○授業科目の名称変更

「店舗経営Ⅰ」 ➔ 「ショップマネジメントⅠ」

「店舗経営Ⅱ」 ➔ 「ショップマネジメントⅡ」

○廃止科目

「エアロビクスダンス演習」、「フィットネス演習」、「スイミング演習」、「レクリエーション指導法実習」、「レクリエーション概論」、「レクリエーション演習」、「野外活動演習」、「健康管理演習Ⅰ」、「健康管理演習Ⅱ」

〈デジタルライフビジネス学科〉

○専門科目 58 科目の設定

学科単独科目 30、生活学科との横断科目 6、ビジネスコミュニケーション学科との横断科目 19、生活学科及びビジネスコミュニケーション学科との 3 科横断科目 3

滋賀短期大学学則　新旧対象表

（改正部分は、改正（案）の赤字部分と現行の傍線部分）

改正（案）

第１条～第４条（略）

（学科及び学生定員）
第５条　本学に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	収容定員
生活学科	人 80【10】	人 160【20】
幼児教育保育学科	100	200
ビジネスコミュニケーション学科	120【20】	240【40】
デジタルライフビジネス学科	（30）	（60）
合　計	300【30】	600【60】

（備考）デジタルライフビジネス学科は、短期大学設置基準（昭和 50 年文部省令第 21 号）第 3 条の 2 に基づく学科連係課程実施学科であり、その入学定員及び収容定員は、連携協力学科の内数として（ ）内の数とし、連携協力学科に係る内数は【 】内の数とする。

２　前項の各学科における人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。
（１）生活学科は、生活に関する専門の知識と技術を授け、科学的な視点から生活を捉える姿勢を養い、家庭及び社会でより良い生活を提案できる能力をもった人材の育成を目的とする。
（２）幼児教育保育学科は、幼児教育保育に関する専門の知識と技術を授け、時代や社会の要請に応え得る幼稚園教諭や保育士等の人材の育成を目的とする。
（３）ビジネスコミュニケーション学科は、ビジネスに関する専門の知識と技術を授け、社会で即戦力となるビジネス実務能力とホスピタリティマインドをもった人材の育成を目的とする。
（４）デジタルライフビジネス学科は、生活とビジネスの基礎及び、データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野に関する専門の知識と技術を授け、高度なデジタル社会の中でそれらを活かして活躍できる人材の育成を目的とする。

第６条～第 57 条（略）

附　則

現　行

第１条～第４条（略）

（学科及び学生定員）
第５条　本学に置く学科及び学生定員は、次のとおりとする。

学科	入学定員	総定員
生活学科	80 人	160 人
幼児教育保育学科	150 人	300 人
ビジネスコミュニケーション学科	100 人	200 人
合　計	330 人	660 人

２　前項の各学科における人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。
（１）生活学科は、生活に関する専門の知識と技術を授け、科学的な視点から生活を捉える姿勢を養い、家庭及び社会でより良い生活を提案できる能力をもった人材の育成を目的とする。
（２）幼児教育保育学科は、幼児教育保育に関する専門の知識と技術を授け、時代や社会の要請に応え得る幼稚園教諭や保育士等の人材の育成を目的とする。
（３）ビジネスコミュニケーション学科は、ビジネスに関する専門の知識と技術を授け、社会で即戦力となるビジネス実務能力とホスピタリティマインドをもった人材の育成を目的とする。
（新設）

第６条～第 57 条（略）

（追加）

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。

2　改正後の第５条の表中「収容定員」は、同表の規定にかかわらず、令和４年度は次のとおりとする。

学科	収容定員
	人
生活学科	160【10】
幼児教育保育学科	250
ビジネスコミュニケーション学科	220【20】
デジタルライフビジネス学科	(30)
合　計	630【30】

3　令和４年３月31日に在学する学生については、第22条第２項別表（１）の規定にかかわらず従前の例による。

別表（１）第22条第２項に定める授業科目の種類及び単位数

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	共通科目	(2)	(58)	
生活	ことばと人間		2	
学科	教育を考える		2	
	廃止			
幼児	廃止			
教育	美術をみる目		2	
保育	音楽とは何か		2	
学科	国際地理		2	
	テレビ映像と現代社会		2	
ビジ	心と身体のヘルスケア		2	
ネス	近江学入門		2	
コミ	現代の健康		2	
ュニ	心理学		2	
ケー	生活文化論		2	
ショ	子ども社会		2	
ン学	子どもの世界		2	
科	廃止			
	廃止			
デジ	日本国憲法		2	
タル	数の不思議		2	
ライ	データ分析入門		2	
フビ	英語Ⅰ		1	
ジネ	英語Ⅱ		1	
ス学	廃止			
科	廃止			
	フランス語Ⅰ		1	
（共	フランス語Ⅱ		1	
通）	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	日本語Ⅰ		1	
	日本語Ⅱ		1	
	健康スポーツ論		1	
	スポーツ実技（テニス）		1	

別表（１）第22条第２項に定める授業科目の種類及び単位数

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	共通科目	(2)	(69)	
生活	ことばと人間		2	
学科	教育を考える		2	
	世界のことばと文化		2	
幼児	英文学		2	
教育	美術をみる目		2	
保育	音楽とは何か		2	
学科	国際地理		2	
ビジ	テレビ映像と現代社会		2	
ネス	心と身体のヘルスケア		2	
コミ	近江学入門		2	
ュニ	現代の健康		2	
ケー	心理学		2	
ショ	生活文化論		2	
ン学	子ども社会		2	
科	子どもの世界		2	
	現代社会と福祉		2	
（共	国際理解		2	
通）	日本国憲法		2	
	数の不思議		2	
	データ分析入門		2	
	英語Ⅰ		1	
	英語Ⅱ		1	
	デイリー・ライフ・イングリッシュ		1	
	トラベル・イングリッシュ		1	
	フランス語Ⅰ		1	
	フランス語Ⅱ		1	
	中国語Ⅰ		1	
	中国語Ⅱ		1	
	日本語Ⅰ		1	
	日本語Ⅱ		1	
	健康スポーツ論		1	
	スポーツ実技（テニス）		1	

	スポーツ実技（フィットネス）		1	
	スポーツ実技（バレー）		1	
	スポーツ実技（ボウリング&ゴルフ）		1	
	スポーツ実技（キャンプ）		1	
	スポーツ実技（スノースポーツ）		1	
	キャリア基礎演習	1		
	キャリアデザイン演習	1		
	生活文化入門		1	
	子ども理解入門		1	
	廃止			
	ビジネス入門		1	
	環びわ湖単位互換科目		8単位以内	

	スポーツ実技（フィットネス）		1	
	スポーツ実技（バレー）		1	
	スポーツ実技（ボウリング&ゴルフ）		1	
	スポーツ実技（キャンプ）		1	
	スポーツ実技（スノースポーツ）		1	
	キャリア基礎演習	1		
	キャリアデザイン演習	1		
	生活文化入門		1	
	子ども理解入門		1	
	保育音楽入門		1	
	ビジネス入門		1	
	環びわ湖単位互換科目		8単位以内	

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
生活学科	専門科目	(8)	(113)	
	生活学概論		2	
	食生活論	2		
	情報処理基礎Ⅰ	1		
	情報処理基礎Ⅱ	1		
	マーケティング論		2	
	ラッピング演習		1	
	基礎栄養学	2		
	応用栄養学		2	
	応用栄養学実習		1	
	食品学実験		1	
	食品衛生学実験		1	
	臨床栄養学		2	
	臨床栄養管理学		2	
	臨床栄養学実習		1	
	臨床栄養管理学実習		1	
	栄養教育論Ⅰ		2	
	栄養教育論Ⅱ		2	
	栄養教育論実習Ⅰ		1	
	栄養教育論実習Ⅱ		1	
	公衆栄養学		2	
	廃止			
	廃止			
	地域伝統食実習		1	
	調理学		2	
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	フードライフデザイン（調理と文化）		2	
	フードライフ実習Ⅰ		1	
	フードライフ実習Ⅱ		1	
	フードコーディネート論		2	
	給食経営計画管理論		2	
	給食経営計画実習		1	
	給食経営管理実習		1	
	給食経営管理学外実習（栄養士）		1	
	給食経営管理学外実習事前事後指導		1	
	学校食育論		2	
	献立作成演習		1	
	地域食育演習		2	
	衛生法規		2	
	生理学		2	

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
生活学科	専門科目	(8)	(142)	
	新設			
	食生活論	2		
	情報処理基礎Ⅰ	1		
	情報処理基礎Ⅱ	1		
	マーケティング論		2	
	ラッピング演習		1	
	基礎栄養学	2		
	応用栄養学		2	
	応用栄養学実習		1	
	食品学実験		1	
	食品衛生学実験		1	
	臨床栄養学		2	
	臨床栄養管理学		2	
	臨床栄養学実習		1	
	臨床栄養管理学実習		1	
	栄養教育論Ⅰ		2	
	栄養教育論Ⅱ		2	
	栄養教育論実習Ⅰ		1	
	栄養教育論実習Ⅱ		1	
	公衆栄養学		2	
	食品の官能評価・鑑別論		1	
	食品の官能評価・鑑別実験		1	
	地域伝統食実習		1	
	調理学		2	
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	新設			
	新設			
	新設			
	フードコーディネート論		2	
	給食経営計画管理論		2	
	給食経営計画実習		1	
	給食経営管理実習		1	
	給食経営管理学外実習（栄養士）		1	
	給食経営管理学外実習事前事後指導		1	
	学校食育論		2	
	献立作成演習		1	
	地域食育演習		2	
	衛生法規		2	
	生理学		2	

		解剖生理学		2				解剖生理学		2	
		解剖生理学実験		1				解剖生理学実験		1	
		生化学Ⅰ		2				生化学Ⅰ		2	
		生化学Ⅱ		2				生化学Ⅱ		2	
		生化学実験		1				生化学実験		1	
		食品学総論	2					食品学総論	2		
		食品学各論		2				食品学各論		2	
		公衆衛生学Ⅰ		2				公衆衛生学Ⅰ		2	
		公衆衛生学Ⅱ		2				公衆衛生学Ⅱ		2	
		食品衛生学Ⅰ		2				食品衛生学Ⅰ		2	
		食品衛生学Ⅱ		2				食品衛生学Ⅱ		2	
		食品衛生学Ⅲ		2				食品衛生学Ⅲ		2	
		菓子と食生活		2				菓子と食生活		2	
		製菓理論（総合）		2				製菓理論（総合）		2	
		製菓理論（和菓子）		2				製菓理論（和菓子）		2	
		製菓理論（洋菓子）		2				製菓理論（洋菓子）		2	
		製パン理論		2				製パン理論		2	
		製菓基礎実習（和菓子）		2				製菓基礎実習（和菓子）		2	
		製菓基礎実習（洋菓子）		2				製菓基礎実習（洋菓子）		2	
		製菓基礎実習（製パン）		2				製菓基礎実習（製パン）		2	
		製菓専門実習（洋菓子）Ⅰ		2				製菓専門実習（洋菓子）Ⅰ		2	
		製菓専門実習（洋菓子）Ⅱ		2				製菓専門実習（洋菓子）Ⅱ		2	
		製菓専門実習（洋菓子）Ⅲ		2				製菓専門実習（洋菓子）Ⅲ		2	
		製菓専門実習（技術）		2				製菓専門実習（技術）		2	
		製菓専門実習（製パン）		2				製菓専門実習（製パン）		2	
		製菓特別実習		1				製菓特別実習		1	
		製菓応用実習Ⅰ		2				製菓応用実習Ⅰ		2	
		製菓応用実習Ⅱ		2				製菓応用実習Ⅱ		2	
		マイスター・トレーニング		1				マイスター・トレーニング		1	
		ショップマネジメントⅠ		2				店舗経営Ⅰ		2	
		ショップマネジメントⅡ		1				店舗経営Ⅱ		1	
		世界と地域の食文化		2				世界と地域の食文化		2	
		廃止						ベーシック・ソーイング		2	
		廃止						ソーイング		2	
		廃止						きものソーイング		2	
		廃止						きものスタイリング演習		2	
		廃止						ハンドメイド演習		2	
		廃止						生活工芸演習		2	
		廃止						ファッション造形論		2	
		廃止						ファッションデザイン実習		2	
		カラーコーディネート論		2				カラーコーディネート論		2	
		廃止						染色演習		2	
		廃止						生活デザイン論		2	
		廃止						住生活論		2	
		廃止						ハウスストラクチャー		2	
		廃止						ハウスプランニング		2	
		廃止						秘書実務Ⅰ		1	
		ホスピタリティ論		2				ホスピタリティ論		2	
		ブライダル論		2				ブライダル論		2	
		廃止						ウェブデザインⅠ		2	
		廃止						コミュニケーション論		2	
		廃止						ファッションマーチャンダイジング		2	
		教職に関する専門科目		(19)				教職に関する専門科目		(19)	
		教師論		2				教師論		2	
		教育原理		2				教育原理		2	
		教育心理学		2				教育心理学		2	
		特別支援教育		1				特別支援教育		1	
		教育の課程と方法		2				教育の課程と方法		2	

	道徳教育論		1	
	特別活動論(合的な学習の時間を含む)		1	
	生徒指導論		2	
	教育相談		2	
	教育実習事前事後指導（栄養教諭）		1	
	栄養教諭教育実習		1	
	教職実践演習（栄養教諭）		2	

（幼児教育保育学科・略）

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
ビジネスコミュニケーション学科	専門科目	(26)	(118)	
	経営学概論	2		
	ホスピタリティ論	2		
	コミュニケーション論	2		
	秘書実務Ⅰ	1		
	ビジネス基礎	1		
	日本語表現Ⅰ	2		
	日本語表現Ⅱ	2		
	簿記会計実務Ⅰ	2		
	簿記会計実務Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1		
	教養基礎	1		
	特別演習Ⅰ	1		
	特別演習Ⅱ	1		
	総合実践論		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	ビジネス法規入門		2	
	プレゼンテーション演習		1	
	オフィス総論	2		
	情報処理		2	
	英会話Ⅰ		1	
	英会話Ⅱ		1	
	事務管理		2	
	心理学概論		2	
	マーケティング論		2	
	秘書実務Ⅱ	1		
	現代社会論		2	
	地域ビジネス論		2	
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	1		
	情報システム概論	2		
	プログラミングⅠ		1	
	プログラミングⅡ		1	
	データベース演習		1	
	ＣＧ演習		1	
	ウェブデザイン演習		2	
	ウェブデザインⅠ		2	
	ウェブデザインⅡ		2	
	デザイン論		2	
	マルチメディア演習		2	
	医療秘書学		2	
	観光学		2	
	観光概論		2	
	ホテル業務概論		2	

	道徳教育論		1	
	特別活動論(合的な学習の時間を含む)		1	
	生徒指導論		2	
	教育相談		2	
	教育実習事前事後指導（栄養教諭）		1	
	栄養教諭教育実習		1	
	教職実践演習（栄養教諭）		2	

（幼児教育保育学科・略）

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
ビジネスコミュニケーション学科	専門科目	(26)	(128)	
	経営学概論	2		
	ホスピタリティ論	2		
	コミュニケーション論	2		
	秘書実務Ⅰ	1		
	ビジネス基礎	1		
	日本語表現Ⅰ	2		
	日本語表現Ⅱ	2		
	簿記会計実務Ⅰ	2		
	簿記会計実務Ⅱ		1	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1		
	教養基礎	1		
	特別演習Ⅰ	1		
	特別演習Ⅱ	1		
	総合実践論		2	
	インターンシップⅠ		1	
	インターンシップⅡ		1	
	ビジネス法規入門		2	
	プレゼンテーション演習		1	
	オフィス総論	2		
	情報処理		2	
	英会話Ⅰ		1	
	英会話Ⅱ		1	
	事務管理		2	
	心理学概論		2	
	マーケティング論		2	
	秘書実務Ⅱ	1		
	現代社会論		2	
	地域ビジネス論		2	
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	1		
	情報システム概論	2		
	プログラミングⅠ		1	
	プログラミングⅡ		1	
	データベース演習		1	
	ＣＧ演習		1	
	ウェブデザイン演習		2	
	ウェブデザインⅠ		2	
	ウェブデザインⅡ		2	
	デザイン論		2	
	マルチメディア演習		2	
	医療秘書学		2	
	観光学		2	
	観光概論		2	
	ホテル業務概論		2	

		ブライダル論		2				ブライダル論		2		
		ホテル業務演習		1				ホテル業務演習		1		
		ホテルマネジメント論		1				ホテルマネジメント論		1		
		廃止						レクリエーション概論		2		
		廃止						レクリエーション演習		1		
		廃止						野外活動演習		1		
		健康と疾病		2				健康と疾病		2		
		患者論と医の倫理		2				患者論と医の倫理		2		
		からだの構造と機能		2				からだの構造と機能		2		
		臨床検査と薬の知識		2				臨床検査と薬の知識		2		
		医療用語		2				医療用語		2		
		医療秘書実務		1				医療秘書実務		1		
		医療情報学		2				医療情報学		2		
		医療関係法規		2				医療関係法規		2		
		医療保険事務Ⅰ		2				医療保険事務Ⅰ		2		
		医療保険事務Ⅱ		1				医療保険事務Ⅱ		1		
		医療保険事務Ⅲ		1				医療保険事務Ⅲ		1		
		医療保険事務Ⅳ		1				医療保険事務Ⅳ		1		
		実技演習		1				実技演習		1		
		医療事務コンピュータ		1				医療事務コンピュータ		1		
		電子カルテ演習		1				電子カルテ演習		1		
		手話		1				手話		1		
		廃止						健康管理演習Ⅰ		1		
		廃止						健康管理演習Ⅱ		1		
		栄養学		2				栄養学		2		
		廃止						エアロビクスダンス演習		1		
		廃止						フィットネス演習		1		
		廃止						スイミング演習		1		
		廃止						レクリエーション指導法実習		1		
		国内地理		2				国内地理		2		
		販売管理論		2				販売管理論		2		
		安全運転管理		1				安全運転管理		1		
		産業車両演習		1				産業車両演習		1		
		地域づくり論		2				地域づくり論		2		
		地域福祉		2				地域福祉		2		
		地域貢献演習Ⅰ		1				地域貢献演習Ⅰ		1		
		地域貢献演習Ⅱ		1				地域貢献演習Ⅱ		1		
		公務員特講Ⅰ		1				公務員特講Ⅰ		1		
		公務員特講Ⅱ		1				公務員特講Ⅱ		1		
		公務員演習Ⅰ		1				公務員演習Ⅰ		1		
		公務員演習Ⅱ		1				公務員演習Ⅱ		1		
		医療経営学		2				医療経営学		2		
		医療事務総論		2				医療事務総論		2		
		工業簿記		1				工業簿記		1		
		簿記会計演習		1				簿記会計演習		1		
		ショップマネジメントⅠ		2				店舗経営Ⅰ		2		
		ショップマネジメントⅡ		1				店舗経営Ⅱ		1		
		フードコーディネート論		2				フードコーディネート論		2		
		おもしろ観光ツアー演習		1				おもしろ観光ツアー演習		1		
		イベントプロデュース実習		1				イベントプロデュース実習		1		
		経済学概論		2				経済学概論		2		
		経済学特講Ⅰ		1				経済学特講Ⅰ		1		
		経済学特講Ⅱ		1				経済学特講Ⅱ		1		
		経済学演習		1				経済学演習		1		
		経営学特講Ⅰ		1				経営学特講Ⅰ		1		
		経営学特講Ⅱ		1				経営学特講Ⅱ		1		
		経営学演習		1				経営学演習		1		
		観光学特講Ⅰ		1				観光学特講Ⅰ		1		

	観光学特講Ⅱ		1	
	ＴＯＥＩＣⅠ		1	
	ＴＯＥＩＣⅡ		1	
	ＴＯＥＩＣⅢ		1	
	ビジネス日本語		2	

	観光学特講Ⅱ		1	
	ＴＯＥＩＣⅠ		1	
	ＴＯＥＩＣⅡ		1	
	ＴＯＥＩＣⅢ		1	
	ビジネス日本語		2	

（追加）

学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
デジタルライフビジネス学科	専門科目	(18)	(74)	
	データサイエンス入門	2		
	データサイエンス応用		2	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	1		
	情報処理	2		
	情報社会論	2		
	経営学概論		2	
	簿記会計実務Ⅰ	2		
	ビジネス法規入門	2		
	日本語表現		2	
	ウェブデザインⅠ		2	
	ウェブデザインⅡ		2	
	プログラミングⅠ		1	
	プログラミングⅡ		1	
	ＣＧ演習		1	
	マルチメディア演習		2	
	ＳＮＳⅠ		1	
	ＳＮＳⅡ		1	
	ＳＮＳ起業プロジェクト		1	
	デザイン論		2	
	ファッションデザイン		2	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ		2	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ		2	
	ハウスプランニング		2	
	インテリアデザインⅠ（理論）		2	
	インテリアデザインⅡ（演習）		1	
	ハンドメイドデザインⅠ		2	
	ハンドメイドデザインⅡ		2	
	ネイルアートデザインⅠ		1	
	ネイルアートデザインⅡ		1	
	映像デザインⅠ（実習）		1	
	映像デザインⅡ（実習）		1	
	ショップマネジメントⅠ		2	
	ショップマネジメントⅡ		1	
	ビジネスマナー		2	
	アントレプレナー論		2	
	インターネットビジネス		2	
	イベントプロデュース論		2	
	イベントプロデュースプロジェクト		1	
	ファッションマーチャンダイジング		2	
	ライフ・ファイナンシャルプランニング	2		
	フードコーディネート論		2	
	フードライフデザイン（食品と栄養）		2	
	フードライフデザイン（調理と文化）		2	
	フードライフ実習Ⅰ		1	
	フードライフ実習Ⅱ		1	

		カラーコーディネート論		2	
		きものコーディネート		2	
		ラッピング演習		1	
		染色演習		2	
		生活学概論	2		
		マーケティング		2	
		インターンシップⅠ		1	
		インターンシップⅡ		1	
		地域貢献演習Ⅰ		1	
		地域貢献演習Ⅱ		1	

別表（２）　（略）

別表（２）　（略）

滋賀短期大学教授会規程

昭和 48 年 11 月８日　制定
（中間の改正省略）
平成 30 年３月 16 日　改正

（目的）
第１条　この規程は、滋賀短期大学学則第 45 条から第 47 条に基づき、教授会に関する必要な事項を定める。
（組織）
第２条　教授会は、学長及び教授、准教授、講師、助教をもって組織する。
（議事）
第３条　教授会は、次の各号に掲げる事項を審議し、学長に対して意見を述べるものとする。
（１）入学及び卒業に関する事項
（２）学位授与に関する事項
（３）教育課程の編成に関する事項
（４）学生の学修評価に関する事項
（５）学生の賞罰に関する事項
（６）学則その他の規定に関する事項
２　前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
（運営）
第４条　教授会は、学長が招集し、その議長になる。
２　学長に事故あるときは、あらかじめ学長が指名した副学長がその職務を代行する。
（会議）
第５条　教授会は、定例教授会及び臨時教授会とする。
２　定例教授会は、毎月１回開催する。
３　臨時教授会は、学長が必要と認めるとき、又は構成員の３分の１以上の要求があったとき開催する。
（定足数及び議決）
第６条　教授会の定足数は、構成員の過半数とし、議事は出席者の過半数でこれを決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
（人事）
第７条　教育研究業績の審査等教員人事に関する教授会は、第２条の規定にかかわらず、教授のみによって構成する。
（非構成員の出席）
第８条　学長は、必要があるときに、事務局職員を、又は構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。
（守秘義務）
第９条　人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。
（記録作成保管）
第 10 条　学長は、事務局職員に教授会の議事を記録させ、これを保管する。ただし、前条に定める事項の議事録は公開しない。
（改廃）
第 11 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て、理事会が行う。
（雑則）
第 12 条　この規程に定めるもののほか、教授会に必要な事項は、学長が別に定める。

附　則
この規程は、昭和 48 年 11 月８日から施行する。

（中間の改正附則は、省略した。）

附　則
この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

デジタルライフビジネス学科設置の趣旨等を記載した書類

目　　次

１ 設置の趣旨及び必要性 …… 2

２ 学科の特色 …… 4

３ 学科の名称及び学位の名称 …… 5

４ 教育課程の編成の考え方及び特色 …… 6

５ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件 …… 8

６ 企業実習（インターンシップを含む）の具体的計画 …… 10

７ 教員組織の編成の考え方及び特色 …… 12

８ 入学者選抜の概要 …… 13

９ 施設，設備等の整備計画 …… 15

１０ 管理運営 …… 16

１１ 自己点検・評価 …… 18

１２ 情報の公表 …… 19

１３ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 …… 21

１４ 社会的・職業的自立に関する指導及び体制 …… 22

１ 設置の趣旨及び必要性

（１）設置する理由・必要性

デジタル社会の到来を迎え、生活にもデジタルテクノロジーが浸透し、ビジネス現場においては、新しい時代の企業間競争を勝ち抜くためにＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）による組織改編、ビジネスモデルの変革の必要性が叫ばれている。また、新型コロナ禍を契機に、生活や働き方が大きく変わりつつある中、生活者として豊かな生活・充実した仕事を実現するための方策については、デジタル化を意識した新しいライフデザインの中で考えていく必要性が生じている。さらに、政府でも来るべきSociety5.0の中で、仮想空間と現実空間を連携し、すべての物や情報、人を一つにつなぐとともにＡＩ等の活用により量と質の全体最適をはかる社会を提唱している。大学には、長期的な視点にたって、このような将来の社会にも対応できる人間の育成が求められている。

本学には、生活者視点を重視する生活学科とビジネス分野を学ぶビジネスコミュニケーション学科がある。この両学科の教員組織を活かして、新たに学科連係課程実施学科としてデジタルライフビジネス学科を設け、将来のデジタル社会に対応できる人材を育成しようとするものである。

（２）教育上の目的、教育目標

デジタルライフビジネス学科は、生活とビジネスの基礎及び、データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野に関する専門の知識と技術を授け、高度なデジタル社会の中でそれらを活かして活躍できる人材の育成を目的とする。

このため、学生に以下のような内容を身につけることを目的として教育を行う。

① 生活関連では、生活学概論、ファッションデザイン、フードライフデザイン、ハウスプランニングなどの生活学の基礎知識を身につける。

② ビジネス関連では、経営学概論、マーケティング、簿記会計実務Ｉなどの基礎知識やアントレプレナー論など起業に関する知識を身につける。

③ 生活やビジネスを改善していくためのデータサイエンスの基礎について学び、PPDACサイクルを実現できるような知識を身につける。

④ デジタル分野では、CG演習、マルチメディア演習、映像デザイン、ウェブデザイン、SNSなどアイディアをデジタルで仮想空間上に実現し、情報発信を行うためのデジタル技術を身につける。

⑤ デジタル化が進むとともに、その対極にある現実空間でのものづくりという概念も重要となる。ものづくり分野として、ファッションクリエイティブ実習やハンドメイドデザインなど生活関連の科目を通して手作りを意識したものづくりに関するスキルを身につける。

⑥ インターネットビジネスやSNS起業プロジェクトなどの科目を通して、デジタル分野とものづくり分野を融合して新しい時代のビジネスを立ち上げるための手法を身につける。

⑦ 来るべきSociety5.0に備えて、情報社会論、ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザインを学び、新しい時代に即した自身のライフデザインを描けるスキルを身につける。

⑧ 身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、知識やスキルを活かして働くものとするほか、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につける。

（３）養成する人材像

本学科で養成する人材像は次のとおりである。

① 生活学とビジネス学、両方の基礎を身につけた人材を育成する。
② データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野の知識やスキルを身につけた人材を育成する。
③ 高度なデジタル社会の中で、修得した知識やスキルを統合・活用して生活やビジネスの場で活躍できる人材を育成する。

【資料１】 滋賀短期大学の三つのポリシー

【資料２】 デジタルライフビジネス学科で養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係

（４）ディプロマ・ポリシー

本学科の教育目的のために設定された授業科目を所定の方法により履修し、単位を取得した者に対し、以下のような能力を修得したものとして、短期大学士（生活ビジネス学）を授与する

(DP1)【専門知識と教養】

現代情報社会のあり方についての教養と生活学とビジネス学の基礎知識を持ち、生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析、情報活用、及びデジタル空間上で情報発信を行うことができる能力を身につけていること。

(DP2)【専門性をいかす技能】

デジタルコンテンツの作成スキルや、リアルのものづくりのスキルを身につけ、デジタルコンテンツやリアルのものづくりを、デジタル空間での情報発信と結び付けて生活やビジネスに展開できる能力を身につけていること。

(DP3)【問題提起・解決能力】

修得した知識とスキルを用いて、Society5.0 を迎える新時代における生活やビジネスの諸課題を解決できる能力と、自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方を充実させる生き方を選択できる能力を身につけていること。

(DP4)【表現力・コミュニケーション力】

生活やビジネスの場、地域社会において、様々な手法で自らのアイディアや意見を表現し、多くの人とコミュニケーションがとれる能力を身につけていること。

（５）中心となる研究分野

本学科では、各教員の専門領域に関する研究の他に、学科として、全教員の協力のもと、以下のような、3 つの研究に取り組む予定である。

① データサイエンスが生活やビジネスに及ぼす影響を考慮しながら、カリキュラムの各科目の中に、データサイエンスの分析方法やデータサイエンスを用いた問題解決の実例のケーススタディを取り入れ、それが、データサイエンス理解に及ぼす効果を測定するなど、リテラシーレベルのデータサイエンス教育における効率的な教育方法に関する研究
② リアルなものづくりとウェブデザインや３DCG、映像などを用いた SNS 上の情報発信を結び付け、ビジネスに展開するための知識とスキルを効率的に教育するためのカリキュラム構築に関する研究
③ 高度なデジタル社会の中で、生涯のライフデザインやファイナンシャルプランニングを実際に設計することができるような能力を育成するための教育方法に関する研究

以上のように、学科全体として取り組む研究では、高度デジタル社会で必要とされる能力を、どのように学生に身につけさせるかという課題を中心に教育方法に関する研究を進めていくこととしている。

２ 学科の特色

本学の建学の精神は「心技一如（しんぎいちにょ）」である。これは、人が備えるべき品性と能力は、車の両輪のようなものであり、まことの教育とは、人格教育と実学教育を両輪とすることによって、はじめて実現できることを表している。この建学の精神を基に、本学の教育は、生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科を設け、豊かな教養と実践的な専門の知識と技術を培い、社会の発展と文化の向上に貢献する人を育成することを目的としてきた。

本学科は、この 3 学科のうち、生活学科とビジネスコミュニケーション学科が有する教員組織及び施設設備等の一部を用いて、横断的な分野に係る教育課程を実施する学科である。生活学科からは、生活者の視点から、新しい時代に即したライフデザインを描く力を育成するという特性をとりこみ、ビジネスコミュニケーション学科からは、IT 技法を身につけて、ビジネスの諸分野に効力を発する応用力を育成するという特性をとりこみ、その両者を連携させて、ＤＸに対応できる人材を育成するという特色を持つ。

３ 学科の名称及び学位の名称

（１）学科名称

学科名称の「ライフ」は生活学科の特性を、「ビジネス」はビジネスコミュニケーション学科の特性を継承するものである。それらを「デジタル」という概念で結びつけ、相互に関連させながら、新時代の生活及びビジネスの場で実際に活用できる能力を身につけさせる教育を行う。その内容を現す名称として「デジタルライフビジネス」を用いる。

本学科の学生は、全員が生活基礎の科目とビジネス基礎の科目を履修し、そのうえで、ものづくりデザイン分野とデジタルデザイン分野、さらに SNS 起業プロジェクトなどの実践力育成分野の科目を学ぶ。また、デジタル社会の到来を控え、生活の意思決定や企業のＤＸなどの課題解決に活かしていけるよう「データサイエンス分野」や新しい時代の生活や仕事について考える「ライフ&ワークデザイン分野」の科目を学ぶ。（参照：【教育課程との関連】）

このように、本学科は、データサイエンスとデジタルデザインを象徴する「デジタル」と、ものづくりやライフ&ワークデザインを象徴する「ライフ」、起業や簿記、経営学などを象徴する「ビジネス」の三者が有機的に結合しており、学生に新しい時代の生活やビジネスの場で生き抜いていくための力を身につけさせるため、「デジタルライフビジネス学科」を学科の名称としている。

【教育課程との関連】

区 分	分 野	科 目
生活学関連	生活基礎	生活学概論、フードライフデザイン、ハウスプランニング
	ものづくりデザイン	ファッションクリエイティブ演習、ファッションデザイン、ファッションマーチャンダイジング、インテリアデザイン、ハンドメイドデザイン、ネイルアートデザインなど
	ライフ＆ワークデザイン	ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザイン演習、情報社会論など
ビジネス学関連	ビジネス基礎	経営学概論、簿記会計実務、ショップマネジメント、ビジネスマナーなど
	データサイエンス	データサイエンス入門、データサイエンス応用、コンピューターリテラシーⅠ・Ⅱ、情報処理など
	デジタルデザイン	ウェブデザインⅠ・Ⅱ、映像デザインⅠ・Ⅱ・プログラミングⅠ・Ⅱ、マルチメディア演習、CG 演習など
生活学・ビジネス学連係科目	実践力育成	SNS 起業プロジェクト、イベントプロデュースプロジェクト、地域貢献演習など

なお、本学科名の英訳は「Department of Digital Life and Business」としている。英国のエジンバラ大学をはじめ、海外にも Digital Life や Digital Business を学問分野名として用いている例がある。

学問的な分野においても、国際的に Digital Life、Digital Business という概念が定着しつつあり、本学科の英文名は国際的にも通用する名称と考える。

（２）学位の名称

本学科では、生活学に関連する専門性と、経済経営学、情報処理などを基礎とする実践的なビジネス学の専門性とを統合した分野に対する学位として、「生活ビジネス学」を学位名称としている。

なお、学位名称の英訳は「Associate Degree of Life and Business 」としており、国際的に通用性を持つ名称と考える。

４ 教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程編成の基本

本学科は、学科連係課程実施学科として、連係協力学科である生活学科の生活関連の教育課程と、連係協力学科であるビジネスコミュニケーション学科のＩＴ技術を中心としたビジネス関連の教育課程を実施する。

教育課程の編成にあたっては、学科連係課程実施学科であることを基本に、ディプロマ・ポリシーに則り、データ分析力とデジタル及びものづくりのスキルを活かして、新しい時代の生活やビジネスに応用する方法を学ぶよう、次のようなカリキュラム・ポリシーを策定し、教育課程を編成した。

この横断的な分野に係る教育課程を本学で実施するにあたっては、基本的な事項を「横断的な分野に係る教育課程の実施に係る基本的な方針」として整理している。

【資料３】　横断的な分野に係る教育課程の実施に係る基本的な方針

（２）カリキュラム・ポリシー

養成する人材像、ディプロマ・ポリシーを実現するため、教育課程の基本的な考え方を踏まえ、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを制定した。

(CP1)　生活学とビジネス学に関する基礎的知識を身につけるための科目群を設置しています。

(CP2)　生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析及び情報活用を行うことができる能力を身につけるための科目群を設置しています。

(CP3)　様々なデジタルコンテンツの作成、Web や SNS を通した情報発信ができる能力を身につけるための科目群を設置しています。

(CP4)　リアルのものづくりを通して、イメージを実体のあるものに具現化する能力を身につけるための科目群を設置しています。

(CP5)　新しい時代の自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方が充実した生き方を選択できる能力を身につけるための科目群を設置しています。

(CP6)　身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、知識やスキルを生きて働くものとするとともに、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につけるための科目群を設置しています。

（３）共通科目と専門科目

カリキュラム・ポリシーを遂行するため、以下のとおり共通科目と専門科目を置く。

［共通科目］

共通科目は、幅広い教養と、総合的な判断力を養い、豊かな人間性を育てるために学科の枠を超えて設けられた科目である。1 群から 5 群に分類されている。1 群は、「芸術や文化を学ぶ」「社会や心理を考える」「科学でとらえる」「体育について学び体験する」という 4 分野が含まれている。2 群は、「外国語コミュニケーション能力を養う」もので、英語、フランス語、中国語と、留学生のための日本語がある。3 群は、「キャリア形成を考える」ことを目的としており、1 年次のキャリア基礎演習、2 年次のキャリアデザイン演習がある。4 群は、「環びわ湖単位互換科目」で、滋賀県内の大学で単位互換を行っている科目である。なお、5 群の「すみれ基礎科目」は、滋賀短期大学附属高校の生徒を対象に実施している科目群である。

【資料４】　共通科目の履修系統図

［専門科目］

デジタルライフビジネス学科では、①生活基礎分野、②ものづくりデザイン分野、③ライフ＆ワークデザイン分野、④ビジネス基礎分野、⑤データサイエンス分野、⑥デジタルデザイン分野、⑦実践力育成分野という７つの科目群に関する専門科目を設置している。これらの分野を掛け合わせて、新しい時代の生活とビジネスについて実践科目を通して学び、共感を生む企画力と実践力を磨く。

【資料５】　デジタルライフビジネス学科専門科目の履修系統図

（４）授業科目とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの関連性

授業科目とカリキュラム・ポリシーの関係（資料６）及び、ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時に修得しているべき能力の関連性（資料７）は以下のとおりである。

① 生活及びビジネス基礎分野は、DP1、CP1、CP2 が該当する。

生活やビジネスの現場で必須の知識とスキルを身につけるためのものである。

② データサイエンス分野は、DP1、DP3、CP2、CP6 が該当する。

生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析、活用し、PPDAC サイクルに結び付けることができる能力を身につけるためのものである。

③ デジタルデザイン分野は、DP2、CP3、CP6 が該当する

自分のアイディアやデザインをデジタル空間上に実現するためのスキルを身につけるためのものである。さらに、デジタルコンテンツとリアルのものづくりを、デジタル空間での情報発信と結びつけ、ビジネスや起業に応用できる能力を身につけるためのものである。

④ ものづくりデザイン分野は、DP2、CP4、CP6 が該当する。

自分のアイディアやデザインを活かしてリアルのものづくりを行うためのスキルを身につけるためのものである。

⑤ ライフ＆ワークデザイン分野は、DP3、CP5 が該当する。

Society5.0 を迎える新しい時代において、自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方を充実させる生き方を選択できる能力を身につけるためのものである。

⑥ 実践力育成分野は、DP3、DP4、CP1、CP2、CP3、CP4、CP6 が該当する。

身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、知識やスキルを生きて働くものとするほか、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につけるためのものである。

【資料６】　カリキュラム・ポリシーと授業科目の関係

【資料７】　ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時に修得しているべき能力

５ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

（１）教育支援

本学では、大学に求められている「学生の主体的な学修を促す質の高い教育」を確立するため、学生の入学から卒業まで一貫した修学支援・学生生活支援体制を強化するとともに、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの３つの方針（ポリシー）を踏まえた教育活動を実践するよう、全学的な教学推進に取り組む組織として、「教学マネジメント委員会」を設置している。また、学修支援組織として、「ラーニング・サポートセンター」を設置し、レポート作成、資格・就職試験対策やパソコンの使い方など学生の学習面に対してあらゆる面からサポートしている。また、学修支援システム「ポータルシステム」を全学的に運用している。

（２）履修系統図と学修状況の可視化

本学では、履修系統図を作成し、卒業までに身につけるべき知識と、これを得るための授業科目がどのように配置されているか、各授業の関連性を明示して、個々の学生が学修したい分野でどのように学修を進めていけば良いかを明確にして、学生の履修計画を支援している。

（３）科目ナンバリング制度による体系化

本学では、教務委員会が作成している「履修の手引きー科目ナンバリングー」に基づき、各学科において授業科目ナンバリングが実施されている。これにより、順次性のある体系的な教育課程を構築・確認することでカリキュラムの改善につながるとともに、個々の学生が学修したい分野でどのように学修を進めていけば良いかが明確になり、体系的な学修することができる。デジタルライフビジネス学科においても授業科目ナンバリングを適用することで、学生の能動的な履修計画の立案を支援する。

【資料８】　授業科目のナンバリング

（４）コース制による学修

本学科では、ファッションデザインなどの生活基礎の科目と、経営学概論などのビジネス基礎の科目を学んだ上で、1 年次後期から「デジタルライフコース」と「デジタルビジネスコース」の２コースに分かれて専門性を養う学びを提供する。「デジタルライフコース」は、生活学科がもってきた専門性を、「ビジネス」と結びつけて、ファッションやインテリア分野でのものづくりや企画力を、実際の社会現場で有用な形をとることを目指す。「デジタルビジネスコース」は、ビジネスコミュニケーション学科のもってきた専門性を、ウェブデザインや映像デザインなどを通じて、実際のライフ＝生活の場で生かせる応用力の養成を目指す。

【資料９】　デジタルライフビジネス学科履修モデル

（５）学修状況の可視化

本学では、1 年次前期終了時、1 年次後期終了時、2 年次前期終了時、2 年次後期終了時に授業評価アンケート結果、学生の GPA 分布を本学の学修支援システム「ポータルシステム」等で公開することで、学生は他学生の学修状況等を認識し、学修意欲を高めている。

（６）学修時間の確保

本学科では、履修科目の登録の上限を半期 30 単位とし、学生の授業時間外学修時間

を確保し、教育の質を担保する。

（７）デジタルライフビジネス学科における組織的な学修支援

学生一人ひとりの学修指導、生活支援を行うため、他学科と同様に担当教員を設けて指導を行う。1 年次前期はクラス担当教員が、1 年次後期からはコース担当教員を配置し、学生の指導を担当する。担当教員は、学科長、学長補佐（教務担当）、学長補佐（学生担当）、学長補佐（入試担当）、学務課職員と緊密に連携して、個々の学生の学修指導、生活支援にあたる。具体的には、随時相談を受け付け対応するとともに、週 1 回のクラスアワー（木曜日昼休み）と、学期終了後には個別面談を実施して履修指導を行う。問題ある事案が発生した場合は、学科内教員及び学務課職員などの関係者間において情報を共有し、協力して問題の解決にあたる。さらに、各教員がオフィスアワーを設定して、授業科目の履修指導とともに、気軽に相談等を行える機会を提供する。

（８）教務ガイダンスの実施

教務事項については、入学時、1 年次 7 月、1 年次後期開始時、1 年次 1 月、1 年次 3 月、2 年次 7 月、2 年次後期開始時、2 年次 1 月と、時期毎に必要となる事項を中心に教務ガイダンスを実施し、履修上の注意点及び履修状況を指導、周知することで、学修に対する意識を喚起していく。

（９）履修指導

学生の履修指導は、学期末に教務担当教員がポートフォリオに基づいて実施する。

(10) 学生の帰属意識の醸成

本学科に在籍する学生の帰属意識の醸成は、本学科に属する学生だけの「担当教員制度による指導」、「クラスアワーによる学生間のコミュニケーション機会の場の提供」などにより、本学科で学ぶモチベーションの向上を図り、教育目標を達成する。

(11) 卒業要件

本学科の学生は、共通科目において、必修科目を 2 単位、選択科目から 8 単位以上の計 12 単位以上を修得する。専門科目は、必修 19 単位、選択から 31 単位以上の計 50 単位以上を修得した者に学位を与える。

(12) 外国人留学生

本学では、留学生を受け入れるにあたって一定の日本語能力（日本語能力試験Ｎ２レベル相当以上）を求めている。入学後は、当初説明で留学生用に漢字にルビを付した資料を作成しているが、原則、他の学生と同様の履修指導を行う。特別措置としては、共通科目に留学生用の「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」を開講している。

生活指導等の体制については、キャンパスライフ・サポートセンターの学生支援コーディネーターが相談窓口となり、クラス担当教員と連携しながら履修指導や健康管理、日常生活等の支援を行う。また、日本での就職を希望する者については、キャリア・サポートセンターにおいて就職指導と職業紹介を行うとともに就職後の就労状況の確認などをフォローし、ラーニング・サポートセンターでは、就職に向けて日本語能力試験対策を実施する。また、留学生チューター制度を設け、日本人学生が留学生の学習及び生活面の支援活動を行い、留学生の学習効果の向上、生活の環境への適応を図る。

６ 企業実習（インターンシップを含む）の具体的計画

（１）実習の目的と特徴

本学科には、資格取得のための企業実習は設けていないが、選択集中科目として、１年次前期の「インターンシップⅠ」、１年次後期の「インターンシップⅡ」において、それぞれ５日間のインターンシップの実習を設けている。実務経験のある教員の指導のもと、事前指導として、職場でのマナーや心構えをしっかり学び、事後指導として、学んだ内容をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションすることになる。

ここでは、実習を通して現場で活躍している実務者の実践的な知識や技能に触れることにより、それまでの学びが現場ではどのようにいかされるかを体感し、課題探求力や解決力、企画力などの必要性が実感できる。また、職業生活のみならず、仕事と生活のどちらも視野に入れた働き方を意識するなど、学生の将来設計についても考える場としての意義をもつ。滋賀県はものづくりの工場が多いため、主に地元企業を実習の場として設定することは、ものづくりの原点を理解し、新しく生み出した価値のより発展的な発信方法を模索する機会ともなり得る。

企業実習を通して得られた新たな知識や課題解決力、今後必要だと認識した知識や技術力をまとめた事後報告会を実施することで、実習を通して得た貴重な情報を担当教員と学生間で共有することができる。さらに、その内容を担当教員が精査し、今後の実習先の選定や実習内容及び事前事後指導に反映させることで、より実践的な取り組みに発展させていくことができる。学生は、この体験により、社会生活や職業生活に必要とされる能力だけでなく、基礎的な技能は何であるかを体感し、それらの獲得のために主体的な行動ができるようになると考える。

（２）実習方法と評価方法

実習の体制としては、企業で実務経験がある教員が、実習先の選定、事前指導、実習プログラム、事後指導の内容や成果の取りまとめに至るまでの対応を担当する。また、実習先の選定をはじめプログラムの運営については、キャリア支援課と連携し、より効果的なプログラムの構築を目指す。

実習先としては、滋賀県や京都府などの地元企業や自治体、各種団体であること、実習の趣旨を理解し積極的に取り組む姿勢があること、今後も実習の継続が可能であることなどの条件から、総合的に判断し選定する予定である。ホテル・旅館及びスポーツ関連企業については、すでに本学との協力体制を構築しているが、今後、さらに本学科の人材育成を理解しデジタル改革に熱心な企業を開拓して、実習の協力体制を整えていきたい。また、滋賀県が運営する総合就職支援施設「しがジョブパーク」の学生向けインターンシッププログラムを利用するなど、選択の幅を広げていきたい。

実習の流れは、1年次前期の教務ガイダンスにおいて、実習の目的や実施時期、期間等の概要について学生に説明する。実習実施に備え、担当教員とキャリア支援課で実習先の選定、事前指導から事後指導に至るまでの流れ、学修支援の役割分担等具体的な実習案を検討、作成する。履修ガイダンスでは、実習に参加することで期待される効果、望ましい実習への取り組み方、評価方法について具体的に説明をする。実習終了後は、学生から実習報告書と自己評価表を提出させ、実習先企業等の担当者からは評価シートを提出いただく。取りまとめた結果を教員間で共有し、次回の実習プログラムを再構築する。

実習の評価と単位認定の方法であるが、学生から提出された実習日誌、報告書、自己評価表及び実習先担当者による評価シート、そして事後指導で行う実習報告のプレゼンテーション内容をもとに、本学の教員が総合的に判断することになる。

（３）実習の具体的内容

1年次の夏季休業期間中に「インターンシップⅠ」として、春季休業中に「インターン

シップⅡ」の授業として、いずれも 5 日間、計 2 回の参加を原則としている。学生には実習参加に関する留意点を記した誓約書を提出させ、実習先には志望理由書を送付する。2 回の事前指導では、職場でのマナーや心構えをしっかり学ぶが、これを 1 回でも欠席した者、及び事前指導において実習の目的を達成できる見込みがないと判断した者や受講態度に著しく問題がある者は、実習への参加が許可されないこととなる。

実習先としては、各種ナビやハローワーク情報を利用するなど、原則として関心ある企業を学生自身が選定するが、事前に担当教員から選定先の承諾を得ることが条件となっている。また、ホテルや旅館、スポーツ関連企業を希望する学生については、本学と協力体制にある実習先を割り当てることになる。実習先企業とは予めインターンシップに関する覚書を結んだ上で実習を実施する。

実習中は、実習日誌を自習先の指導担当者に報告し、具体的な指導を受けることとなる。実習終了後はインターンシップ報告書を作成し、本学の担当教員に提出する。事後指導としては、学んだ内容を実習報告としてパワーポイントにまとめ、プレゼンテーションすることになる。ただし、滋賀県などの公的な就職支援施設を通してインターンシップに参加した場合は、上記以外の取り決めが生じることがある。

7 教員組織の編成の考え方及び特色

本学の専任教員は、短期大学設置基準に基づき、学長のほか、生活学科 6 名、幼児養育保育学科 11 名、ビジネスコミュニケーション学科 9 名の計 27 名を配置し、このうち共通科目を 5 名が担当している。

本学科は、学科連係課程実施学科として、現存の生活学科、ビジネスコミュニケーション学科の特性と、これまでの教育研究上の蓄積を生かして設置することとしており、本学科のカリキュラムにおいても、現存学科の所属教員を担当教員として配置している。具体的には、生活学科の非常勤講師 1 名を新たに本学科の専任教員（講師）として採用し、加えて生活学科の専任教員 2 名（教授 2）とビネスコミュニケーション学科の専任教員 3 名（教授 2、助教 1）を兼担として計 6 名で学科を運営していくこととしている。さらに、横断的授業として他学科等の専任教員 20 名の授業を予定しており、従来の学科毎の授業から横断的な授業を実施する教員組織の編成となっている。また、研究分野としては、各教員の専門領域に関する研究の他に、高度デジタル社会で必要とされる能力をどのように学生に身につけさせるかという課題を中心に、教育方法に関する研究を行うが、この研究は、本学科の担当教員全員の協力のもとで進めることとしている。

なお、本学は満 65 歳の年度末に退職となる定年制を採っているが、本学科の担当教員の一部（生活学科 1 名、ビジネスコミュニケーション学科 1 名）には設置年度に退職年齢を超える教員も含んでいる。これに対して、設置年度に定年退職を迎える教員で、本学科の設置に必要な教員については、再雇用によってその後も継続して勤務できる制度を令和 3 年 7 月に設け、少なくとも本学科の完成年度までは勤続可能にしている。しかし短期的には再雇用によって担当教員が確保できても、中長期的には次世代を担う人材が必要であり、令和 4 年 4 月採用を目指して、現在、専任講師クラスの教員を公募しているところであり、その後も同様の措置を行う予定である。

また、教員の業務管理について、本学科は、教育研究活動の低下を招かないよう、業務の遂行手段及び時間配分の決定などは、他学科と同様に「専門業務型裁量労働制」として各教員の裁量に委ねるが、「滋賀短期大学教員研修日並びに他大学出講等申合せ」（資料 10）及び「滋賀短期大学授業担当のルールについて」（資料 11）に基づき、勤務時間は、1 年間を平均して 1 週間あたり 40 時間とし、そのうち土曜日以外の 1 日（8 時間分）を教員の研修日に充てることとなる。専任教員の 1 週あたりの授業時間数は、原則 12 時間としており、他大学等へ非常勤として出講する場合は、出勤日以外の日で週 3 コマ（6 時間以内）までを原則としている。

専任教員の勤務状況については、「登学表」により把握するが、外部での教育活動等については、各教員から総務課へ事前に報告を義務付け、毎月の教授会において報告することとしている。学科長は、定期的に各学科教員との面談を行いながら、教員個々の業務量の把握に努め、必要な場合にはその適切化に取り組む。

【資料 10】　滋賀短期大学教員研修日並びに他大学出講等申合せ

【資料 11】　滋賀短期大学授業担当のルールについて

８ 入学者選抜の概要

（１）入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

デジタルライフビジネス学科については、次のアドミッション・ポリシーに基づき入学者選抜を実施する。

（AP1） データ分析、デジタルやリアルの「デザイン」や「ものづくり」、インターネット上への情報発信等に興味を持ちビジネスや生活の場で、新しい知識やスキルを生かして、よりよい社会の創造に貢献したいと考えている人

（AP2） Society5.0 を迎える新時代におけるビジネスと生活に関心をもち、生活やビジネスの諸課題に自ら積極的に取り組み解決しようとする意欲や熱意のある人

（AP3） 本学科で学んだ知識やスキルをもとに、自分で起業することを目指している人

【資料 12】滋賀短期大学「学力の三要素」と入学者選抜における「評価方法」との関係

（２）選抜方法と選抜体制

入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学科のアドミッション・ポリシーを踏まえつつ、基礎学力だけでなく勉学意欲や多様な個性や能力を評価するため、総合型選抜、学校推薦型選抜Ａ・Ｂ・Ｓ、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、社会人や外国人留学生を対象とした特別選抜を実施し、受験生のニーズに応えるとともに、個々の能力が発揮できるような選抜方法を実施する予定である。

学生募集については、ホームページをはじめ、大学案内、入試ガイド（学生募集要項）等の多様な広報活動を展開して、アドミッション・ポリシーに適合する学生 30 人を確保する。

一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜にまとめて出願する場合は入学検定料の割引制度を実施し、受験生の経済的負担の軽減に努める。また一般選抜（Ｉ期）において、入学試験成績優秀者には奨学金（年間授業料の半額～全額相当額）を給付する。

なお、学校推薦型選抜Ｓについては、第１期生の入学者選抜実績を勘案し、第 2 期生の入学者選抜から実施する。

①第 1 期生（令和 4 年度）受入れのための実施（案）

・学校推薦型選抜Ａ（指定校）（併設校）

本学が指定する高等学校及び附属高等学校の校長が推薦する学業・人物ともに優秀な者について、面接・小論文・推薦書・調査書によって学力の 3 要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：11 月中旬　　合格発表：12 月上旬

募集人員：4 人

・学校推薦型選抜Ｂ（公募制推薦）

出身学校長の推薦に基づき、基礎テスト（国語基礎テスト）、面接、推薦書、調査書によって学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：前期 11 月中旬　　合格発表：前期 12 月上旬

後期 12 月上旬　　後期 12 月下旬

募集人員：前期 4 人　　後期 4 人

・総合型選抜（ＡＯ入試）

事前相談の結果を主とし、これに志望学科の受講レポート、調査書、エントリーシートによって学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

事前相談：10 月中旬　　結果通知：10 月中旬

試験実施：10 月下旬　　合格発表：11 月上旬
募集人員：8 人

・一般選抜

学力検査（国語総合又は小論文）の成績を主とし、これに面接・調査書を加えて学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：Ⅰ期２月上旬　　合格発表：Ⅰ期２月中旬
Ⅱ期３月上旬　　Ⅱ期３月中旬
募集人員：Ⅰ期４人　　Ⅱ期２人

・大学入学共通テスト利用選抜

大学入学共通テストの国語（近代以降の文章）と高得点の１科目の成績を主とし、これに調査書を加えて学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：Ⅰ期２月上旬　　合格発表：Ⅰ期２月中旬
Ⅱ期３月上旬　　Ⅱ期３月中旬
募集人員：Ⅰ期２人　　Ⅱ期２人

・社会人特別選抜

書類審査・小論文・面接によって学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：①12 月中旬　②2 月上旬　③3 月上旬
合格発表：①12 月下旬　②2 月中旬　③3 月中旬
募集人員：若干名

・外国人留学生特別選抜

書類審査・小論文・個人面接・口頭試問によって学力の３要素を評価し、合否判定を行う。

試験実施：①11 月上旬　②12 月中旬　③2 月上旬　④3 月上旬
合格発表：①12 月上旬　②12 月下旬　③2 月中旬　④3 月中旬
募集人員：若干名

（３）合格者決定手続き

合格者の決定は、各選抜方法の実施要項に基づき、各入学者選抜試験終了後に判定のための入学試験委員会を実施し、判定教授会を経て学長が行う。

（４）入学前教育の取組み

本学では、入学手続きを取った入学予定者全員に、学科ごとに学力のレベルチェックと基礎学力強化のため、入学前教育を実施している。また、入学予定者を対象に、入学後の学生生活への不安解消等、授業に向けた準備等をスムーズに行うため、入学前オリエンテーションを開催する。

９ 施設，設備等の整備計画

（１）校地の整備計画

本学は、1つのキャンパス（20,753㎡）に3学科（生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科）が配置され、図書館、保健室などを設置している。学生数は2学年で約600人である。さらに、本学では、既存学科の設置基準上の要件を満たした上で、コンピュータ室などの共同利用を図っているため、既存の講義室、研究室をデジタルライフビジネス学科と共同利用することが可能である。

（２）校舎等の設備計画

本学科は、講義、演習、実習など、それぞれの授業科目の内容に合わせて、既設の講義室、実習室、設備等を共同利用する。

（３）図書館の整備事情及び資料

本学の図書館（536㎡、閲覧座席数63席）は、現在約8万5千冊の蔵書や資料、各学科の専門的な図書を保有している。さらにOPAC（蔵書検索）を導入し、研究紀要や研究成果等を滋賀短期大学学術情報リポジトリ（https://shigatan.repo.nii.ac.jp/）により公開している。本学の学生、教職員等は学生証あるいは職員証提示により図書館に入館でき、図書館保有情報を自由に利用できる。通常の開館時間は8時30分から18時までで、土曜日（隔週）及び特別開館日は9時から13時まで、日・祝日（授業開講日除く）及び夏季一斉休業日や年末・年始等は休館となっている。館内には、パソコン、無線LAN、コピー機等の設備が整っている。視聴覚コーナーを整備するなど、学生のニーズや多様な学習形態に対応した環境を提供している。

（４）デジタルライフビジネス学科における具体的な施設、設備等について

連係協力学科である生活学科とビジネスコミュニケーション学科とは教員の研究室、学生が利用する空間、講義室といった施設の利用においても連係し協力する。研究室は空いている研究室を活用し、講義室は時間割上の未利用教室を使用する。また、新設する本学科は1学年30人規模であるが、今回、募集定員を50人減員する幼児教育保育学科のクラス数が1～2程度減ることから、連係協力学科を含む他学科教育への施設、設備面での影響はない。

自習室については、全学的に設置している「ラーニング・サポートセンター（1号館1階)」と、スカイロビー・PBLルーム（3号館3階）が利用でき、学生が休憩するスペースとしては、1号館1階に学生ホール、食堂等が備えられている。

教員の研究室について、当面は空研究室を活用するが、将来的には学生の帰属意識を醸成するためにも、本学科の専任教員と連係協力学科の兼担教員とがより連係をとりやすい配置とする。

１０ 管理運営

本学は、教員と事務職員とが役割を分担しながら連携して教育研究を実施するよう、教授会、科会、各種委員会といった教育面での管理運営組織を設け、学長の指揮のもと、組織的・統一的な運営を図っている。

（１）全学的な管理運営

本学では、学長による全学的なガバナンスの下、運営上重要な事項等を決定し執行するため、総務担当と学務担当の副学長（教員）を置き、さらに教務担当、学生担当及び入試担当の学長補佐（教員）を置いている。

また、全学的な重要事項や、学部間との連絡調整が必要な事項等については、学長、副学長、学長補佐、各学科長に加え、事務局の事務局長、事務局次長、学務課長、キャリア支援課長、入試広報課長により構成する執行部会議で協議することとしており、そこでの議論を踏まえて学長が承認・決定し、担当する学科・関係課で関係事務を執行している。

さらに、各学科選出の教員と担当課職員からなる教職連携組織として、入試広報センター、キャンパスライフ・サポートセンター、キャリア・サポートセンター、高等教育開発センター、ラーニング・サポートセンター及び地域連携教育研究センターを設け、副学長もしくは学長補佐がセンター長となって学科横断的な事務事業を執行している。

（２）教授会

本学では、特に教学面において学長に意見を述べる教員組織として、学則第 45 条に基づき教授会を置いている。

教授会は、学長及び教授、准教授、講師、助教をもって組織され、①入学及び卒業に関する事項、②学位授与に関する事項、③教育課程の編成に関する事項、④学生の学修評価に関する事項、⑤学生の賞罰に関する事項、⑥学則その他の規定に関する事項、の他、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長の求めに応じ、意見を述べることとしている。毎月１回の定例会が開催され、必要な場合は臨時教授会を開催している。

その他、教授会の運営に必要な事項は、滋賀短期大学教授会規程に定めており、規程の改正・廃止は、同規程第 11 条により教授会の議を経て理事会が行うこととなっている。

（３）科会

各学科には、所属するすべての専任教員による科会を設けている。学科長が滋賀短期大学科会規程に基づき毎月１回招集し、必要な事項を協議しながら学科運営にあたっている。本学科については、兼務教員が多いため、連係協力学科との緊密な連係及び協力・調整を行いながら運営を行う。

（４）各種委員会

教育上の重要事項の企画･審議を行うため、関係規程に基づき、各種の委員会を設けている。各委員会の委員長は学長、副学長もしくは学長補佐が就き、委員には各科から1～2 名の専任教員（兼務職員からの選出も可）が選出されている。学科から選出された委員は、所属委員会の所管事項については学科での運営を主体的に担っている。学長が委員長である企画委員会は、執行部の教職員を中心に構成され、情報の共有、意見交換、協議及び調整を行い、学長の教学面でのリーダーシップを支えている。

主な委員会は次のとおりである。

委員会名	企画・審議事項	委員長
企画委員会	(1) 将来計画に関すること (2) 教員組織に関すること (3) 施設・設備に関すること (4) 予算に関すること (5) その他本学の運営上重要な事項に関すること	学長
教学マネジメント委員会	教学等に関わる重要事項に関すること	学長
入学試験委員会	(1) 入学試験制度に関すること (2) 入学試験に関すること (3) 入学試験の運営、問題作成、採点、面接及び監査等の委員の決定に関すること (4) 入学試験結果の合否判定に関すること (5) 再入学に関すること (6) その他入学試験の実施に関すること	学長
総務委員会	(1) 広報活動に関すること (2) 倫理人権に関すること (3) 国際交流に関すること (4) 施設整備に関すること (5) 情報システムに関すること	副学長 （総務）
教務委員会	(1) 学生の退学、転学、休学及び卒業等に関すること。 (2) カリキュラム、シラバス、履修、試験及び成績評価に関すること。 (3) 教育の内容及び方法の改善に関すること (4) その他教育課程の実施に関すること	学長補佐 （教学）
学生委員会	(1) 学生生活支援に関すること (2) 課外活動支援に関すること (3) 保健管理に関すること (4) その他学生支援に関すること	学長補佐 （学生）
キャリア支援委員会	(1) キャリア形成に関すること (2) 就職及び進学に関すること (3) 職業紹介に関すること (4) その他学生のキャリア支援に関すること	副学長 （総務）
学生募集委員会	(1) 学生募集に関すること (2) 入試広報に関すること (3) 学生の入学に関すること (4) オープンキャンパスや施設見学に関すること (5) その他学生募集活動に関すること	学長補佐 （入試）
紀要・図書委員会	(1) 図書館の管理運営に関すること (2) 研究紀要に関すること (3) 学報に関すること	副学長 （総務）

１１ 自己点検・評価

（１）実施体制と取り組み

本学では、学則第 2 条に「本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」と定め、本学に自己点検・評価統括委員会及び自己点検・評価委員会（以下、「評価委員会」という。）を設置し、評価委員会の下に第 1 部会、第 2 部会、第 3 部会、第 4 部会、第 5 部会の 5 部会を組織している。

これまでの主な取り組みは、3 つのポリシーのＰＤＣＡ、学生による授業アンケートの実施とその結果を受けた授業改善、シラバスの改訂・充実、施設整備の充実等であり、さらに認証評価機関からの評価結果に対する改善改革方策の策定等についての自己点検・評価活動を行い、充実した実学教育の滋賀短期大学を目指し取り組んでいる。

平成 20 年度と平成 27 年度には、（財）短期大学基準協会（現：大学・短期大学基準協会）による第三者評価を受け、「適格」との認定を受けている。なお、令和 4 年度には次の認証評価を受ける予定としている。

（２）点検・評価項目

大学・短期大学基準協会が示す 4 つの基準、12 のテーマに従って点検・評価を実施している。

①建学の精神と教育の効果（Ａ建学の精神、Ｂ教育の効果、Ｃ内部質保証）
②教育課程と学生支援（Ａ教育課程、Ｂ学生支援）
③教育資源と財的資源（Ａ人的資源、Ｂ物的資源、Ｃ技術的資源をはじめとするその他の教育資源、Ｄ財的資源）
④リーダーシップとガバナンス（Ａ理事長のリーダーシップ、Ｂ学長のリーダーシップ、Ｃガバナンス）

（３）結果の活用及び公表

本学では、毎年度、自己点検評価を実施し、学内で共有するとともに、ホームページでその結果を公表している（https://www.sumire.ac.jp/tandai/guide/release/）。

各学科、委員会等に係る課題については、次年度の改善目標として取り組むよう学長より指示されており、全学はもとより、各部門においても積極的な自己点検・評価活動に努めている。また、認証評価に関する自己点検・評価報告書、協会から通知を受けた評価結果についてもホームページで公表している
（https://www.sumire.ac.jp/tandai/guide/evaluation/）。

１２ 情報の公表

（１）公表の方針

大学の教育研究活動等に関する情報については、社会的な関心が高まっており、また、大学が公共的な機関であることに鑑み、本学の教育研究活動等に関する情報を広く社会に提供している。

（２）公表の方法

主に本学のホームページを通して積極的に公表している。ホームページアドレスは以下のとおりである。

①教育情報の公表　https://www.sumire.ac.jp/tandai/guide/release/

②修学支援情報の公表　https://www.sumire.ac.jp/tandai/guide/learningsupport/

加えて、教育研究活動の成果を定期的に「研究紀要」としてホームページで公開し、地域連携活動の成果を定期的に「地域連携年報」として発行している。

③滋賀短期大学学術情報リポジトリ　https://shigatan.repo.nii.ac.jp/

（３）公表項目とその内容

本学では、以下の項目について、具体的な内容を公表している。

①　教育情報の公表

・教育研究上の目的

建学の精神、学科及び学生定員、学科・コースの教育目的、学科紹介、学則、沿革、協定締結一覧

・教育研究上の基本組織

組織図、寄附行為、役員名簿

・教員組織、教員数、各教員の学位・業績等

役職者一覧、教員一覧、専任教員数、大学設置基準上必要な専任教員と現状教員数、共同研究、科研費一覧、名誉教授一覧

・入学者に関する受入方針・入学者数・在学者数・卒業者数・就職者数等

入学者受け入れ方針（アドミッション、ポリシー）、入学者数、出身高等学校の所在地県別入学者数数、入学定員・収容定員・学生数、卒業者の進学・就職状況、卒業者数、進学者数、就職者数、就職率、免許、資格取得状況

・授業科目、授業内容、年間授業計画等

カリキュラム・ポリシー、履修要項（履修方法、成績評価等）、シラバス・授業科目・履修系統・教職カリキュラム、学科・コース履修（時間割）モデル、シラバス作成の手引き、教務必携

・取得可能な学位、卒業必要単位数等

ディプロマ・ポリシー、学位記、卒業・免許・資格要件

・教育研究環境に関わる校地、校舎等の施設設備

校地・校舎面積、キャンパス・施設配置図、アクセス、校舎等の耐震化率

・授業料、入学料等の学費等

学費納付金、寄付募集、寄付金額

・修学・進路選択・心身の健康等に係る支援等

学年暦、学生表彰制度、課外活動団体、学生サポート、健康管理、奨学金、就職・編入・資格支援、社会人卒業生の状況、外国人留学生の進路状況、障害学生支援に関する基本方針、障害学生への支援に関すること

・教育研究上の情報

教育条件、教育内容、学生の状況、国際交流、社会貢献等の概要

・自己点検・評価報告書、中期目標・計画

中長期経営計画、自己点検・評価報告書

・財務情報

事業報告及び決算概要報告

・ＩＲ情報

授業アンケート、短大生調査、卒業生就職先等への評価アンケート結果、卒業生に対するアンケート調査

② 修学支援情報の公表

・機関要件確認申請書

・客観的な指標に基づく成績の分布を示す資料

１３ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）研修等の推進組織

本学では、教育活動の改善及び向上を円滑に実施するため、高等教育開発センターを設けている。本学の教育力向上のためのシステムや教授法の開発、教育活動の支援、教職員の能力開発、学内外の教育研究等に関する情報の収集・分析・評価等を目的としており、次の業務を所管している。

・ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）に関すること
・授業評価、教材・教授法の開発及び授業研究に関すること
・教育活動の支援に関すること
・スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）に関すること
・インスティテューショナル・リサーチ（以下「IR」という。）に関すること
・その他本学の教育向上に関すること

また、このセンター内には、ＦＤ研修及びＳＤ研修を取り扱う「ＦＤ・ＳＤ部会」と、学内外の教育研究及び業務運営等に係る情報収集と収集情報の分析・評価を行う「ＩＲ部会」を置き、専門的事項の調査・検討等を行っている。

さらに、教務委員会と教学マネジメント委員会においてＧＰＡ等の教学データの収集、調査、分析を行っており、教授会等での報告を通じて情報の共有を図り、教育内容等の改善に努めている。

（２）学内研究会とＦＤ・ＳＤ研修

高等教育開発センターにおいて学内研究会を開催し、授業時の工夫、ICT 教育利用、シラバスの作成方法などの講習を通して、授業・教育方法の改善を行っている。

学生に対して前期・後期ごとに「授業評価アンケート」を実施し、その分析結果を教員が情報共有するとともに、教員相互の授業参観も実施している。さらに、教員を対象とするＦＤ研修会や全教職員を対象とするＳＤ研修会を定期的に開催している。(平成２年度開催実績：ＦＤ研修会４回、ＳＤ研修会１回)。また、非常勤講師対象の研修会も実施している。

これら高等教育開発センター活動の成果に加え、学科毎に開催する科会での情報提供や意見交換、全学的な人権研修の開催や外部研修会への教職員の出席等により、本学の教育内容等の改善を図っている。

なお、専任教員に対しては専門教科研究や外部研修等に充てられるよう、毎週、月曜日から金曜日のうち１日を研修日としている。

（３）ＩＣＴの取組

情報システム委員会を設置し、授業教材や学生指導、情報伝達のための新しいツールの使用方法を常に周知している。令和２年度は新型コロナウィルス感染症の影響で、Google classroom による課題の出し方や、学生の課題提出の仕方、動画教材作成の手順などについて、作業手順を動画にまとめ、YouTube で公開した。また学内のＦＤ研修会においても教職員のＩＣＴスキルの向上を図った。

１４ 社会的・職業的自立に関する指導及び体制

（１）教育上の取り組み

本学は「心技一如」の建学の精神のもと、短期大学の２年間で学科の専門性に応じた資格や免許を取得するだけでなく、学科共通科目によって専門にとらわれない教養を学ぶことで、高い専門性とあわせて幅広い教養を身につけ、そして将来必要な社会性を備えた、いわば総合的な人間力をもった人材を養成することが、本学の教育の特徴である。このため、社会人として必要な知識・技能・コミュニケーション能力などを身につけ、生涯にわたり生活を豊かなものとする将来設計を築けるよう、入学してすぐにキャリア教育を始めることとしている。

本学科のキャリア形成としては、1年次に「キャリア基礎演習」、2年次に「キャリアデザイン演習」を共通教育の必修科目として、学科ごとにその専門性を加味した内容で学ぶこととしている。社会人基礎力養成としては、1年次に「地域貢献演習Ⅰ」、2年次に「地域貢献演習Ⅱ」を専門教育の選択科目として学ぶこととなる。

「キャリア基礎演習」においては、短大生活の間に、自らの生涯を通じたキャリア形成を考えるために必要な基礎知識を修得すること、社会人としての基礎的な知識を身につけ一般常識やマナーを修得すること、この２点を授業の到達目標としている。授業の内容は、取得したい資格や免許の取得に必要となる学習の基礎的知識を再確認し、授業をより理解し深められるよう、学科・コースごとに内容を設定して学習し、また、世界情勢や政治・経済情勢などにも興味をもち、理解することができる内容とし、就職活動を進めるうえで必要な準備を整えることもねらいとしている。2年次の「キャリアデザイン演習」では、「キャリア基礎演習」で修得したことをもとに、職業選択や就労形態など、自分自身のライフプランニングを考えることを目標に、社会人として組織で働くための心構えや考え方を身につけることや、本学の卒業生や企業担当者を招き、いま企業でどのような人材が必要とされているのかを考える機会を提供することとしている。

専門科目では、「地域貢献演習Ⅰ」と「地域貢献演習Ⅱ」において、地域企業との連携やボランティア活動等を通して社会貢献の意義や社会人基礎力の必要性を理解するとともに、コミュニケーション能力の向上を目指している。さらに、ビジネス基礎と生活基礎科目、データサイエンス分野、デジタルデザイン分野、ものづくりデザイン分野、ライフ＆ワークデザイン分野を学び、新しい時代の生活やビジネスを生み出す企画力や実践力を磨くこととしている。

（２）取得資格と活動分野

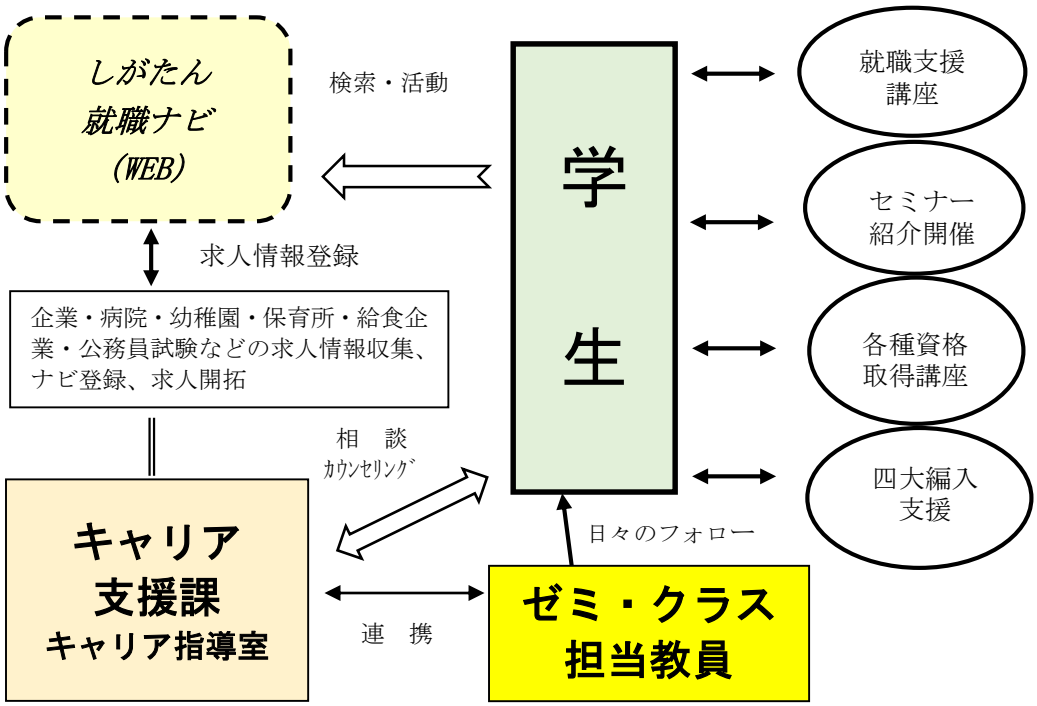
本学科では、資格取得要件の単位を取得すると、卒業と同時に「上級情報処理士」と「ウェブデザイン実務士」を得ることができる。また、開講授業の学習成果を生かして「ファッション販売能力検定」や「パティスリーラッピング資格検定」、「色彩検定（R）」の資格取得が可能である。これらの資格を取得し、金融・不動産業界（企画・調査）、マスコミ業界（映像編集・広報）、デザイン業界（CGデザイン・WEBデザイン）、ファッション業界（ファッションビジネス・コーディネーター）、インテリア業界（コーディネーター）、美容業界（ネイル）など、ライフ＆ビジネスの分野で活躍できるよう指導していく。

（３）指導の体制

本学では、キャリア・サポートセンターを設け、入学直後から在学中、進路決定までの間、各種のキャリア支援プログラムを提供し、学生のキャリア形成や就職・進学を支援している。センター長には総務担当の副学長が就き、各学科選出の教員と事務局のキャリア支援課職員とが連携して、キャリア教育の推進、就職や大学編入に係る支援、職業紹介や就職先開拓、インターンシップに関する連絡調整など、学生のキャリア形成に

係る支援の企画、調整、実施を併せ行っている。
　また、学生一人ひとりの就職活動をきめ細かくサポートするため、センター内にキャリア指導室を置き、求人情報の学生への周知や各種就職ガイダンスの案内に加え、個人面談を実施し、学生の適性を把握して、ゼミ担当者とも情報を共有しながら、履歴書・エントリーシートの添削などの就職指導や就職先紹介、大学編入指導を行っている。
　さらに、卒業生を対象とした支援にも重点を置き、就職未決定者及び採用のミスマッチ等による早期離職者に対して就職相談や求人紹介の支援も行っている。

キャリア・サポートセンターの業務



【資料目次】

【資料１】　滋賀短期大学の三つのポリシー　･･　2

【資料２】　デジタルライフビジネス学科で

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係　･･････････　8

【資料３】　横断的な分野に係る教育課程の実施に係る基本的な方針　･･････････････････　9

【資料４】　共通科目の履修系統図　･･　10

【資料５】　デジタルライフビジネス学科専門科目の履修系統図　･･････････････････････　11

【資料６】　カリキュラム・ポリシーと授業科目の関係　･･････････････････････････････　12

【資料７】　ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時に修得しているべき能力　･･････････　13

【資料８】　授業科目のナンバリング　･･　14

【資料９】　デジタルライフビジネス学科履修モデル　････････････････････････････････　15

【資料 10】　滋賀短期大学教員研修日並びに他大学出講等申合せ　････････････････････　16

【資料 11】　滋賀短期大学授業担当のルールについて　･･････････････････････････････　17

【資料 12】　滋賀短期大学「学力の三要素」と

入学者選抜における「評価方法」との関係　･･････････････　18

【資料１】滋賀短期大学の三つのポリシー

本学教学の基本方針		
本学は、心技一如の建学の精神により築きあげてきた実学教育の伝統を踏まえ、来たるべき新しい社会に、適切に対応する専門的能力をもった人材を育成します。本学の卒業生は、深い人間性と高い倫理観をもつとともに、以下の３つのポリシーを身につけた専門性と教養を活用して、職場や地域社会に存在する様々な課題に取り組み解決する能力を有します。		
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
卒業時点において、以下の観点から、各学科・コースの目的に沿った専門的な知識と、それを有効にいかすための技能、さらにそれらの基礎になる人間力をもっていることを求めます。 【専門知識と教養】 各学科・コースが掲げる専門的知識だけではなく、それを支える広い視野をもつために、幅広い教養が身についていること。 【専門性をいかす技能】 専門知識を理解したうえで、それを使いこなせる技能と、それを応用する実践能力が身についていること。 【問題提起・解決能力】 知識と技能を習得したうえで、専門分野にかかわる課題の所在やその分析の方法を総合的に考え、適切に判断して問題の解決にみちびく能力が身についていること。 【表現力・コミュニケーション力】 問題提起から分析を経て解決に至る過程と、その成果を効果的にアピールするための表現能力が身についていること。また豊かな人間性をもって人と人との円滑なコミュニケーションを実現する力が身についていること。	本学では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、4学科に共通のカリキュラム編成の方針を掲げると同時に、それぞれの学科・コースが、特色をもった教育カリキュラムを展開しています。 また丁寧でわかりやすい授業をおこない、学生の理解度を高める「学修者本位の教育」の実現を目指しています。 【カリキュラムの編成】 専門科目と一般教養科目をバランスよく配置し、2年間のすべての授業が有機的に連携して機能するよう、系統的なカリキュラムを編成しています。 【アクティブラーニングの充実】 アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生と教員、あるいは学生同士が向き合う授業を行っています。 【IT リテラシー、データサイエンス（リテラシーレベル）の教育の推進】 デジタルライフビジネス学科の新設を契機として、全学でデジタル社会に対応できる教育を推進します。ノートパソコンを必携し、デジタル機器やオンラインを活用した教育を行うとともに、4学科すべてで、IT リテラシーとデータサイエンスの基礎を修得するようにします。 【教育の質保証】 専門科目はできるだけ少人数教育ができるよう、同一科目でも複数クラスを置くなどの措置を講じています。また教育の質を高めるために、各教員が授業改善に努めることを制度的に確立しています。授業改善のためには学生の評価も積極的に導入し、その結果をフィードバックし改善につなげます。 【実習科目の充実】 実践に強い資質を身につけるために、実習科目を重視したカリキュラムを編成しています。資格・免許にかかわる学外実習科目については、十分な事前・事後指導を行い、実効性の高い実習ができるようにしています。 【キャリア教育の充実】 キャリア教育についても、独自の科目を設置し、入学から就職まで、社会人として基本的な資質を身につける教育を行います。インターンシップもキャリア教育の一環として、積極的に推奨及びサポートしています。	本学は、選択された学科・コースをなぜ志望したか、何を学びたいか、将来どのような分野で活躍したいかが明確で、学ぶ意欲を強くもつ人を求めます。 学力３要素の観点から、次のような資質・能力を求めます。 【知識・技能】 高等学校までの教育課程における基礎的な学力を身につけていること、とくに国語（日本語）において基本的な読む力と書く力をもっていること。 【思考力・判断力・表現力】 自分で論理的に考えることができ、集団において自分の意見を表現したり、課題について議論できコミュニケーション力をもっていること。 【主体性・多様性・協働性】 与えられた学修に加えて、自分から学ぼうとする意欲をもって学修し、その成果を、将来社会人として活かしていこうという意志をもっていること。 このアドミッション・ポリシーに合致した学生を受け入れるため、以下に示す選抜方法を実施します。具体的な選抜内容と学力の３要素の扱いは次のとおりです。 ◆総合型選抜 事前相談を行った後、レポート（エントリーシート、模擬授業受講レポート）と調査書により「思考力・判断力・表現力」を中心に、「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」についても評価します。 ◆学校推薦型選抜 A 高校時代に、学習に主体的に取り組んでいたことが必要で、小論文、面接、推薦書、調査書により、学力の３要素を総合的に評価します。とくに小論文、面接では「思考力・判断力・表現力」を、推薦書では「主体性・多様性・協働性」を評価します。 ◆学校推薦型選抜 B 国語（日本語）の基礎力があることが必要で、基礎テスト（国語）、面接、推薦書、調査書により、学力の３要素を総合的に評価します。とくに基礎テストでは「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接では「思考力・判断力・表現力」を、推薦書で「主体性・多様性・協働性」を評価します。

	【学修支援のためのセンター】 　ラーニング・サポートセンターにおいて、授業外にも学修を支援し指導を行います。センターでは個別の学生の学力や志望に応じた支援プログラムを実施しています。	◆学校推薦型選抜Ｓ 　特定のスポーツに秀でており、本学指定の部活動でどのような役割を果たしたいかが明確であるものに対し、提出書類（自己推薦書、推薦書、活動実績書、調査書）と個人面接により「思考力・判断力・表現力」を中心に、「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」についても評価します。 ◆一般選抜 　高校時代に学んだ国語（日本語）の総合力があることが必要で、学力検査（国語総合または小論文のどちらかを選択）、面接、調査書により学力の３要素を総合的に評価します。とくに学力検査では「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、面接では「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価します。 ◆大学共通テスト利用選抜 　高校時代に学んだ学習内容を十分身につけていることが必要で、学力検査（大学共通テスト試験科目）によって主に「知識・技能」について評価します。さらに調査書で主に「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価します。 ◆社会人特別選抜 　本学は多様な経験を持つ人材を受け入れることにより、活気ある大学となることを目指し、社会人を受け入れます。小論文・面接では主に「思考力・判断力・表現力」を評価します。 ◆外国人留学生特別選抜 　本学は外国文化を身につけた人材を受け入れることにより、活気ある大学となることを目指し、外国人留学生を受け入れます。小論文、面接、口頭試問では主に日本語能力と日本語による「思考力・判断力・表現力」を評価します。

生活学科

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
生活学科を卒業するためには、次のような資質や能力をもつことを求めます。 【専門知識と教養】 豊かな生活を実現するために必要な基礎的専門知識をもち、その上で生活全般にわたる広い視野にもとづいて考える能力。 【専門性をいかす技能】 最新の情報技術を理解し、それを生活分野に応用できる専門的技能と実践技術を修得し、生活の向上に積極的な提案ができる能力。 【問題提起・解決能力】 日常の生活全般を科学的・実践的に探求し、多様な現代社会を生活という観点から総合的にとらえ、その解決に向けて独創性のある提案ができる能力。 【表現力・コミュニケーション能力】 専門知識と実践的技能をいかして、自ら考えたことを適切な方法でプレゼンテーションする能力と、地域の伝統的な生活文化に対して敬意をはらい、専門家として地域社会において有効な役割を果たすことができるコミュニケーション能力。	生活学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを配置しています。 【学科全体の特色】 ●社会生活と健康、食品と安全、栄養と健康、食文化、食デザインに関する専門科目を配置しています。 ●実験実習を通して高い技術を身につけるために、豊富な実験実習科目を設置しています。 【各コースの特色】 ●食建康コースでは、卒業と同時に栄養士免許に加え栄養教諭免許も取得できます。地域との連携が充実しており、栄養士としての実践力が身につくカリキュラムを編成しています。 ●製菓・製パンコースでは、在学中に製菓衛生師免許を取得できます。菓子やパンだけでなく、食品一般の製造現場において活躍できる実践力が身につくカリキュラムを編成しています。 【デジタルライフビジネス学科との連係】 本学科は、ビジネスコミュニケーション学科と連係し、デジタルライフビジネス学科と共通のカリキュラムをもっています。暮らしをテーマに衣、食、住の各分野の専門知識に加え、デジタル技術を活用して快適で豊かな暮らしを提供できる専門家を目指したカリキュラムを編成しています。	生活学科では、次のような資質や能力をもつ入学生を求めます。 【求める学生像】 ●生活学はあらゆる科目にまたがる総合的な学問なので、いろいろな分野に興味をもち探求心をもっている人 ●健康で豊かな生活を目指して自ら楽しく実践し、自分らしく工夫する喜びや楽しみをもてる人 ●地域社会で積極的に活動し、地域に貢献する意欲をもっている人 ●食建康コースでは、栄養士免許を取得し、食を通じて健康づくりに貢献したい人 ●栄養教諭免許を取得して教育現場で食育に携わりたい人 ●製菓・製パンコースではお菓子やパン作りを将来の仕事として考えている人

幼児教育保育学科

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
幼児教育保育学科を卒業するためには、次のような知識や能力、資質を身につけていることを求めます。 【専門知識と教養】 子どもの心身の発育と発達についての基礎的、専門的知識と、現代社会における様々な問題に向き合いながら、子ども一人ひとりに対してどのような保育、教育を行うことが望ましいかについて理解する能力。 【専門性をいかす技能】 保育、教育、福祉の現場を理解し、そこで必要とされる技能を修得し実践する能力。 【問題提起・解決能力】 子ども一人ひとりに対し、置かれている環境や発達過程、心の動きに応じた課題を捉え、具体的な援助が行える能力。また、保護者の社会的な状況を理解し、相談援助ができる能力。 【表現力・コミュニケーション能力】 保育、教育の適切な記録を残し、伝達することのできる表現力と、子ども、そして保護者との信頼関係を築き、適切な指導、相談援助ができるコミュニケーション能力。	幼児教育保育学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを配置しています。 【学科全体の特色】 ●乳幼児期から青年期にあたる子どもたちの理解に必要な、基礎的な知識を理解するための科目を設置しています。 ●幼児教育や保育に関する知識をさらに深く理解するために、必要な専門科目を体系的に配置しています。 ●幼児教育や保育の現場で必要な実践的技能を修得するために、演習、実習科目を設置しています。 ●保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得のための科目を設置しています。 【興味関心を活かした学びの発展】 ●２回生配当科目として、教員の専門性を活かした内容で展開される専門演習を設定しており、自分の興味関心にもとづいて選択できるようにしています。 ●専門演習での学びを深めるために、より幅広い年齢層の子どもの心理や、多文化共生、特別支援などについて学ぶ科目や、子どものあそびについての理論的な理解と実践力を高める科目が配置されています。 ●アドバンスプログラムでは、将来、管理職を目指したり、公務員試験合格や４年制大学への編入を目指したりするための科目が配置されています。 ●プログレッシブプログラムでは、保育者になるための基本的な知識、技能を確実に身につけるための科目が配置されています。	幼児教育保育学科では、次のような資質や能力を持っている入学生を求めています。 【求める学生像】 ●子どもや、子どもを取り巻く伝統や遊び、文化について興味があり、理解したいと考えている人 ●子どもの育ちを支える保育や教育、福祉に興味があり、理解したいと考えている人 ●保育や教育、子どもの福祉に関わる仕事に就くことで地域に貢献したいと考えている人 ●保育士資格や幼稚園教諭免許を取得したいと考えている人 ●様々な背景を持つ人との関わりの中で、温かい心で他者を理解することに努めながら、冷静に自分の思いや考えを表現し、円滑なコミュニケーションを図る努力を怠らない人

ビジネスコミュニケーション学科

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
ビジネスコミュニケーション学科を卒業するためには、次のような資質や能力をもつことを求めます。 【専門知識と教養】 ビジネスコミュニケーション学科が設置しているビジネス実務コース、経営経済・地域ビジネスコース、医療事務コース、観光・ホテル・ブライダルコースの専門にかかわる科目を修得するとともに、幅広い視点から社会を理解する能力。 【専門性をいかす技能】 ビジネスの現場で必要な情報技術や実務的な技能を応用して、実際の課題に対応できる能力。 【問題提起・解決能力】 問題点を発見し、状況を判断し考察したうえで、適切な対応ができる能力。 【表現力・コミュニケーション力】 客観的な状況や自らの考えを適切に伝えるためのプレゼンテーション能力と、現場で責任感をもって行動し、相手を思いやる気持ちをもって協働できるコミュニケーション能力。	ビジネスコミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを編成しています。 【学科全体の特色】 ●社会における一般常識やビジネスマナーについて理解し実践するために、多様な科目を設置しています。 ●ビジネスの現場で必要とされるコンピュータ技術に関連する科目を豊富に設置しています。 ●ビジネス現場で必要とされる顧客や同僚とのコミュニケーションスキルを身につけるための科目を設置しています。 ●データを分析する能力を養うとともに、その結果を効果的にプレゼンテーションする技能を養成する科目を設置しています。 【各コースの特色】 ●ビジネス実務コースでは、ビジネスの現場で必要とされる知識を身につけ技能を養うための科目を設置し、実践力を身につけることを重視しています。 ●経営経済・地域ビジネスコースでは、経営学・経済学の知識を身につけ、地域活動への参加を通して課題発見・解決の実践力を身につけることを重視しています。 ●医療事務コースでは、医療秘書・医療事務に必要な知識を身につけ実務能力を養うための科目を設置し、実践力を強化することを重視しています。また、患者やその家族を思いやる心を養う科目を設置しています。 ●観光・ホテル・ブライダルコースでは、現場で必要なスキルと対人関係において重要なホスピタリティを養う科目を設置し、実践力を身につけることを重視しています。 【デジタルライフビジネス学科との連係】 本学科は、生活学科と連係し、デジタルライフビジネス学科と共通のカリキュラムをもっています。それらを履修することにより、情報処理の技術やビジネスで応用する技法を身につけることができます。	ビジネスコミュニケーション学科では、次のような資質や能力をもつ入学生を求めています。 【求める学生像】 ●ビジネス実務、地域ビジネス、医療事務・医療秘書、観光・ホテル・ブライダル分野に関心をもち、主体的に学ぶ意欲があり、その分野で将来仕事をしていきたいと考えている人 ●コンピュータに興味があり、その技術を使っていろいろなビジネス分野で仕事をしてみたいと思っている人 ●地域の課題に興味を持ち、その発展に貢献したいと思っている人 ●多様化するビジネスの現場でどのような専門性を身につければよいか、また多様な選択肢のある場で自分の可能性を探ってみたいと考えている人

デジタルライフビジネス学科

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
デジタルライフビジネス学科を卒業するためには、次のような資質や能力をもつことを求めます。 【専門知識と教養】 現代情報社会のあり方についての教養と生活学とビジネス学の基礎知識を持ち、生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析、情報活用、及びデジタル空間上で情報発信を行うことができる能力を身につけていること。 【専門性をいかす技能】 デジタルコンテンツの作成スキルや、リアルのものづくりのスキルを身につけ、デジタルコンテンツやリアルのものづくりを、デジタル空間での情報発信と結び付けて生活やビジネスに展開できる能力を身につけていること。 【問題提起・解決能力】 修得した知識とスキルを用いて、Society5.0 を迎える新時代における生活やビジネスの諸課題を解決できる能力と、自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方を充実させる生き方を選択できる能力を身につけていること。 【表現力・コミュニケーション力】 生活やビジネスの場、地域社会において、様々な手法で自らのアイディアや意見を表現し、多くの人とコミュニケーションがとれる能力を身につけていること。	デジタルライフビジネス学科では、ディプロマ・ポリシーを実現するために、次のような特色あるカリキュラムを編成しています。 【学科全体の特色】 ●生活学とビジネス学に関する基礎的知識を身につけるための科目群を設置しています。 ●生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析及び情報活用を行うことができる能力を身につけるための科目群を設置しています。 ●様々なデジタルコンテンツの作成方法を身につけ、Web や SNS を通した情報発信の能力を身につけるための科目群を設置しています。 ●リアルのものづくりを通して、イメージを実体のあるものに具現化する能力を身につけるための科目群を設置しています。 ●新しい時代の自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方が充実した生き方を選択できる能力を身につけるための科目群を設置しています。 ●身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、知識やスキルを生きて働くものとするほか、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につけるための科目群を設置しています。 【各コースの特色】 デジタルビジネスコースでは、アイディアをデジタル空間上に実現し、情報発信するための知識やスキルを中心に学び、そのうえで、リアルなものづくりの基礎を学んで、それらを生活やビジネスの場で活かす手法を身につけるための科目群を設置しています。 デジタルライフコースでは、リアルなものづくりのための知識やスキルを中心に学び、そのうえでデジタル空間上での情報発信の基礎を学んで、それらを生活やビジネスの場で活かす手法を身につけるための科目群を設置しています。 【生活学科・ビジネスコミュニケーション学科との連係】 本学科は生活学科とビジネスコミュニケーション学科の連係で成立しており、多くの共通科目も設定されています。デジタルデザインやものづくりデザインの基本は、両学科の専門分野とも重なります。本学科のカリキュラムによって、これらの多様な分野の専門性を身につけることができます。	デジタルライフビジネス学科では、次のような資質や能力をもつ入学生を求めています。 【求める学生像】 ●データ分析、デジタルやリアルの「デザイン」や「ものづくり」、インターネット上への情報発信等に興味を持ちビジネスや生活の場で、新しい知識やスキルを生かして、よりよい社会の創造に貢献したいと考えている人 ●Society5.0 を迎える新時代における生活とビジネスに関心をもち、ビジネスや生活の諸課題に自ら積極的に取り組み解決しようとする意欲や熱意のある人 ●本学科で学んだ知識やスキルをもとに、自分で起業することを目指している人

【資料２】 デジタルライフビジネス学科で養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係

デジタルライフビジネス学科で養成する人材像とディプロマ・ポリシーの関係

養成する人材像	生活学とビジネス学、両方の基礎を身につけた人材を育成する。	データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野の知識やスキルを身につけた人材を育成する。	高度なデジタル社会の中で、修得した知識やスキルを統合・活用して生活やビジネスの場で活躍できる人材を育成する。

	専門知識と教養	専門性をいかす技能	問題提起・解決能力	表現力・コミュニケーション力
DP	現代情報社会のあり方についての教養と生活学とビジネス学の基礎知識を持ち、生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析、情報活用、及びデジタル空間上で情報発信を行うことができる能力を身につけていること。 （DP1）	デジタルコンテンツの作成スキルや、リアルのものづくりのスキルを身につけ、デジタルコンテンツやリアルのものづくりを、デジタル空間での情報発信と結び付けて生活やビジネスに展開できる能力を身につけていること。 （DP2）	修得した知識とスキルを用いて、Society5.0を迎える新時代における生活やビジネスの諸課題を解決できる能力と、自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方を充実させる生き方を選択できる能力を身につけていること。 （DP3）	生活やビジネスの場、地域社会において、様々な手法で自らのアイディアや意見を表現し、多くの人とコミュニケーションがとれる能力を身につけていること。 （DP4）

CP	生活学とビジネス学に関する基礎的知識を身につけるための科目群を設置しています。 （CP1）	生活やビジネスに必要なデータの収集、処理、分析及び情報活用を行うことができる能力を身につけるための科目群を設置しています。 （CP2）	様々なデジタルコンテンツの作成、WebやSNSを通した情報発信ができる能力を身につけるための科目群を設置しています。 （CP3）	リアルのものづくりを通して、イメージを実体のあるものに具現化する能力を身につけるための科目群を設置しています。 （CP4）	新しい時代の自分自身のライフとワークの在り方を考え、生活と仕事の両方が充実した生き方を選択できる能力を身につけるための科目群を設置しています。 （CP5）	身につけた知識やスキルを、実際のビジネス体験、地域振興やボランティア活動の実践で活用し、知識やスキルを生きて働くものとするとともに、他者と協働してプロジェクトを進めることにより、企画力やコミュニケーション能力を身につけるための科目群を設置しています。 （CP6）

【資料３】横断的な分野に係る教育課程の実施に係る基本的な方針

横断的な分野に係る教育課程の実施に係る基本的な方針

令和３年９月３日 学長裁定

滋賀短期大学において横断的な分野に係る教育課程を実施するため、基本的な方針を次のとおり定める。

１．学科連係課程実施学科と連係協力学科

短期大学設置基準第三条の二第１号に規定する学科連係課程実施学科をデジタルライフビジネス学科とし、同条第２号に規定する連係協力学科を生活学科とビジネスコミュニケーション学科とする。

２．収容定員

デジタルライフビジネス学科の収容定員を60人とし、連係協力学科である生活学科の収容定員のうち20人と、ビジネスコミュニケーション学科の収容定員のうち40人をもってこれに充てる。

３．教員の配置

本学科での教育課程を実施するに必要な専任教員は、学科専任教員の他、生活学科の専任教員２名以上とビジネスコミュニケーション学科の専任教員３名以上がこれを兼ねるものとする。

４．教育研究の内容

デジタルライフビジネス学科においては、高度なデジタル技術を実際の生活やビジネスの現場において活用する方法や、その教育方法に関して研究を行うこととする。

なお、研究にあたっては、学科専任教員と兼任教員との共同研究を奨励する。

５．学科運営

学科には独自に学科長を置き、デジタルライフビジネス学科に所属する専任教員と兼務教員をもって組織する科会を設け、学科長のリーダーシップのもとで学科運営を行うこととする。

なお、学科長は、必要に応じて連係協力学科との連係・調整を行い、また、各種委員会への学科から推薦する委員については、兼任教員からの選出も可とする。

６．経費の配分

横断的な分野に係る教育課程を実施するための経費については、連係協力学科が受け持つ経費以外の経費は、デジタルライフビジネス学科に予算を措置する。

７．学生組織について

学生はデジタルライフビジネス学科として募集し、入学後はデジタルライフビジネス学科に所属する。

クラスやゼミはデジタルライフビジネス学科の学生により構成することとする。

【資料４】共通科目の履修系統図

令和4年度入学生　履修系統図（共通科目）

	〔 前期開講 〕		〔 後期開講 〕	
1群 芸術や文化を学ぶ	ことばと人間 近江学入門	音楽とは何か 美術を見る目	国際地理	
1群 社会や心理を考える	子ども社会 心と身体のヘルスケア 日本国憲法 生 幼	生活文化論 心理学	教育を考える テレビ映像と現代社会 子どもの世界	日本国憲法 ビ・デ 幼 現代社会と福祉
1群 科学でとらえる			現代の健康 データ分析入門	数の不思議
	〔 1回生　前期 〕	〔 1回生 後期 〕	〔 2回生　前期 〕	〔 2回生　後期 〕
1群 体育について学び体験する	スポーツ実技（テニス） 食・ラ ビ・デ スポーツ実技（バレー） 食・ラ ビ・デ スポーツ実技（フィットネス） 食・ラ ビ・デ スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ）（集） スポーツ実技（キャンプ）（集）	健康スポーツ論 食・ラ ビ スポーツ実技（スノースポーツ）（集）	スポーツ実技（テニス） 製 スポーツ実技（バレー） 製 スポーツ実技（フィットネス） 製	健康スポーツ論 製 幼 スポーツ実技（テニス） 幼 スポーツ実技（バレー） 幼 スポーツ実技（フィットネス） 幼
2群 外国語コミュニケーション能力を養う	英語Ⅰ → フランス語Ⅰ → 中国語Ⅰ → 〔留学〕日本語Ⅰ →	英語Ⅱ フランス語Ⅱ 中国語Ⅱ 〔留学〕日本語Ⅱ	英語Ⅰ → フランス語Ⅰ → 中国語Ⅰ →	英語Ⅱ 製 フランス語Ⅱ 製 中国語Ⅱ 製
3群 キャリア形成を考える	キャリア基礎演習		キャリアデザイン演習 ビ	キャリアデザイン演習 生・幼 デ
4群 環びわ湖 単位互換科目				
5群 すみれ基礎科目	生活文化入門（集） 子ども理解入門（集） ビジネス入門（集）			

（集）・・・集中授業

【資料５】デジタルライフビジネス学科専門科目の履修系統図

令和4年度入学生　履修系統図（デジタルライフビジネス学科　専門科目）

	1回生前期	1回生後期	2回生前期	2回生後期
生活学関連				
生活基礎分野 〔DP1〕〔CP1，2〕		生活学概論	フードコーディネート論	
		フードライフデザイン（食品と栄養）	フードライフデザイン（調理と文化）	
		ハウスプランニング	フードライフ実習Ⅰ	フードライフ実習Ⅱ
ものづくりデザイン分野 〔DP2〕〔CP4，6〕	ファッションデザイン	カラーコーディネート論	インテリアデザインⅠ（理論）	インテリアデザインⅡ（演習）
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	ハンドメイドデザインⅠ	ハンドメイドデザインⅡ
	ファッションマーチャンダイジング		ネイルアートデザインⅠ	ネイルアートデザインⅡ
			きものコーディネート	染色演習
			デザイン論	ラッピング演習
ライフ＆ワークデザイン分野 〔DP3〕〔CP5〕		ライフ・ファイナンシャルプランニング	情報社会論	
ビジネス学関連				
ビジネス基礎分野 〔DP1〕〔CP1，2〕	経営学概論	アントレプレナー論	ショップマネジメントⅠ	ショップマネジメントⅡ
	簿記会計実務Ⅰ	インターネットビジネス		
	ビジネスマナー			
	ビジネス法規入門			
	日本語表現			
	マーケティング	SNSⅠ	SNSⅡ	
データサイエンス分野 〔DP1，3〕〔CP2，6〕	データサイエンス入門	データサイエンス応用		
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ		
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	情報処理	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	
デジタルデザイン分野 〔DP2〕〔CP3，6〕		ウェブデザインⅠ	ウェブデザインⅡ	
			プログラミングⅠ	プログラミングⅡ
			映像デザインⅠ（実習）	映像デザインⅡ（実習）
		CG演習	マルチメディア演習	
生活学・ビジネス学連携科目				
実践力育成分野 〔DP3，4〕〔CP1，2，3，4，6〕		イベントプロデュース論	イベントプロデュースプロジェクト	SNS起業プロジェクト
		地域貢献演習Ⅰ		地域貢献演習Ⅱ
	インターンシップⅠ	インターンシップⅡ		

【資料６】カリキュラム・ポリシーと授業科目の関係

カリキュラム・ポリシーと授業科目の関係

科目区分	科目名	CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6
必修科目	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ		◎				
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ		◎				
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ			◎			
	データサイエンス入門		◎				
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ			◎			
	情報処理	◎				◎	
	情報社会論	◎			◎		
	簿記会計実務Ⅰ	◎					
	ビジネス法規入門	◎				○	
	ライフ・ファイナンシャルプランニング					◎	
	生活学概論	○					
選択科目	データサイエンス応用		◎				○
	経営学概論	◎					
	日本語表現	○					
	ウェブデザインⅠ			◎			○
	ウェブデザインⅡ			◎			○
	プログラミングⅠ			◎			○
	プログラミングⅡ			◎			○
	CG演習			◎			○
	マルチメディア演習			◎			○
	SNSⅠ			◎			◎
	SNSⅡ			◎			◎
	SNS起業プロジェクト			◎			◎
	デザイン論			◎			
	ファッションデザイン	○	○	○	◎		
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ			○	◎		
	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ			○	◎		
	ハウスプランニング	○					
	インテリアデザインⅠ（理論）				○		
	インテリアデザインⅡ（演習）				○		
	ハンドメイドデザインⅠ			○	◎		
	ハンドメイドデザインⅡ			○	◎		
	ネイルアートデザインⅠ				○		
	ネイルアートデザインⅡ				○		
	映像デザインⅠ（実習）			◎			
	映像デザインⅡ（実習）			◎			
	ショップマネジメントⅠ	◎					○
	ショップマネジメントⅡ	◎					○
	ビジネスマナー	◎					
	アントレプレナー論	◎					○
	インターネットビジネス	○		◎			○
	イベントプロデュース論	◎					○
	イベントプロデュースプロジェクト	◎					○
	ファッションマーチャンダイジング	○					
	フードコーディネート論	○					
	フードライフデザイン（食品と栄養）	○					
	フードライフデザイン（調理と文化）	○					
	フードライフ実習Ⅰ				○		
	フードライフ実習Ⅱ				○		
	カラーコーディネート論	○					
	きものコーディネート	○					
	ラッピング演習				○		
	染色演習	○		○			
	マーケティング	◎					○
	インターンシップⅠ						◎
	インターンシップⅡ						◎
	地域貢献演習Ⅰ						◎
	地域貢献演習Ⅱ						◎

※CP1～CP6については、本文「４　教育課程の編成の考え方及び特色（２）カリキュラム・ポリシー」を参照。

◎特に関連性の強いCPを、○は比較的関連性のあるCPを示す。

【資料７】ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時に修得しているべき能力

ディプロマ・ポリシーに基づく卒業時に修得しているべき能力

科目区分	科目名	専門知識と教養	専門性をいかす技能	問題提起・解決能力	表現力・コミュニケーション力
必修科目	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	◎		◎	
	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	◎		◎	
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	◎	○		◎
	データサイエンス入門	◎		◎	
	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	◎	○		◎
	情報処理	◎		○	
	情報社会論	◎			
	簿記会計実務Ⅰ	◎		○	
	ビジネス法規入門	◎		◎	
	ライフ・ファイナンシャルプランニング	◎		◎	
	生活学概論			○	
選択科目	データサイエンス応用	◎		◎	
	経営学概論	◎		○	
	日本語表現	◎			◎
	ウェブデザインⅠ		◎		◎
	ウェブデザインⅡ		◎		◎
	プログラミングⅠ		◎	◎	
	プログラミングⅡ		◎	◎	
	CG演習		◎		◎
	マルチメディア演習		◎		◎
	SNSⅠ		◎	○	◎
	SNSⅡ		◎	○	◎
	SNS起業プロジェクト		◎	○	○
	デザイン論		◎		
	ファッションデザイン	○	○	○	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ	○	◎	○	
	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	○	◎	○	
	ハウスプランニング		○	○	
	インテリアデザインⅠ（理論）		○	○	
	インテリアデザインⅡ（演習）		○		
	ハンドメイドデザインⅠ	○	◎	○	
	ハンドメイドデザインⅡ	○	○	○	
	ネイルアートデザインⅠ		○		
	ネイルアートデザインⅡ		○		
	映像デザインⅠ（実習）		◎		◎
	映像デザインⅡ（実習）		◎		◎
	ショップマネジメントⅠ	◎		○	
	ショップマネジメントⅡ	◎		○	
	ビジネスマナー	◎			○
	アントレプレナー論	○		○	
	インターネットビジネス	○	○	○	
	イベントプロデュース論	○		○	○
	イベントプロデュースプロジェクト	○		○	○
	ファッションマーチャンダイジング		○	○	
	フードコーディネート論		○	○	
	フードライフデザイン（食品と栄養）			○	
	フードライフデザイン（調理と文化）			○	
	フードライフ実習Ⅰ			○	
	フードライフ実習Ⅱ			○	
	カラーコーディネート論		○	○	
	きものコーディネート		○	○	
	ラッピング演習		○		
	染色演習		○		
	マーケティング	○		◎	
	インターンシップⅠ			◎	◎
	インターンシップⅡ			◎	◎
	地域貢献演習Ⅰ			◎	◎
	地域貢献演習Ⅱ			◎	◎

◎は特に重視する能力を、○は比較的重視する能力を示す。

【資料８】授業科目のナンバリング

	科目名	学科名	科目の位置付け	科目の難易度	通し番号（2桁）
1	データサイエンス入門	DB	2	B	01
2	データサイエンス応用	DB	2	B	02
3	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	DB	2	B	03
4	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	DB	2	B	04
5	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	DB	2	B	05
6	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	DB	2	C	01
7	情報処理	DB	2	B	06
8	情報社会論	DB	2	C	02
9	経営学概論	DB	2	B	07
10	簿記会計実務Ⅰ	DB	2	B	08
11	ビジネス法規入門	DB	2	B	09
12	日本語表現	DB	2	B	10
13	ウェブデザインⅠ	DB	2	B	11
14	ウェブデザインⅡ	DB	2	C	03
15	プログラミングⅠ	DB	2	C	04
16	プログラミングⅡ	DB	2	C	05
17	CG演習	DB	2	B	12
18	マルチメディア演習	DB	2	C	06
19	SNSⅠ	DB	2	B	13
20	SNSⅡ	DB	2	C	07
21	SNS起業プロジェクト	DB	2	C	08
22	デザイン論	DB	2	C	09
23	ファッションデザイン	DB	2	B	14
24	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ	DB	2	B	15
25	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	DB	2	B	16
26	ハウスプランニング	DB	2	B	17
27	インテリアデザインⅠ（理論）	DB	2	C	10
28	インテリアデザインⅡ（演習）	DB	2	C	11
29	ハンドメイドデザインⅠ	DB	2	C	12
30	ハンドメイドデザインⅡ	DB	2	C	13
31	ネイルアートデザインⅠ	DB	2	C	14
32	ネイルアートデザインⅡ	DB	2	C	15
33	映像デザインⅠ（実習）	DB	2	C	16
34	映像デザインⅡ（実習）	DB	2	C	17
35	ショップマネジメントⅠ	DB	2	C	18
36	ショップマネジメントⅡ	DB	2	C	19
37	ビジネスマナー	DB	2	B	18
38	アントレプレナー論	DB	2	B	19
39	インターネットビジネス	DB	2	B	20
40	イベントプロデュース論	DB	2	B	21
41	イベントプロデュースプロジェクト	DB	2	C	20
42	ファッションマーチャンダイジング	DB	2	B	22
43	ライフ・ファイナンシャルプランニング	DB	2	B	23
44	フードコーディネート論	DB	2	C	21
45	フードライフデザイン（食品と栄養）	DB	2	B	24
46	フードライフデザイン（調理と文化）	DB	2	C	22
47	フードライフ実習Ⅰ	DB	2	C	23
48	フードライフ実習Ⅱ	DB	2	C	24
49	カラーコーディネート論	DB	2	B	25
50	きものコーディネート	DB	2	C	25
51	ラッピング演習	DB	2	C	26
52	染色演習	DB	2	C	27
53	生活学概論	DB	2	B	26
54	マーケティング	DB	2	B	27
55	インターンシップⅠ	DB	2	B	28
56	インターンシップⅡ	DB	2	B	29
57	地域貢献演習Ⅰ	DB	2	B	30
58	地域貢献演習Ⅱ	DB	2	C	28

科目の位置づけ
1：共通科目
2：専門科目
3：選択自由科目
4：教職専門科目

科目の難易度□
A：大学・短大入学前レベル（補習レベル）
B：大学・短大1年次レベル
C：大学・短大2年次レベル

通し番号（2桁）
科目の難易度内の通し番号

【資料９】デジタルライフビジネス学科履修モデル

〔1年次前期〕

	時限	月	火	水	木	金
1回生 前期	1	ビジネスマナー	日本語表現	スポーツ実技（バレー）	ことばと人間	
	2	データサイエンス入門	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ	ファッションマーチャンダイジング	キャリア基礎演習	
	昼休み				クラスアワー	
	3	ビジネス法規入門	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ		英語Ⅰ	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ
	4	インターンシップⅠ（事前事後）	簿記会計実務Ⅰ	経営学概論	マーケティング	ファッションクリエイティブ実習Ⅰ
	集中	インターンシップⅠ				

デジタルビジネスコース 〔1年次後期～〕

	時限	月	火	水	木	金
1回生 後期	1		健康スポーツ論※		国際地理	
	2	生活学概論	インターネットビジネス		CG演習	ライフ・ファイナンシャルプランニング
	昼休み				クラスアワー	
	3	データサイエンス応用	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	SNSⅠ	英語Ⅱ	ウェブデザインⅠ
	4		アントレプレナー論	情報処理	地域貢献演習Ⅰ（事前事後）	インターンシップⅡ（事前・事後）
	集中	インターンシップⅡ　地域貢献演習Ⅰ				

※8回授業

	時限	月	火	水	木	金
2回生 前期	1				心と身体のヘルスケア	
	2	マルチメディア演習	映像デザインⅠ（実習）	デザイン論		
	昼休み				クラスアワー	
	3	イベントプロデュースプロジェクト		ウェブデザインⅡ	プログラミングⅠ	SNSⅡ
	4	情報社会論	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	ショップマネジメントⅠ		
	集中					

	時限	月	火	水	木	金
2回生 後期	1			プログラミングⅡ		
	2		ラッピング演習	映像デザインⅡ（実習）	キャリアデザイン演習	ショップマネジメントⅡ
	昼休み				クラスアワー	
	3	SNS起業プロジェクト		地域貢献演習Ⅱ（事前事後）		
	4					
	集中	地域貢献演習Ⅱ				

デジタルライフコース 〔1年次後期～〕

	時限	月	火	水	木	金
1回生 後期	1		健康スポーツ論		テレビ映像と現代社会	
	2	生活学概論	インターネットビジネス	フードライフデザイン（食品と栄養）	CG演習	ライフ・ファイナンシャルプランニング
	昼休み				クラスアワー	
	3	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ	カラーコーディネート論	英語Ⅱ	ハウスプランニング
	4	ファッションクリエイティブ実習Ⅱ	アントレプレナー論	情報処理	地域貢献演習Ⅰ（事前事後）	インターンシップⅡ（事前・事後）
	集中	インターンシップⅡ　地域貢献演習Ⅰ				

	時限	月	火	水	木	金
2回生 前期	1	フードコーディネート論	きものコーディネート		生活文化論	フードライフ実習Ⅰ※
	2		きものコーディネート	デザイン論	フードライフデザイン（調理と文化）	フードライフ実習Ⅰ※
	昼休み				クラスアワー	
	3	イベントプロデュースプロジェクト	インテリアデザインⅠ（理論）		ハンドメイドデザインⅠ	ネイルアートデザインⅠ
	4	情報社会論	コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ	ショップマネジメントⅠ	ハンドメイドデザインⅠ	
	集中					

※8回授業

	時限	月	火	水	木	金
2回生 後期	1	フードライフ実習Ⅱ※		ハンドメイドデザインⅡ		
	2	フードライフ実習Ⅱ※	ラッピング演習	ハンドメイドデザインⅡ	キャリアデザイン演習	ショップマネジメントⅡ
	昼休み				クラスアワー	
	3	SNS起業プロジェクト	インテリアデザインⅡ（演習）	地域貢献演習Ⅱ（事前事後）	染色演習	ネイルアートデザインⅡ
	4				染色演習	
	集中	地域貢献演習Ⅱ				

※8回授業

【資料10】滋賀短期大学教員研修日並びに他大学出講等申合せ

滋賀短期大学教員研修日並びに他大学出講等申合せ

昭和52年５月12日　教授会決定
平成12年９月21日　教授会改正
平成27年12月３日　教授会改正

就業規則により専任教員は、１年間を平均し１週間については40時間とする。ただし、教員の研修日は、平成13年度から土曜日を含む週２日とする。

他大学へ非常勤としての出講は、週３コマ（６時間以内）とし、出勤日以外を原則とする。

【資料11】滋賀短期大学授業担当のルールについて

滋賀短期大学授業担当のルールについて

平成31年３月４日　教授会決定
令和２年４月１日　教授会改正

（基準）

1　時間割の作成に際して、専任教員（特任教員Ⅱ型を除く）が本学において担当する１週あたりの授業時間数は原則として次のとおりとする。

（１）学長を除く教員の１週あたりの授業時間数は、12時間を原則にする。

（２）栄養士養成課程の教員は、１週間あたりの授業時間数を原則として18時間以内とする。

（授業編成人数）

2　時間割を編成するための１クラスの基準は原則として次のとおりとする。

（１）講義科目は、１クラス80人を目安に編制する。

（２）実技、実習及び演習科目は、１クラス40人を目安に編制する。

（３）栄養士養成課程は、承認内容に添って１から２クラスで編制する。（学年間の合併授業等は原則として行わない。）

（４）保育士養成課程の実技、実習及び演習科目は、１クラス50 人を上限とする。

（５）教職課程の教職実践演習科目は、１クラス20人を目安に編制する。

（算出方法）

3　１週あたりの授業時間数の算出方法は、当該年度のシラバス、時間割等をもとに、時間割編成上のいわゆるコマ数ではなく、時間数に換算して行う。

（１）１授業時間数は45分を１時間とする。

（２）授業時間数には、定期試験の時間は含まない。

（３）外部講師による場合は、時間数から除く。

（４）複数の教員が分担して行う授業は、当該教員が直接指導する時間数のみとする。また、授業に複数の教員が入る場合は、人数割した時間数とする。

（５）１週あたりの授業時間数の算出は、半期15週、通年30週で算出し、小数点第２位以下は切り捨てとする。

（軽減措置）

4　次の役職に就く教員には、本人の申し出により、所属の学科長と教務を担当する学長補佐が協議し、学長の決裁の上、１週の授業担当時間数について最大２時間まで軽減措置を講ずることができる。

（１）副学長

（２）学科長、学長補佐及び図書館長

（３）その他、学長が必要と認めた教員

（雑則）

5　その他必要な事項については、教務委員会が定める。

【資料 12】滋賀短期大学「学力の三要素」と入学者選抜における「評価方法」との関係

令和 4 年度入学選抜　滋賀短期大学「学力の三要素」と入学者選抜における「評価方法」との関係

入試区分	実施区分	評価方法等	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性
総合型選抜	総合型選抜	エントリーシート		○	○
		受講レポート	○	◎	
		調査書	○	○	○
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜 A	小論文	○	◎	
		面接		◎	○
		推薦書			◎
		調査書	○	○	○
	学校推薦型選抜 B	基礎テスト（国語）	◎	◎	
		面接		◎	○
		推薦書			◎
		調査書	○	○	○
	学校推薦型選抜 S	自己推薦書		◎	○
		活動実績書	◎		○
		面接		◎	○
		推薦書			◎
		調査書	○	○	
一般選抜	一般選抜	学力検査	◎	◎	
		面接		◎	◎
		調査書	○	○	○
	大学入学共通テスト利用選抜	学力検査	◎	○	
		調査書	△	○	○
特別選抜	社会人特別選抜	小論文	○	◎	
		面接		◎	○
		書類審査	○	○	○
	外国人留学生選抜	小論文	○	◎	
		面接		◎	○
		口頭試問	○	◎	○
		書類審査	○	○	○

◎：特に強く関連している ○：強く関連している △：関連している

学生の確保等の見通し等を記載した書類

目　次

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し　・・ 2

（２）学生確保に向けた取組状況　・・ 8

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものである

ことの客観的な根拠　・・ 9

１．学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

（１）学生の確保の見通し

①　学生確保の見通し

ア　入学定員の設定について

デジタルライフビジネス学科は、学科連係課程実施学科として、連係協力学科である生活学科の生活関連の教育課程と、連係協力学科であるビジネスコミュニケーション学科のＩＴ技術を中心としたビジネス関連の教育課程とを統合して、両者の単なる結合ではない独自の教育課程を実施する。学生定員については、生活学科の入学定員 80 人のうち 10 人と、ビジネスコミュニケーション学科の入学定員 100 人を 120 人に増やし、その増加分 20 人とをもって、本学科を 30 人の入学定員としている。

現在、生活学科の入学定員は、食健康コースが 40 人、製菓・製パンコースが 30 人、ライフデザインコースが 10 人である。このうち、ライフデザインコースは、衣・食・住の各分野において、健康で快適な生活を実現するための幅広い知識・技術を修得し、創意工夫する態度・能力を育むことを目的としているが、今回、このコースの履修科目の多くを本学科で履修することとなるため、ライフデザインコースの 10 名分を本学科の定員に充当することとした。また、定員未充足が続く幼児教育保育学科の入学定員を、今回 50 人減じ 100 人とするが、その減員分 50 人のうちの 20 人分を、ビジネスコミュニケーション学科の定員増としたうえで本学科の定員に充当するものである。

本学科の入学定員は、連係協力する 2 学科の運営や在籍する教員の専門性、また既存施設の利用等を総合的に勘案し 30 人としたものである。

イ　入学定員の充足見込み

＜進学者数と教育環境の変化＞

地域に密着した短期大学である本学は、滋賀県内の高校出身者が多く、入学者数の見込では、県内出身者の進学動向が大きく影響する。

ここ 5 年間の本学の入学者数は次表のとおりである。令和 3 年度は 328 人で、現役生の入学者比率が 89.3%と高い。滋賀県内高校出身者の比率は 74.3%で、新卒者に限ると 82.9%となった。5 年間をとおして高校新卒者の割合が高く、そのうち県内高校出身者は 8 割を超えており、地元比率が高い状況にある。

〔本学入学者数と出身高等学校の所在地別入学者数〕

入学年度			H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	**R3 年度**
入学者数（人）		A	321	293	266	288	**328**
内訳	高校新卒者	B	313	283	231	262	293
	既卒・高卒認定		8	6	4	4	6
	社会人・長期高度人材育成		0	4	16	17	12
	留学生		0	0	15	5	17
滋賀県内の高校出身者		C	266	245	206	224	244
内訳	高校新卒者	D	262	235	196	215	243
	その他		4	10	10	11	1
入学者の県内高校出身率		(B/A)	97.5%	96.6%	86.8%	91.0%	**89.3%**
入学者の県内比率		(C/A)	82.3%	83.6%	77.4%	77.8%	**74.3%**
高校新卒者の県内比率		(D/B)	83.7%	83.0%	80.7%	85.5%	**82.9%**

（注）「長期高度人材育成」は、滋賀県から委託された長期高度人材育成コース（R3 募集定員：生活学科 5、幼児教育保育学科 9）として入学した者

滋賀県内の高校卒業者の進路については、毎年、滋賀県教育委員会が県内にある中学校・高等学校の進路状況として調査している。その中の「全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況」を見ると、短期大学への進学者数は、減少傾向がつづいてはいるものの、コロナ禍により県内での進学が増え、県内にある短期大学3校への進学者は令和3年度に増加に転じた。また、滋賀県の年少人口は、全国的な状況より減少幅が少なく、県の人口推計でも中学校高等学校段階の人口は大きくは減少していない。これらから、当面、県内の短期大学へは一定の進学者が見込まれると思われる。本学への入学者数も、ここ5年間では一時減少したものの、積極的な募集活動の効果もあって、ここ3年間は増加しているところである。

教育環境については、GIGAスクール構想として、児童・生徒1人に1台の端末と高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組みが進み、全国的に小中学校への端末導入はほぼ完了している。また、学習指導要領の改訂により、昨年から小学校においてプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動が計画的に実施され、今年4月からは中学校技術・家庭科(技術分野)においてプログラミングに関する内容が充実している。高等学校においては共通必履修科目「情報Ⅰ」を新設し、来年度から年次進行により全ての生徒がプログラミングやネットワーク、データベースの基礎等について学習することになる。今後、ＩＣＴに親しみ、よりデジタル化に関心の高い児童生徒が増加するものと思われる。

これらの状況を見るに、今後、本学科の30人の定員充足は十分可能であると考えている。

＜既設学科志望者への影響＞

本学の令和3年度の入学定員と入学者数は、生活学科が80定員に対し86人の入学で、幼児教育保育学科は150定員に対し124人，ビジネスコミュニケーション学科は100定員に対し118人であった。

生活学科の募集定員はコース毎に設定しており、栄養士養成の食健康コースを40人、製菓衛生師養成の製菓・製パンコースを30人、生活全般を学ぶライフデザインコースを10人としている。今回、ライフデザインコースの募集定員枠は生活学科の内数として本学科で募集するため、オープンキャンパス等で従来のライフデザインコースの志望層から相談がある場合は、本学科で学ぶことを勧めている。

幼児教育保育学科の志望者は、幼稚園教諭や保育士を目指す者であり、本学科志望者と競合することはないと考える。

ビジネスコミュニケーション学科は、ビジネス実務コース、経営経済・地域ビジネスコース、医療実務コース、観光・ホテル・ブライダルコースといった4つの履修コースを設け、一年次の後期から希望のコースに分かれて履修する。

本学科との競合が想定されるのは、例年30人程度がコース選択するビジネス実務コースである。こちらはビジネス系のＩＴスキルを使って就職に向けて学ぶ学生であり、本学科は、ウェブデザインやコンピュータグラフィック等、デザイン系のスキルを学びたい学生を中心に指導することから、両学科の相違とそれぞれの特性を十分に広報していきたいと考えている。また、様々な広報媒体により本学科の新しい魅力を広く訴えることで、新たな本学志望者層を開拓していきたいと考えている。さらに、受験機会の拡大として、本学科とビジネスコミュニケーション学科の併願が可能となるよう、学校推薦や一般選抜において、一度の受験で第2希望学科の合格判定も可能な入試制度を採用して、本学への進学希望者確保に努めていくこととしている。

このように、本学科の設置は既設のビジネスコミュニケーション学科への志望に影響を与えることも考えられるが、新たな学びに関心を持つ新規受験者層を開拓することとしており、既存学科との競合は少ないものと考えている。

＜滋賀県内にある他の短期大学への影響＞

滋賀県内には短期大学・短期大学部が 3 校ある。令和 3 年度の入学者は、県南部の大津市にある本学が 330 の定員に対し 328 人の入学で、県北部の長浜市にある滋賀文教短期大学（国文学科、こども学科）は 100 定員に対し 70 人、県東部の東近江市にあるびわこ学院短期大学部（ライフデザイン学科）は 80 定員に対し 62 人であった。本学以外の 2 校で本学科との競合が懸念されるのは、びわこ学院大学短期大学部ライフデザイン学科にあるキャリアデザインコースである。ここはホームページ作成スキルやＤＴＰ技術を身につけるとともに、情報処理系資格を取得して公務員や一般企業での就職を目指す学生が多い。これは本学ビジネスコミュニケーション学科のビジネス実務コースと競合する内容であることから、デジタル分野に比重が高い本学科との競合は少ないものと思慮する。また、このコースは定員が 20 名と小規模であり、設置場所も大津市にある本学と東近江市とでは車で 2 時間弱を要することから、本学科との競合は限定的と考える。

〔滋賀県内にある短期大学・短期大学部の入学者数〕

短期大学名	学　科	入学者数					R3入学定員	R3定員充足率
		H29	H30	R1	R2	R3		
滋賀短期大学	生活学科、幼児教育保育学科、ﾋﾞｼﾞﾈｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	321	293	266	288	328	330	0.99
滋賀文教短期大学	国文学科、こども学科	93	63	56	75	70	100	0.7
びわこ学院大学短期大学部	ライフデザイン学科	78	88	70	79	62	80	0.78

＜学生納付金＞

本学の学生納付金については、既存の 3 学科は同額であり、学科連係課程実施学科である本学科も同額としている。入学金は 250,000 円、年間の学費は授業料が 720,000 円、施設整備費が 300,000 円で、スライド制ではないことから、在籍期間中は同額である。

＜高校生の意識調査等から＞

本学科の設置に関して、本年 8 月、滋賀短期大学附属高等学校 2 年生と、オープンキャンパスや大学連続講座で本学を訪れた高校生たちにアンケート調査を行った。いずれも予備知識がない中、その場で新学科構想の説明を受けての回答となったが、本学科に関心を持った生徒が多い結果となった。

新学科の教育内容では、「ものづくりデザイン系」が最も評価が高く、附属高校では有効回答の 49.8%が、本学を訪問した高校生では 71.7%が興味を示している。また教育内容の全体では「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合わせると、附属高校では 43.4%、本学訪問の高校生では 65.0%が新学科の教育に魅力を感じている。

滋賀短期大学にデジタルライフビジネス学科（仮称）が設置された場合、進学したいと思いますか？との問いには、「ぜひ進学したい」と回答した者が附属高校はゼロで、本学訪問の高校生は 3.3%、「進学先の一つとして検討したい」は附属高校が 15.6%で、本学訪問の高校生は 39.9%であった。

具体的な進路を決定するには、入試日程等などさらに詳しい情報が必要であるが、この調査では、進路先として本学科が選択される可能性は低くないことが窺える結果となった。

ウ　定員充足の根拠となる客観的データ

＜滋賀県内の状況＞

滋賀県教育委員会が毎年まとめている「高等学校等卒業後の進路状況調査結果の全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況」によると、卒業者数は、増減はあるものの、ここ数年は12,000人台の後半を維持している。令和3年3月卒業は12,524人で、前年度より228人の減少にとどまっている。大学等進学者は7,190人で、進学率は57.4%と前年度より0.9ﾎﾟｲﾝﾄ増え、就職率は1.7ﾎﾟｲﾝﾄの減少である。大学等進学者のうち、短期大学進学者は636人で前年度より0.9ポイント減少したが、県内短期大学3校への進学は335人と前年度より6人の増加となっている。県内大学への進学者も増えており、新型コロナウイルスの影響で滋賀県内にある大学等を選ぶ生徒が多かったものと思われる。

また、滋賀県が毎年公表している年齢別推計人口（令和3年7月1日現在）で、年齢ごとの人口をみると、次表のとおり、18歳人口が15歳までは減少するものの、14歳、13歳では増加しており、ここ数年は一定規模の18歳人口が見込まれるところである。

これらから、今後も一定規模の県内進学者が見込まれ、県内の短大を希望する者も一定規模見込めるものと考えている。

（滋賀県年齢別推計人口：抽出）

年齢	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
人口（人）	14,491	14,088	13,654	13,463	13,782	13,800
18歳との増減率		△2.8%	△3.1%	△1.4%	2.4%	0.1%

【資料１】全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況（滋賀県教育委員会）

【資料２】滋賀県の年齢別推計人口

＜本学科の開設に関する高校生へのアンケート調査＞

①　滋賀短期大学附属高等学校2年生へのアンケート

令和3年8月26日から9月3日にかけて、滋賀短期大学附属高校の2年生に対し、インターネットにより新学科に関するアンケート調査を行った。回答率は91.8%で、213人の生徒が回答を寄せてくれた。

滋賀短期大学附属高等学校は、四年制大学への進学志向が高く、昨年度は四年制大学129人、短期大学46人、専門学校63人、就職7人、その他8人の進学実績である。本学への進学者は37人で、ここ数年40人前後で推移している。今回の調査は、まだ進路指導が浸透しておらず進路が固まっていない2年生を対象に行った。

回答を見ると、進学希望の中で、短大希望は、大学や専門学校などとの併願を含め49人（18.4%）で、県内を希望する者は68人（29.3%）であった。この数字を見ると、本学へは例年並みの人数が期待できるところである。

新学科に関しては、新学科で展開する[データサイエンス系]、[デジタルデザイン系]、[ものづくりデザイン系]、[ライフ＆ワークデザイン系]、[実践力育成系]といった5つの教育ごとに魅力があるかどうかを聞いた。「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合わせると、最も多いのが[ものづくりデザイン系]の106人であった。有効回答213人の49.8%を占め、最も低い[デジタルデザイン系]でも40.0%となり、4～5割の生徒が新学科の教育内容に興味を持っていると思われる。

全体の興味度合いを見ると、「㋐とても魅力を感じる」との回答が全体の9.5%、

「㋑ある程度魅力を感じる」が 33.9%、「㋒どちらでもない」は 43.7%、「㋓あまり魅力を感じない」が 7.6%、「㋔まったく魅力を感じない」は 5.4%であった。「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合せると 43.4%となり、新学科の教育に魅力を感じる生徒は 4 割を超える評価となった。

また、滋賀短期大学にデジタルライフビジネス学科（仮称）が設置された場合、進学したいと思いますか？との問いには、「ぜひ進学したい」はゼロで、「進学先の一つとして検討したい」が 33 人（15.6%）、「進学先として検討しない」は 99 人（46.7%）、「わからない」が 80 人（37.7%）となった。現段階で「進学先として検討したい」と答えた 33 人では、「とても魅力を感じる」の 17.8%と「ある程度魅力を感じる」の 53.4%を合せると 71.2%の高評価となった。

〔附属高校2年生〕 新学科の 5 つの教育内容に感じる魅力 （複数回答人数と構成比）

区　分 回答者 213 人	㋐とても感じる	㋑ある程度感じる	㋒どちらでもない	㋓あまり感じない	㋔まったく感じない	㋐+㋑
1　データサイエンス系	12	71	94	23	12	83
2　デジタルデザイン系	20	68	95	16	13	88
3　ものづくりデザイン系	32	74	83	14	9	106
4　ライフ＆ワークデザイン系	20	73	96	12	10	93
5　実践力育成系	16	72	93	15	13	88
構成比	9.5%	33.9%	43.7%	7.6%	5.4%	**43.4%**

うち、デジタルライフビジネス学科を進学先に考えるとした 33 人の評価

33 人の評価構成比	17.8%	53.4%	23.9%	3.7%	1.2%	**71.2%**

【資料 3-1】滋賀短期大学附属高等学校２年生へのアンケート調査結果

② 本学を訪れた高校生へのアンケート

本学で開催したオープンキャンパス（令和 3 年 8 月 1 日と 21 日開催）と、滋賀県教育委員会の主催により本学で開催した大学連続講座（8 月 4 日）に参加した 1 年から 3 年までの高校生に対し、附属高校と同様の新学科に関するアンケート調査を行った。回答率は 99.4%で、187 人の生徒が回答した。

回答を見ると、進学希望の中で、短大希望は、大学や専門学校などとの併願を含め 152 人（55.3%）で、県内を希望する者は 73 人（44.2%）であった。もともと本学に関心があって本学を訪れた高校生たちのため、短大希望率や県内希望率は、附属高校でのアンケートより高くなっている。

新学科に関しては、5 つの教育内容ごとに魅力があるかどうかを聞いたが、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合わせると、最も多いのが[ものづくりデザイン系] の 134 人であった。これは、有効回答 187 人の 71.7%を占めた。最も低いのが[データサイエンス系]の 99 人で 52.9%となり、5 割以上が新学科の教育内容に興味を持ってくれたものと思われる。

全体の興味の度合いを見ると、「㋐とても魅力を感じる」が全体の 23.3%、「㋑ある程度魅力を感じる」が 41.7%、「㋒どちらでもない」は 31.5%、「㋓あまり魅力を感じない」が 3.2%、「㋔まったく魅力を感じない」は 0.3%であった。「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合せると 65.0%と、かなりの率で新学科の教育に魅力を感じてくれている。

また、滋賀短期大学にデジタルライフビジネス学科（仮称）が設置された場合、進学したいと思いますか？との問いには、「ぜひ進学したい」は 6 人（3.3%）、で、「進学先の一つとして検討したい」が 73 人（39.9%）、「進学先として検討しない」は 28 人（15.3%）、「わからない」が 76 人（41.5%）となった。現段階で「進学先として検討したい」と答えた 79 人では、「とても魅力を感じる」の 35.2%と「ある

程度魅力を感じる」の 42.0%を合せると 77.2%の高評価となった。

〔本学訪問の高校生〕 新学科の 5 つの教育に感じる魅力 （複数回答の人数と構成比）

区　分 回答者 213 人	㋐とても感じる	㋑ある程度感じる	㋒どちらでもない	㋓あまり感じない	㋔まったく感じない	㋐+㋑
1　データサイエンス系	27	72	71	10	1	99
2　デジタルデザイン系	49	75	53	3	1	124
3　ものづくりデザイン系	63	71	39	8	1	134
4　ライフ＆ワークデザイン系	35	84	56	6	0	119
5　実践力育成系	37	76	66	2	0	113
構成比	23.3%	41.7%	31.5%	3.2%	0.3%	65.0%

うち、デジタルライフビジネス学科を進学先に考えるとした 79 人の評価

79 人の評価構成比	35.2%	42.0%	20.7%	1.8%	0.3%	77.2%

【資料 3-2】オープンキャンパス参加者等へのアンケート調査結果

（２）学生確保に向けた取組状況

学生の確保に向けては、デジタルライフビジネス学科とそこでの教育内容を十分に説明する必要があり、主に以下のような取り組みを積極的に実施する。また、既にある学科での取り組みと併せてのＰＲ活動を積極的に推進していく。

ア　学科案内（チラシ）等の制作・配布

通常の学科と異なり、学科連係課程実施学科という新たな制度で設置される「デジタルライフビジネス学科」について、高校生や教員、保護者の理解を得るために本学科について説明したチラシ等を制作し、配布する。これらの資料は、高等学校等での校内説明会、出前授業等での説明資料としても使用する。

イ　ホームページによる募集活動

本学では、スマホ利用を想定したホームページによる募集活動を行う。具体的には、本学ホームページに「デジタルライフビジネス学科」の特設サイトを作成し、学科の内容や入試方法等の周知を図る。

ウ　オープンキャンパス・個別相談開催による募集活動

令和 3 年 10 月に本学で学科説明会を開催し、教育内容や入試等について詳細な説明を行う。その後のオープンキャンパスでは模擬授業や教員・学生との交流により、本学科の周知を図る。模擬授業は、連係協力学科である生活学科とビジネスコミュニケーション学科の連係・協力によって提供する。また、新学科に関して個別の学校見学や相談の要請についても対応する。

エ　進学ガイダンス等への参画による募集活動

滋賀県や京都市内で開催される進学ガイダンス会場へ積極的に参加し、本学科の教育内容や入試方法を説明するとともに、質問に答える機会を設定して高校生に直接ＰＲする。

オ　受験雑誌等の媒体への掲載広告によるＰＲ活動

進学情報誌に本学科の内容や入試方法等を掲載してＰＲを行う。また、掲載情報を見て本学科の資料を請求する者等に対しては、大学案内や学科案内（チラシ）等の入試関係書類を発送する。

カ　近隣地区の高校訪問等による進路担当への募集活動

滋賀県に加え、京都府、福井県、三重県を対象に、本学職員が高等学校を訪問して、本学科の内容や入試方法について説明するとともに、進路担当者の質問に答える機会を設定しＰＲを行う。

キ　関連団体などに対する周知

卒業生（同窓生）に対し、本学が発行する学報（広報誌）を利用し、広く周知を図る。また、滋賀県内の主要な経済団体には訪問して説明する。

なお、新学科設置の文部科学省への届け出以降は、上記に掲げた取り組に加え、学生募集に関する告知広報を速やかに行っていく。

また、入学試験をはじめとする募集の内容について、学科説明会を本学で開催するとともに、ホームページ等を利用して迅速に広報していく。

２．人材需要の動向等社会の要請

（１）人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

デジタルライフビジネス学科は、生活とビジネスの基礎を身に付け、それを学びの基盤とし、新時代のライフデザインを意識しながらデータサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野の知識やスキルを学び、高度なデジタル社会の中で、その知識やスキルを活かして、活躍できる人材を育成することを目的としている。ここで養成する人材像は次のとおりである。

① 生活学とビジネス学、両方の基礎を身につけた人材を育成する。

② データサイエンス分野、デジタル分野、ものづくり分野の知識やスキルを身につけた人材を育成する。

③ 高度なデジタル社会の中で、修得した知識やスキルを統合・活用して生活やビジネスの場で活躍できる人材を育成する。

また、本学科では、高度デジタル社会で必要とされる能力を、どのように学生に身につけさせるかという課題を中心に教育方法に関する研究を進めていくこととしており、各教員の専門領域に関する研究の他に、学科として次の３つの研究に取り組む予定である。

① リテラシーレベルのデータサイエンス教育における効率的な教育方法に関する研究

② リアルなものづくりとウェブデザインやSNS上の情報発信を結び付け、ビジネスに展開するための知識とスキルを効率的に教育するためのカリキュラム構築に関する研究

③ 高度なデジタル社会の中で、生涯のライフデザインやファイナンシャルプランニングを実際に設計することができるような能力を育成するための教育方法に関する研究

（２）上記（１）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

デジタル社会の構築においては、デジタル化に対応できる人材が求められる。以下、デジタル人材の育成に関して、行政や産業界、企業の動向・状況をまとめる。

ア 社会情勢と国の動向

新型コロナウイルス感染症の流行による「新たな日常」は、ＩＣＴが生活や経済活動の維持に必要不可欠な技術であることを改めて認識させる契機となり、行政をはじめ、これまでデジタル化が進まなかった領域においてもデジタル化の遅れを取り戻す好機になっている。

政府においては、令和３年５月12日にデジタル改革関連法が成立し、６月18日にはデジタル社会の実現に向けた重点計画が策定され、官民を挙げたデジタル人材の育成・確保が盛り込まれた。９月１日にはデジタル庁が発足し、今後、ここを司令塔として、行政のデジタル化に加え、マイナンバーカードの普及、健康保険証や免許証との統合など国民側のＤＸとの相乗効果により、利便性の高いデジタル社会の構築が推進されることとなった。また、ＩｏＴ、ＡＩ、ロボット、ビックデータ、５Ｇなど社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術の進化・革新が進んでいるが、このような新たなテクノロジーを活用して社会課題の解決が進められ、デジタル社会の形成が図られていくことになる。

現在、中央教育審議会の大学教育分科会においては、魅力ある地方大学の在り方について議論・検討されている。まだ検討案の段階ではあるが、「我が国の大学を取り巻く状況はＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）やグローバル化の進展、Society 5.0 の到来等、急速に変化し、社会産業構造は資本集約型から知識集約型社会へと移り変わっている。」といった現状認識のもと、「社会全体の大きな価値転換の中では、地域産業のＤＸやグローバル化を推進していくための人材育成も不可欠とな

る」との考え方が示された。会議では「地方でも、デジタル人材の確保は大変深刻な問題。ＡＩ やデータサイエンスなどのデジタル人材を、地方で育成し、活躍できるようにしてもらいたい」とのご意見もあったところである。

このような情勢のもと、本学科が行う人材育成や教育研究は、デジタル社会の構築推進に有用であり、将来、地元自治体や産業界と連携可能な取り組みになると考えている。

イ　滋賀県の状況

滋賀県では、ＤＸを強力に推進するよう、令和３年４月１日に副知事を本部長として「滋賀県デジタル社会推進本部」（ＤＸ本部）を設置した。同時に政策企画部情報政策課内に地域デジタル化連携推進室を設け、ＤＸで滋賀の未来がどう変わるかを訴えながらＤＸの推進に取り組み始めた。4 月 20 日にはＤＸ本部において「滋賀県におけるＤＸ推進に係る方針」が策定されている。この方針では、教育分野において「これまでの集団での学びの良さを活かしつつ、デジタル技術を活用した教育を推進し、Society5.0 時代に対応した資質や能力を備えた人材の育成を目指す」とされている。また、産業分野においては「県内産業における最先端のデジタル技術の活用やデータ利活用を前提としたデジタルシフトおよびＤＸ人材育成を積極的に支援する」とされている。今後、教育機関と産業界が連携し、課題解決提案や製品の共同開発等を通じてＤＸ人材を育成したり、ＩｏＴ、ＡＩ等のデジタル技術を活用できる人材を育成したりすることで、企業のＤＸ推進を担う人材の育成が大きく推進されることとなる。5 月 31 日には、新たに、滋賀銀行、関西みらい銀行と連携して「滋賀県ＤＸ官民協創サロン」（滋賀県庁新館７階）が開設され、ＤＸに取り組む県や市町及び事業者と、ＤＸに高い専門性を有する企業・団体が行なう支援とを結びつける仕組みも整備された。滋賀県は、年内に「（仮称）滋賀県ＤＸ推進戦略」を策定する予定であり、計画的に行政のデジタル化を推進するとともに、産業、社会基盤としてのデジタルインフラを浸透させることで、県民の暮らしを豊かで快適にする「社会全体のＤＸ」の実現を目指していくことになる。

なお、本学の新学科に関する県庁担当部局との懇談において、県の地域デジタル化推進室長と大学担当の企画調整課参事から、県内でのＤＸ人材の育成に関して、新学科に期待するとの評価を得ている。滋賀県は、日常の中にデジタルが溶け込み、意識することなく快適な生活が実現していく社会を目指しているが、そんな社会の担い手育成に関し、本学科は大きく寄与できるものと考えている。

【資料４】滋賀県におけるＤＸ推進に係る方針

ウ　産業界の状況

＜企業の動向＞

ＤＸの進展は、様々な産業構造の変化に繋がるものであり、その対応は企業規模を問わず急務となっている。そこで、企業におけるデジタル化の取り組みについて、大阪シティ信用金庫の調査結果から推察する。

令和２年 11 月に実施された大阪府内中小企業 1303 社のデジタル化への取り組み状況調査において、デジタル化の重要性認識では、4 割の企業が自社業務のデジタル化は「重要な経営課題」と認識しており、経営課題の一つととらえる企業を加えると、実に７割の企業がデジタル化を経営課題としてとらえている。しかし、実際に自社で取り組んでいる企業は３割に満たず、現状では対応の遅れが目立つ結果となっている。ただ、まだ取り組んでいない企業でも「取り組む意向あり」が 38.8%とデジタル化への関心は高く、今後取り組みが進む可能性が高い。なお、取り組まない理由としては、「適した業務がない」「時間的余裕がない」に次いで、「スキルのある人材が不

足している」と答えた企業が 28.8%もあった。
　急速なデジタル化の進展は、企業間格差が広がるなど既存ビジネスにきわめて大きな影響をもたらすといわれている。デジタル社会が進展すれば、より自社製品やサービスを見直す必要に迫られる企業も多いと思われ、その課題解決に必要な人材はさらに求められると思料する。

【資料５】大阪シティ信用金庫調査結果

＜滋賀県内の産業界の動向＞

①　滋賀経済同友会では、令和 2 年度にＤＸ研究会を設け、令和 3 年 3 月に「ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の本質について ～滋賀のグリーン経済を実現するために～」との提言を取りまとめている。
　この中で、ＤＸとは「単にデジタル技術を導入し、業務効率化やコスト削減を図ることを目的とするだけでなく、新たな価値を創造することである」とし、「企業自体が変化できないことはリスクにもなり得る」「経営発送のパラダイムシフトを経営者は受け入れることが重要」と指摘したうえで、企業（経営者）に向けて「滋賀の経営者は、ＤＸを進めて行くうえで、環境先進県の一員として、顧客が求める製品・サービスを創造していくだけでなく、グリーン経済の実現に対しても、トランスフォーメーションに取り組んでいくべき」と提言している。
　行政についての提言では、すでに「県の地域デジタル化連携推進室の設置」や「ＤＸ官民共創サロンの開設」が実現している。また、「滋賀県でＤＸを推進するにあたり、デジタル人材の採用・育成、デジタル技術の導入・革新に必要な資金援助や規制緩和など国から必要な支援を受けるための働きかけを行うべき」との提言も発出されている。

【資料６】滋賀経済同友会の提言

②　滋賀県産業経済協会は、滋賀県内最大の経済団体であり、滋賀の業種の垣根を越えた地元企業から大手企業までの 450 社を超える企業で構成し、個社単体では解決できない課題を団体として取り組むなど、会員企業や滋賀県経済が発展していくための活動を積極的に行っている。
　今年度は、「攻め」のデジタル変革をテーマに通常総会を開催し、協会内に設けたＤＸ研究会を中心に「ＤＸによる新たなビジネスモデルづくり事業」を滋賀県から受託し、ＤＸによる生産性向上や業務革新、バリューチェーン再構築など新たなビジネスモデルへの革新を支援することとなった。ＤＸの言葉だけで、何から取りくんでいいのか判らないという経営者の本音に対し、具体的に個別企業の中でＤＸ人材のリーダーを育成し、新たなビジネスモデルへの挑戦に積極的に関与し、先端技術や導入事例を学び、各社のＤＸソリューションに寄与することとしている。研究会の企業ではＤＸ担当者を専任し、企業単位で目標・戦略・数値目標を掲げ、取り組みを始めている。
　協会からは、デジタルデータを活用した最適実現をイメージできる人が企業のＤＸ推進者として必要であり、本学科において、企業の特に企画管理部門で活躍するＤＸ人材を育ててほしいとの前向きの要請を受けることができた。また、少しでもＤＸ知識を得た学生の地元企業への就職に協会から協力を得ることとなった。

＜企業の採用担当者アンケート＞

　令和 3 年 7 月 30 日から 8 月 31 日にかけて、過去 3 年間に採用実績のある企業 64 社の採用担当者に、滋賀短期大学の新学科設置に関するアンケート調査を行った。

回答のあった 25 件では、新学科の特色の中でもデータサイエンス、デジタルサイエンス分野への関心の高さが示された。

滋賀短期大学に「デジタルライフビジネス学科」（仮称）」は必要だと思われますか、との問いには、「ぜひ必要」と「どちらかといえば必要」を合わせると 80%が必要と回答し、採用の意向についても「積極的に採用したい」「採用したい」「採用を検討したい」の合計が 84%と興味を示している。また、新学科においてデジタルライフやデジタルビジネスに関する公開講座が開設されれば、社員教育として「参加させたい」「参加を検討する」と答えた企業が半数を超えている。

【資料７】企業を対象とした新学科アンケート調査結果

【資料目次】

【資料１】全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況（滋賀県教育委員会） ・・・・・・ 2

【資料２】滋賀県の年齢別推計人口 ・・ 4

【資料 3-1】滋賀短期大学附属高等学校２年生へのアンケート調査結果 ・・・・・・・・・・ 5

【資料 3-2】オープンキャンパス参加者等へのアンケート調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・ 10

【資料４】滋賀県におけるＤＸ推進に係る方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

【資料５】大阪シティ信用金庫調査結果 ・・・ 15

【資料６】滋賀経済同友会の提言（抽出） ・・・ 22

【資料７】企業を対象とした新学科アンケート調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

【資料１】全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況（滋賀県教育委員会）

Ⅳ　全日制・定時制高等学校卒業者の進路状況

対象 ・・ 全日制高等学校54校（県立44、私立10）、定時制高等学校7校（県立6、私立1） ※併置校、分校含む

【1表】 年度別卒業者の内訳

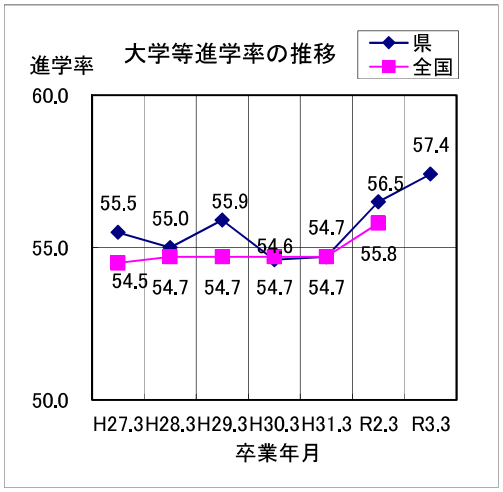
（上段　人、下段　%）

卒業年月	卒業者総数（A～G）	大学等進学者＊ A	専修学校（専門課程）進学者 B	専修学校（一般課程）等入学者 C	公共職業能力開発施設等入学者＊＊ D	就職者＊＊＊ E	一時的な仕事に就いた者＊＊＊＊ F	その他 G	A～Dのうち就職者（再掲）	大学等進学率 県	県 男子	県 女子	全国平均
H27.3	12,360	6,865	2,049	431	73	2,283	195	464	1	55.5	54.4	56.8	54.5
	100.0	55.5	16.6	3.5	0.6	18.5	1.6	3.8	0.0				
H28.3	12,656	6,958	2,114	509	84	2,272	181	538	2	55.0	53.0	57.1	54.7
	100.0	55.0	16.7	4.0	0.7	18.0	1.4	4.3	0.0				
H29.3	12,884	7,206	2,171	503	73	2,247	177	507	1	55.9	53.9	58.0	54.7
	100.0	55.9	16.9	3.9	0.6	17.4	1.4	3.9	0.0				
H30.3	12,701	6,940	2,129	481	69	2,328	178	576	1	54.6	52.6	56.7	54.7
	100.0	54.6	16.8	3.8	0.5	18.3	1.4	4.5	0.0				
H31.3	12,688	6,946	2,147	442	70	2,340	144	599	0	54.7	52.4	57.2	54.7
	100.0	54.7	16.9	3.5	0.6	18.4	1.1	4.7	0.0				
R2.3	12,752	7,201	2,110	326	69	2,353		693	1	56.5	54.6	58.4	55.8
	100.0	56.5	16.5	2.6	0.5	18.5		5.4	0.0				
R3.3	**12,524**	**7,190**	**2,183**	**310**	**76**	**2,099**		**666**	**0**	**57.4**	**56.4**	**58.5**	
	100.0	**57.4**	**17.4**	**2.5**	**0.6**	**16.8**		**5.3**	**0.0**				
男子	6,419	3,620	861	228	68	1,311		331	0				
女子	6,105	3,570	1,322	82	8	788		335	0				
全日制	12,241	7,160	2,135	307	74	1,972		593	0				
定時制	283	30	48	3	2	127		73	0				

＊ 大学等とは、大学、短期大学、高等学校等の専攻科です。
＊＊ 公共職業能力開発施設等とは、職業訓練を行うために設置された施設です。
＊＊＊ 就職者とは、自営業主等、無期雇用労働者、有期雇用労働者のうち雇用契約期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者をいいます。
＊＊＊＊ 令和2年度からは「その他」に含めて計上しています。

○ **大学等進学率は57.4%で、前年度より0.9ポイント上昇**

○ **卒業者に占める就職者の割合は16.8%で、前年度より1.7ポイント低下**



1　令和３年３月の卒業者総数は12,524人で、前年度より228人減少している。

2　大学等進学者は7,190人で、進学率は57.4%となっている。

3　専修学校（専門課程）進学者は2,183人で、卒業者総数の17.4%となっている。

4　専修学校（一般課程）等入学者は310人で、卒業者総数の2.5%となっている。

5　公共職業能力開発施設等入学者は76人で、卒業者総数の0.6%となっている。

6　就職者は2,099人で、卒業者総数の16.8%となっている。

7　一時的な仕事に就いた者は、令和２年度調査からは「その他」に分類されている。

8　その他は666人で、卒業者総数の5.3%となっている。主な内訳は、無認可の学校が205人、自宅での進学準備が202人、求職中が111人、一時的な仕事に就いた者に相当する人数は56人である。

【2表】大学等進学者の学校種類別内訳

（上段　人、下段　%）

	大学等進学者	大学（学部）				短期大学（本科）				その他				
		計	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計	通信教育	別科	高等学校専攻科	特別支援学校専攻科
男子	3,620	3,536	432	166	2,938	82	0	0	82	2	2	0	0	0
	100.0	97.7	11.9	4.6	81.2	2.3	0.0	0.0	2.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
女子	3,570	3,013	317	250	2,446	554	0	0	554	3	3	0	0	0
	100.0	84.4	8.9	7.0	68.5	15.5	0.0	0.0	15.5	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
合計	7,190	6,549	749	416	5,384	636	0	0	636	5	5	0	0	0
	100.0	91.1	10.4	5.8	74.9	8.8	0.0	0.0	8.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
（参考）	7,201	6,497	734	374	5,389	698	0	5	693	6	6	0	0	0
前年度	100.0	90.2	10.2	5.2	74.8	9.7	0.0	0.1	9.6	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0

学校種類別内訳は、大学（学部）進学者が6,549人（構成比91.1%）、短期大学（本科）進学者は636人（8.8%）である。

設置者別では、私立大学（学部）への進学者が最も多く構成比74.9%、次いで国立大学（学部）への進学者が10.4%、私立短期大学（本科）への進学者が8.8%などとなっている。

【3表】大学(学部)、短期大学(本科)進学者の地域別内訳

（人）

	計	滋賀	京都	大阪	近畿＊	中部	北陸	東京	関東＊＊	中国	その他
大学（学部）	6,549	1,489	2,832	1,140	249	317	114	148	60	90	110
短期大学（本科）	636	335	221	38	6	28	0	0	5	0	3
計	7,185	1,824	3,053	1,178	255	345	114	148	65	90	113
%	100.0	25.4	42.5	16.4	3.5	4.8	1.6	2.1	0.9	1.3	1.6
（参考）前年度	7,195	1,699	3,099	1,203	274	377	139	147	64	86	107
%	100.0	23.6	43.1	16.7	3.8	5.2	1.9	2.0	0.9	1.2	1.5

＊近畿:兵庫、奈良、和歌山の3県　＊＊関東:栃木、茨城、群馬、埼玉、千葉、神奈川の6県

大学（学部）、短期大学（本科）進学者の進学先地域は、京都府が最も多く3,053人、次いで滋賀県1,824人、大阪府1,178人の順となっている。滋賀県への進学者は、進学者全体の25.4%となっている。

【資料２】滋賀県の年齢別推計人口

滋賀県季報　市町・年齢・性別人口（令和 3年 7月 1日現在 ）

（市町名）県計

年齢	総数	男	女	年齢	総数	男	女	年齢	総数	男	女
0～ 4歳	57,119	29,479	27,640	40～44歳	93,774	47,094	46,680	80～84歳	53,155	23,213	29,942
0歳	10,234	5,260	4,974	40歳	17,457	8,842	8,615	80歳	13,004	5,926	7,078
1歳	11,027	5,691	5,336	41歳	18,242	9,227	9,015	81歳	11,187	4,976	6,211
2歳	11,592	5,946	5,646	42歳	18,608	9,281	9,327	82歳	8,987	3,970	5,017
3歳	11,882	6,160	5,722	43歳	19,799	9,850	9,949	83歳	10,266	4,386	5,880
4歳	12,384	6,422	5,962	44歳	19,668	9,894	9,774	84歳	9,711	3,955	5,756
5～ 9歳	64,602	33,062	31,540	45～49歳	109,771	55,539	54,232	85～89歳	37,398	13,992	23,406
5歳	12,658	6,322	6,336	45歳	20,776	10,449	10,327	85歳	9,260	3,757	5,503
6歳	12,818	6,597	6,221	46歳	21,895	11,026	10,869	86歳	7,965	3,099	4,866
7歳	12,709	6,676	6,033	47歳	22,184	11,188	10,996	87歳	7,371	2,734	4,637
8歳	13,133	6,677	6,456	48歳	22,712	11,458	11,254	88歳	6,715	2,350	4,365
9歳	13,284	6,790	6,494	49歳	22,204	11,418	10,786	89歳	6,087	2,052	4,035
10～14歳	68,654	35,283	33,371	50～54歳	97,105	48,780	48,325	90～94歳	19,151	5,575	13,576
10歳	13,724	7,075	6,649	50歳	20,956	10,575	10,381	90歳	5,242	1,654	3,588
11歳	13,575	6,931	6,644	51歳	19,805	10,018	9,787	91歳	4,365	1,350	3,015
12歳	13,773	7,005	6,768	52歳	19,619	9,773	9,846	92歳	3,831	1,077	2,754
13歳	13,800	7,141	6,659	53歳	19,219	9,607	9,612	93歳	3,193	840	2,353
14歳	13,782	7,131	6,651	54歳	17,506	8,807	8,699	94歳	2,520	654	1,866
15～19歳	70,711	36,519	34,192	55～59歳	83,615	41,506	42,109	95～99歳	5,698	1,087	4,611
15歳	13,463	7,039	6,424	55歳	15,698	7,795	7,903	95歳	2,018	478	1,540
16歳	13,654	6,998	6,656	56歳	17,846	8,865	8,981	96歳	1,531	297	1,234
17歳	14,088	7,279	6,809	57歳	17,111	8,528	8,583	97歳	978	182	796
18歳	14,491	7,461	7,030	58歳	16,728	8,266	8,462	98歳	761	89	672
19歳	15,015	7,742	7,273	59歳	16,232	8,052	8,180	99歳	410	41	369
20～24歳	74,056	39,128	34,928	60～64歳	79,212	38,688	40,524				
20歳	15,153	7,954	7,199	60歳	15,945	7,743	8,202				
21歳	15,501	8,037	7,464	61歳	15,774	7,697	8,077				
22歳	14,871	7,855	7,016	62歳	16,575	8,068	8,507				
23歳	14,182	7,501	6,681	63歳	15,509	7,628	7,881				
24歳	14,349	7,781	6,568	64歳	15,409	7,552	7,857				
25～29歳	69,709	37,464	32,245	65～69歳	83,930	40,835	43,095				
25歳	14,244	7,826	6,418	65歳	16,038	7,850	8,188				
26歳	14,364	7,787	6,577	66歳	16,548	8,135	8,413				
27歳	13,995	7,376	6,619	67歳	16,094	7,846	8,248				
28歳	13,768	7,413	6,355	68歳	17,358	8,396	8,962				
29歳	13,338	7,062	6,276	69歳	17,892	8,608	9,284				
30～34歳	73,603	38,318	35,285	70～74歳	102,278	48,954	53,324				
30歳	13,741	7,160	6,581	70歳	19,611	9,542	10,069				
31歳	14,276	7,453	6,823	71歳	20,566	9,876	10,690				
32歳	14,979	7,803	7,176	72歳	22,383	10,586	11,797				
33歳	14,974	7,838	7,136	73歳	21,611	10,305	11,306				
34歳	15,633	8,064	7,569	74歳	18,107	8,645	9,462				
35～39歳	82,615	41,995	40,620	75～79歳	68,858	32,065	36,793	100歳以上	788	119	669
35歳	15,732	8,064	7,668	75歳	11,265	5,323	5,942	年齢不詳	13,869	8,154	5,715
36歳	16,184	8,282	7,902	76歳	13,222	6,166	7,056	総 数	1,409,671	696,849	712,822
37歳	16,832	8,499	8,333	77歳	15,609	7,212	8,397	0～14歳	190,375	97,824	92,551
38歳	17,229	8,699	8,530	78歳	14,451	6,670	7,781	15～64歳	834,171	425,031	409,140
39歳	16,638	8,451	8,187	79歳	14,311	6,694	7,617	65歳以上	371,256	165,840	205,416

【資料 3-1】滋賀短期大学附属高等学校２年生へのアンケート調査結果

滋賀短期大学附属高等学校2年生への新学科に関するアンケート調査結果

1 滋賀短期大学附属高等学校の概要

生徒数　　令和3年度　690名（1年生245人、2年生232人、3年生213人）

進路実績　　令和3年3月卒業生253人　四年制大学129人、短期大学46人（うち滋賀短大37人）、専門学校63人、就職7人、その他8人

2 アンケートの内容

滋賀短期大学　デジタルライフビジネス学科（仮称）設置に関するアンケート

3 回答数

令和3年8月26日～9月3日の間のウェブ回答を集計

有効回答 213（回答率 91.8%）

4 結果概要

○ 短大希望者は大学や専門学校などとの併願を含めると49人（18.4%）。

○ 進学希望者で県内を希望する者は68人（29.3%）。

○ 興味ある学問は、1番目が「教員養成・教育学・保育学関係」で52人(17.7%)、2番目が「 看護・保険関係」で37人(12.6%) 、3番目が 生活科学関係で24人(8.2%) となっている。ただ「まだ決めていない」者も39人(13.3%) いる。

○ 卒業後に就きたい職業は、1番目が「公務員（国・県）」で33人(13.9%)、2番目が「 公務員（市町村）」で20人(8.4%) 、合わせると公務員は53人(22.3%)となる。3番目が「メーカー」で12人(5.1%) となっている。ただ「わからない」が130人(54.9%) いる。

○ 進学先を選ぶ基準として重視するのは、1番目が「就職・進学状況」で95人(16.6%)、2番目が「 取得可能な資格／免許」で91人(15.9%) 、3番目が「教育・研究内容」で85人(14.3%) となっている。

○ 新学科の5つの魅力ある教育（データサイエンス系、デジタルデザイン系、ものづくりデザイン系、ライフ＆ワークデザイン系、実践力育成系）ごとに聞いた回答を集計すると、「とても魅力を感じる」との回答が全体の9.5%、「ある程度魅力を感じる」が33.9%、「どちらでもない」は43.%、「あまり魅力を感じない」が7.6%、「まったく魅力を感じない」は5.4%であった。

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1 データサイエンス系	12	71	94	23	12
2 デジタルデザイン系	20	68	95	16	13
3 ものづくりデザイン系	32	74	83	14	9
4 ライフ＆ワークデザイン系	20	73	96	12	10
5 実践力育成系	16	72	93	15	13
構成比	9.5%	33.9%	43.7%	7.6%	5.4%

○ 滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか？との問いには、「ぜひ進学したい」はゼロで、「進学先の一つとして検討したい」が33人（15.6%）、「進学先として検討しない」は99人（46.7%）、「わからない」が80人（37.7%）となった。

○ 現段階で「進学先として検討したい」と答えたものは33人であった。男性が16人女性が17人で進学先として短大を検討する者は9人であった。また、新学科の5つの魅力ある教育について「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合せると71.2%の評価となった。

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
構成比	17.8%	53.4%	23.9%	3.7%	1.2%

【回答の集計結果】

設問_1　あなたの性別をお聞かせください。

男	女	計（人）
75	138	213
35.2%	64.8%	100.0%

設問_2　あなたは、高校卒業後、現時点でどのような進路を希望していますか。（複数回答可）

大学	**短大**	専門学校	就職	その他	計
145	**49**	56	7	9	266
54.5%	**18.4%**	21.1%	2.6%	3.4%	100.0%

設問_3　設問2で「短期大学に進学」「4年制大学に進学」「専門学校・専修学校に進学」を選んだ方は、進学先として、どの地域を希望しますか。

県内	県外	海外	未定	計
68	94	1	69	232
29.3%	40.5%	0.4%	29.7%	99.9%

設問_4　設問3で「県外」を選択された方は、その理由を教えてください。

県内に希望分野がない	県外に進学したい	その他	計
50	33	11	94
53.2%	35.1%	11.7%	100.0%

設問_5　設問4で「その他」を選択された方は理由をお聞かせください。

県外か県内か未定だから
今やらせてもらっている仕事がしやすくなるため
まだどこの大学に行くか決まってないから
家から行ける距離ならどこでもいい
一人暮らしがしたい
いきたい大学があればそこにいきたいから
家から通える範囲か、近畿県内がいいため
県内にも進学したい分野はあるけど県外のとも比較して考えたいから
県内と県外に行きたい分野がどちらもあるため、どちらにするかまだ、決めていない
まだ決めていない
志望校が県内県外に1つずつあるため
自分の行きたいと思っている大学がとても将来性にとても良いと思ったからです。
進学したいと思った学校が県外だったため
地元に戻るから
なんとなく

設問_6　あなたは、どのような学問に興味がありますか。（複数回答可）

教員養成・教育学・保育学関係	52人(17.7%)
法学・政治関係	6人(2.0%)
文学関係	6人(2.0%)
商学・経済学・経営関係	19人(6.5%)
語学関係	9人(3.1%)
国際関係学関係	7人(2.4%)
社会学・社会福祉学関係	9人(3.1%)
体育学関係	21人(7.1%)
工学関係	7人(2.4%)
理学関係	15人(5.1%)
農・水産学関係	7人(2.4%)
医学・歯学・薬学関係	11人(3.7%)
看護・保険関係	37人(12.6%)
生活科学関係（食物・栄養学等含む）	24人(8.2%)
総合科学関係	2人(0.7%)
その他（設問7でお聞かせください。）	23人(7.8%)
まだ決めていない	39人(13.3%)

設問_7　設問6で「その他」を選択された方は内容をお聞かせください。

美術・芸術	映像	IT	芸術デザイン	情報	小さい子が好きだから
美術　デザイン	写真関係	音楽関係	音楽、芸能	美容師	芸術もしくはデザイン系
動物看護系	緊急救命隊	エステティシャン	動物系	なし	

設問_8　あなたが進学先を選ぶ基準として重視されているものは何ですか。（複数回答可）

教育・研究内容	85人(14.3%)
就職・進学状況	95人(16.6%)
取得可能な資格／免許	91人(15.9%)
学費・奨学金制度	60人(10.5%)
キャンパスの雰囲気	84人(14.7%)
周辺環境	40人(7.0%)
交通アクセス	2人(12.6%)
入試科目・制度	43人(7.5%)
その他（設問9でお聞かせください。）	3人(0.5%)

設問_9　設問8で「その他」を選択された方は内容をお聞かせください。

CA、行きたいと思ったところ、部活動

設問_10　あなたは、卒業後にどのような職業に就きたいと思いますか。（複数回答可）

銀行・金融系	3人(1.3%)
会計・法律関係	5人(2.1%)
メーカー	12人(5.1%)
広告・商社	5人(2.1%)
公務員（国・県）	33人(13.9%)
公務員（市町村）	20人(8.4%)
NPO	0人(0.0%)
わからない	130人(54.9%)
その他（設問11でお聞かせください。）	29人(12.2%)

設問_11　設問10で「その他」を選択された方は内容をお聞かせください。

看護師	スポーツ系	カウンセラー	芸能	保育士	イラストレーター	音楽関係
自営業	医療事務	飼育員	飼育員	栄養士	美容系	未定
研究、開発	福祉医療	栄養士	学校教師	CA	ゲーム関係	ない

滋賀短期大学では、デジタル化社会の中で、新時代の生活やビジネスに対応した人材を育成する「デジタルライフビジネス学科（仮称）」の設置を予定しております。
本学科では、次のような特色ある教育を行う予定です。これらの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。5つの教育内容について、それぞれ、あてはまる印象1つを選択してください。

設問_12　1、【データサイエンス系】

一見意味をもたない、膨大なデータを活かせるよう処理・分析し、データに基づく問題解決力を見に付けます。（データサイエンス入門・応用、コンピュータリテラシー、情報処理など）

設問_13　2、【デジタルデザイン系】

ウェブデザイン・プログラミング・CGの技術を身につけるほか、それらをSNSなどを通じて発信する方法や、企業に活かす方法などを学びます。（ウェブデザイン、映像デザイン、プログラミング、CG演習、マルチメディア演習など）

設問_14　3、【ものづくりデザイン系】

自分でイメージしたものを手作りでカタチにして、ものづくりの楽しさを味わいます。ファッションからネイルアートまで、その範囲は多岐にわたります。（ファッションクリエイティブ演習、ファッションデザイン、ハンドメイドデザイン、インテリアデザイン、ネイルアートデザイン、カラーコーディネート論）

設問_15　4、【ライフ＆ワークデザイン系】

自分のライフプラン・ファイナンシャルプラン・キャリアプランを学び、仕事と生活の両方を充実させる新しい働き方や生き方について考えます。（ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザイン演習、情報社会論、生活文化論）

設問_16　5、【実践力育成系】

上記の学びを統合して新しい時代の生活とビジネスについて実践科目を通じて学び、共感を生む企画力と実践力を磨きます。（SNS起業プロジェクト、インターネットビジネス、イベントプロデュースプロジェクト、地域貢献演習）

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1　データサイエンス系	12	71	94	23	12
2　デジタルデザイン系	20	68	95	16	13
3　ものづくりデザイン系	32	74	83	14	9
4　ライフ＆ワークデザイン系	20	73	96	12	10
5　実践力育成系	16	72	93	15	13
構成比	**9.5%**	**33.9%**	**43.7%**	**7.6%**	**5.4%**

設問_17　あなたは、滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか？

ぜひ進学したい	**進学先の一つとして検討したい**	進学先として検討しない	わからない
0	**33**	99	80
0.0%	**15.6%**	46.7%	37.7%

設問_18　新しい学科「デジタルライフビジネス学科（仮称）」について、ご意見がありましたら、お聞かせください。

ものづくり、デザインの分野が面白そうだなと思いました。
とても良いと思います！
省略語は、「デジラビ学科」で良いと
未来の実現のために目指せるすごい学科だと思いました。
ものづくりデザイン系、少し興味があってとても良いなと思いました。
面白そうな内容があってとても楽しそうでした
特にありません。

○ 設問17で新学科ができたら「進学先の一つとして検討したい」と回答した33人の主な回答は次のとおり。

性別

男	女	計（人）
16	17	33

進路希望

大学	短大	専門学校	就職	その他
25	9	6	1	2

（複数回答）

新学科の魅力

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1　データサイエンス系	2	22	8	1	0
2　デジタルデザイン系	7	16	8	2	0
3　ものづくりデザイン系	10	14	7	1	1
4　ライフ＆ワークデザイン系	4	19	8	0	1
5　実践力育成系	6	16	8	2	0
構成比	17.8%	53.4%	23.9%	3.7%	1.2%

【資料3-2】オープンキャンパス参加者等へのアンケート調査結果

オープンキャンパス参加者等へのアンケート調査結果

1 対象者

令和3年8月1日、8月21日オープンキャンパス参加者（1年生、2年生、3年生）

令和3年8月4日大学連続講座受講者（1年生、2年生、3年生）

※学科等連係課程制度に則った短期大学士課程であるため、生活学科およびビジネスコミュニケーション学科を希望する者に限る

2 アンケートの内容

滋賀短期大学　デジタルライフビジネス学科（仮称）設置に関するアンケート

3 回答数

令和3年8月1日、8月4日、8月21日の回答を集計

有効回答 187（回答率 99.4%）

4 結果概要

○ 短大希望者は大学や専門学校などとの併願を含めると152人（55.3%）。

○ 進学希望者で県内を希望する者は73人（44.2%）。

○ 興味ある学問は、1番目が「商学・経済学・経営関係」及び「生活科学関係」で49人(19.0%)、2番目が「看護・保健関係」で24人(9.3%) 、3番目が「教員養成・教育学・保育関係」で18人(7.0%) となっている。ただ「まだ決めていない」者も30人(11.6%) いる。

○ 卒業後に就きたい職業は、1番目が「公務員（市町村）」で21人(10.2%)、2番目が「公務員（国・県）」で15人(7.3%) 、合わせると公務員は36人(17.5%)となる。3番目が「会計・法律関係」で11人(5.3%) となっている。ただ「わからない」が110人(53.7%) いる。

○ 進学先を選ぶ基準として重視するのは、1番目が「就職・進学状況」で116人(19.6%)、2番目が「取得可能な資格／免許」で111人(18.8%) 、3番目が「キャンパスの雰囲気」で90人(15.2%) となっている。

○ 新学科の5つの魅力ある教育（データサイエンス系、デジタルデザイン系、ものづくりデザイン系、ライフ＆ワークデザイン系、実践力育成系）ごとに聞いた回答を集計すると、「とても魅力を感じる」との回答が全体の23.3%、「ある程度魅力を感じる」が41.7%、「どちらでもない」は31.5%、「あまり魅力を感じない」が3.2%、「まったく魅力を感じない」は0.3%であった。

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1 データサイエンス系	27	72	71	10	1
2 デジタルデザイン系	49	75	53	3	1
3 ものづくりデザイン系	63	71	39	8	1
4 ライフ＆ワークデザイン系	35	84	56	6	0
5 実践力育成系	37	76	66	2	0
構成比	23.3%	41.7%	31.5%	3.2%	0.3%

○ 滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか？との問いには、「ぜひ進学したい」は6人（3.3%）で、「進学先の一つとして検討したい」が73人（39.9%）、「進学先として検討しない」は28人（15.3%）、「わからない」が76人（41.5%）となった。

○ 現段階で「是非進学したい」「進学先として検討したい」と答えたものは79人であった。男性が17人、女性が62人で進学先として短大を検討する者は68人であった。また、新学科の5つの魅力ある教育について「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」を合せると77.2%の評価となった。

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
構成比	35.2%	42.0%	20.7%	1.8%	0.3%

【回答の集計結果】

設問_1　あなたの性別をお聞かせください。

男	女	計（人）
29	157	186
15.6%	84.4%	100.0%

設問_2　あなたは、高校卒業後、現時点でどのような進路を希望していますか。（複数回答可）

大学	**短大**	専門学校	就職	その他	計
49	**152**	41	28	5	275
17.8%	**55.3%**	14.9%	10.2%	1.8%	100.0%

設問_3　設問2で「短期大学に進学」「4年制大学に進学」「専門学校・専修学校に進学」を選んだ方は、進学先として、どの地域を希望しますか。

県内	県外	未定	計
73	32	60	165
44.2%	19.4%	36.4%	100.0%

設問_4　設問3で「県外」を選択された方は、その理由を教えてください。

県内に希望分野がない	県外に進学したい	その他	計
12	15	3	30
40.0%	50.0%	10.0%	100.0%

設問_5　設問4で「その他」を選択された方は理由をお聞かせください。

未回答

設問_6　あなたは、どのような学問に興味がありますか。（複数回答可）

教員養成・教育学・保育学関係	18人(7.0%)
法学・政治関係	2人(0.8%)
文学関係	12人(4.6%)
商学・経済学・経営関係	49人(19.0%)
語学関係	11人(4.2%)
国際関係学関係	10人(3.9%)
社会学・社会福祉学関係	8人(3.1%)
体育学関係	8人(3.1%)
工学関係	2人(0.8%)
理学関係	3人(1.2%)
農・水産学関係	4人(1.5%)
医学・歯学・薬学関係	17人(6.6%)
看護・保健関係	24人(9.3%)
生活科学関係（食物・栄養学等含む）	49人(19.0%)
総合科学関係	2人(0.8%)
その他	9人(3.5%)
まだ決めていない	30人(11.6%)

設問_7　あなたが進学先を選ぶ基準として重視されているものは何ですか。（複数回答可）

教育・研究内容	84人(14.2%)
就職・進学状況	116人(19.6%)
取得可能な資格／免許	111人(18.8%)
学費・奨学金制度	65人(11.0%)
キャンパスの雰囲気	90人(15.2%)
周辺環境	25人(4.2%)
交通アクセス	70人(11.9%)
入試科目・制度	30人(5.1%)

設問_8　あなたは、卒業後にどのような職業に就きたいと思いますか。（複数回答可）

銀行・金融系	10人(4.9%)
会計・法律関係	11人(5.4%)
メーカー	8人(3.9%)
広告・商社	7人(3.4%)
公務員（国・県）	15人(7.3%)
公務員（市町村）	21人(10.2%)
NPO	1人(0.5%)
わからない	110人(53.7%)
その他	22人(10.7%)

滋賀短期大学では、デジタル化社会の中で、新時代の生活やビジネスに対応した人材を育成する「デジタルライフビジネス学科（仮称）」の設置を予定しております。
本学科では、次のような特色ある教育を行う予定です。これらの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。5つの教育内容について、それぞれ、あてはまる印象1つを選択してください。

設問_12　1、【データサイエンス系】

一見意味をもたない、膨大なデータを活かせるよう処理・分析し、データに基づく問題解決力を見に付けます。（データサイエンス入門・応用、コンピュータリテラシー、情報処理など）

設問_13　2、【デジタルデザイン系】

ウェブデザイン・プログラミング・CGの技術を身につけるほか、それらをSNSなどを通じて発信する方法や、企業に活かす方法などを学びます。（ウェブデザイン、映像デザイン、プログラミング、CG演習、マルチメディア演習など）

設問_14　3、【ものづくりデザイン系】

自分でイメージしたものを手作りでカタチにして、ものづくりの楽しさを味わいます。ファッションからネイルアートまで、その範囲は多岐にわたります。（ファッションクリエイティブ演習、ファッションデザイン、ハンドメイドデザイン、インテリアデザイン、ネイルアートデザイン、カラーコーディネート論）

設問_15　4、【ライフ＆ワークデザイン系】

自分のライフプラン・ファイナンシャルプラン・キャリアプランを学び、仕事と生活の両方を充実させる新しい働き方や生き方について考えます。（ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザイン演習、情報社会論、生活文化論）

設問_16　5、【実践力育成系】

上記の学びを統合して新しい時代の生活とビジネスについて実践科目を通じて学び、共感を生む企画力と実践力を磨きます。（SNS起業プロジェクト、インターネットビジネス、イベントプロデュースプロジェクト、地域貢献演習）

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1　データサイエンス系	27	72	71	10	1
2　デジタルデザイン系	49	75	53	3	1
3　ものづくりデザイン系	63	71	39	8	1
4　ライフ＆ワークデザイン系	35	84	56	6	0
5　実践力育成系	37	76	66	2	0
構成比	**23.3%**	**41.7%**	**31.5%**	**3.2%**	**0.3%**

設問_17　あなたは、滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか？

ぜひ進学したい	**進学先の一つとして検討したい**	進学先として検討しない	わからない
6	**73**	28	76
3.3%	**39.9%**	15.3%	41.5%

設問_18　新しい学科「デジタルライフビジネス学科（仮称）」について、ご意見がありましたら、お聞かせください。

これからの時代に合わせたよい学科だと思いました。
特にありません。
とても興味がありぜひそちらに進みたいと思いました。
ビジネス基礎、生活基礎の二つを同時に学べることに魅力を感じました。
とてもよさそうな学科だと思いました。

○ 設問17で新学科ができたら「ぜひ進学したい」「進学先の一つとして検討したい」と回答した79人の主な回答は次のとおり。

性別

男	女	計（人）
17	62	79

進路希望

大学	短大	専門学校	就職	その他
19	68	9	13	4

（複数回答）

新学科の魅力

区分	とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	どちらでもない	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
1　データサイエンス系	17	34	19	6	0
2　デジタルデザイン系	32	33	10	0	1
3　ものづくりデザイン系	38	26	12	1	0
4　ライフ＆ワークデザイン系	22	35	19	0	0
5　実践力育成系	25	32	19	0	0
構成比	35.2%	42.0%	20.7%	1.8%	0.3%

滋賀県におけるDX推進に関する方針（案）

新たな価値創造に向けたビジョン

暮らしのDX

【生活】

○ 県民の暮らしのあらゆる領域において、すべての県民がデジタル技術を活用して、健康で快適な暮らしと、環境に配慮した豊かな生活を実感できる「滋賀」を目指す

・新しい体験価値の提供
・『CO_2ネットゼロへの挑戦』をはじめとする「適切な環境への関わり」の創出
・多職種でのデータ連携による医療・介護サービスの提供
・ヘルステックによる健康寿命の延伸
・公共交通の利便性の向上
・新しい学びの創出

【安全・安心】

○ 防災、防犯および交通安全の分野でデジタル技術の活用とデータ利活用を推進し、安全・安心な「滋賀」を目指す

・一人ひとりに合わせた安全・安心情報の提供
・データを活用した新しい交通安全環境の提供
・デジタル技術による防災力・減災力の向上

【教育】

○ これまでの集団での学びの良さを活かしつつ、デジタル技術を活用した教育を推進し、Society5.0時代に対応した資質や能力を備えた人材の育成を目指す

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
・学校と産業界との連携によるDX人材の育成

行政のDX

【デジタルファースト】

○ 県民本位のデジタルファーストを実現し、時間や場所を問わず、ワンストップで、行政サービスを享受できることを目指す

・持ち運べる行政の実現
・利用者本位のスマート申請の実現
・より伝わる情報提供の実現

【デジタルシフト】

○ 行政そのものがデジタルシフトにより変革し、効率化により、限られた人材を有効に活用し、質の高い県民サービスの提供を目指す

・働き方改革の実現
・環境保全を「支える」体制の構築
・より効率的で確実な事務の実現

【EBPM】

○ データの利活用を積極的に進めることで、EBPMを推進し、暗黙知の形式知化、過去解析から将来予測への移行、部分最適から全体最適への転換を目指す

・県民との対話と可視化による県政の実現と効果的な広報の追求
・データヘルス計画の推進による医療費の適正化を実現
・データ活用による観光の振興
・琵琶湖の生産力を最大活用する漁業の推進

【スマート自治体】

○ 「スマート自治体滋賀モデル」を推進し、市町とともにデジタル化を推進し、県全体のデジタル・ガバメントの実現を目指す

・ワンストップ・シームレスな行政手続窓口の提供
・コミュニケーションのデジタル化による更なる自治体間連携の実現
・データ利活用の多分野における展開

産業のDX

【産業・企業】

○ 県内産業における最先端のデジタル技術の活用やデータ利活用を前提としたデジタルシフトおよびDX人材育成を積極的に支援する

・「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」の構築
・新たなビジネスの創出
・デジタル技術による社会的課題の解決
・県内企業のDX推進を担う人材の育成
・安全で魅力的な建設現場の実現
・データ活用による観光の振興

【農林畜水産業】

○ スマート農業などデジタル技術を活用して、担い手が不足する分野における生産性や品質の向上、産地強化を推進し、持続的で魅力ある農林畜水産業の実現を目指す

・スマート農業による持続可能な農業の実現
・ICT技術による森林資源の循環利用の推進
・畜産分野における担い手不足の解消と生産性の向上
・琵琶湖漁業のICT化による漁労の効率化と技術継承

【誰もが利用できる環境の整備】

○ セキュリティ対策やデジタルデバイド対策など、デジタル社会の推進に不可欠な利用環境の整備を行い、誰もが安心・快適、そして豊かな暮らしを楽しめる、「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」の実現を目指す

【資料５】　大阪シティ信用金庫調査結果

アンケート調査結果

２０２０．１２．　９
大阪シティ信用金庫

中小企業のデジタル化への取り組み状況

～　中小企業の７割、デジタル化は「経営課題」
実際に「取り組んでいる」企業は３割に満たず

新型コロナウイルスの流行を背景に、企業ではリモートワークの導入など業務のデジタル化に向けた機運が高まっている。とくに、デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）の進展はさまざまな産業構造の変化につながるものであり、その対応は企業規模を問わず急務となっている。そこで、中小企業におけるデジタル化への取り組み状況はどうか、アンケート調査で探ってみた。

■ 調査時点：2020 年 11 月上旬
■ 調査対象：大阪シティ信用金庫取引先企業（大阪府内）
■ 調査方法：聞き取り法
■ 依頼先数　：　1,400 社
有効回答数　：　1,303 社
有効回答率　：　93.1％
■ 有効回答内訳：下表のとおり

業種＼従業者	5 人未満	5～19 人	20～49 人	50 人以上	計	構成比
製　造　業	134 社	230 社	75 社	21 社	460 社	35.4%
卸　売　業	79	75	15	6	175	13.4%
小　売　業	77	42	3	3	125	9.6%
建　設　業	78	126	20	2	226	17.3%
運　輸　業	12	45	14	15	86	6.6%
サービス業	134	68	19	10	231	17.7%
計	514	586	146	57	1,303	100.0%
構成比	39.4%	45.0%	11.2%	4.4%	100.0%	──

（注）小売業には「飲食店」、サービス業には「不動産業」を含む。

１．デジタル化の重要性認識

はじめに、自社の経営において業務のデジタル化（ＩＴ技術を使い、業務プロセスの高度化や新たなサービスの創造等を実現すること）をどの程度重視しているか、すべての企業に聞いた結果が**第１表**である。

全体でみると、自社業務のデジタル化を「①重要な経営課題」と考えている企業は38.4%である。また、「②経営課題の一つ」と捉えている企業も30.4%あり、これらデジタル化を「経営課題」と認識している企業（①+②）は68.8%とおよそ７割にのぼる。さまざまな分野でデジタル化が加速している昨今、デジタル化への取り組みの重要性を認識している企業は少なくない。一方、「③とくに経営課題ではない」とする企業も31.2%あった。

業種別でみると、「①重要な経営課題」と答えた企業割合は、製造業（45.7%）、卸売業（42.3%）、運輸業（41.9%）で４割を超え、比較的高くなっている。

従業者規模別でみると、「①重要な経営課題」と答えた企業割合は規模が大きくなるほど高く、５人未満では23.5%であるのに対し、50人以上では75.5%と４社に３社を占めており、認識度に大きな差がみられた。

第1表　デジタル化の重要性認識　（%）

区分＼項目		①重要な経営課題	②経営課題の一つ	③経営課題ではない	計	経営課題①+②
業種別	製造業	45.7	28.9	25.4	100.0	74.6
	卸売業	42.3	34.3	23.4	100.0	76.6
	小売業	26.4	24.8	48.8	100.0	51.2
	建設業	27.0	39.4	33.6	100.0	66.4
	運輸業	41.9	26.7	31.4	100.0	68.6
	サービス業	37.6	26.0	36.4	100.0	63.6
規模別	5人未満	23.5	29.6	46.9	100.0	53.1
	5～19人	43.0	32.4	24.6	100.0	75.4
	20～49人	58.3	30.1	11.6	100.0	88.4
	50人以上	75.5	17.5	7.0	100.0	93.0
全体		**38.4**	**30.4**	**31.2**	**100.0**	**68.8**

２．デジタル化の現状

（１）取り組み状況

次に、すべての企業に対し、自社業務のデジタル化への取り組み状況について聞いた結果が**第２表－（１）**である。

全体でみると、「①取り組んでいる」と答えた企業は 28.5％にとどまった。**前項１．**でデジタル化を経営課題と考えている企業（68.8％）はおよそ７割あったが、実際に取り組んでいる企業は３割に満たず、現状では対応の遅れが目立つ結果となった。ただ、「②取り組んでいない」企業でも「(ｱ) 取り組む意向あり」が 38.8％とデジタル化への関心は高く、今後取り組みが進む可能性がある。一方、「(ｲ) 今後も取り組む意向なし」とした企業も 32.7％あり、対応が分かれている。

業種別でみると、「①取り組んでいる」と答えた企業割合は運輸業（31.4％）と製造業（30.5％）で３割を超えている。これに対し、「(ｲ) 今後も取り組む意向なし」と答えた企業割合は、小売業（48.8％）で最も高くなっている。

従業者規模別でみると、「①取り組んでいる」企業割合は規模が大きくなるほど高く、5 人未満では 15.2％であるのに対し、50 人以上では 54.4％と過半となっている。

第２表-（1） 取り組み状況 （％）

区分＼項目		①取り組んでいる	②取り組んでいない	(ｱ)意向あり	(ｲ)意向なし	計	意欲的 ①＋(ｱ)
業種別	製造業	30.5	69.5	41.5	28.0	100.0	72.0
	卸売業	28.6	71.4	45.7	25.7	100.0	74.3
	小売業	22.4	77.6	28.8	48.8	100.0	51.2
	建設業	25.6	74.4	37.2	37.2	100.0	62.8
	運輸業	31.4	68.6	34.9	33.7	100.0	66.3
	サービス業	29.8	70.2	36.4	33.8	100.0	66.2
規模別	5 人未満	15.2	84.8	36.2	48.6	100.0	51.4
	5～19 人	33.6	66.4	40.8	25.6	100.0	74.4
	20～49 人	45.2	54.8	42.5	12.3	100.0	87.7
	50 人以上	54.4	45.6	31.6	14.0	100.0	86.0
全体		**28.5**	**71.5**	**38.8**	**32.7**	**100.0**	**67.3**

（２）取り組む理由

次に、**前項２ー(１)**において自社業務のデジタル化に「取り組んでいる」と答えた企業（全企業の 28.5%、372 社）に対し、デジタル化に取り組む理由について複数回答で聞いた結果が**第２表ー(２)**である。

全体でみると、「①業務の効率化などによる生産性の向上」と答えた企業が 77.0%で最も多い。人手不足が常態化している中小企業では、生産性の向上は喫緊の課題であり、デジタル化は有力な対応策の一つであると思われる。次いで、「②営業力・販売力の強化」(58.9%)、「③人件費などのコスト削減」(56.5%）が５割を超えて多い。以下、「④緊急時対応など事業継続」(34.6%)、「⑤商品・サービスの高付加価値化、開発」(23.0%)が続いている。

業種別でみると、「①生産性の向上」と答えた企業割合は、小売業（42.9%）を除く他の業種で最も高く、製造業（82.9%）とサービス業（81.2%）で８割を超えている。

第2表-(2) 取り組む理由　　（複数回答、%）

区分	項目	①生産性の向上	②営業力等強化	③コスト削減	④事業継続	⑤商品等の高付加価値化
業種別	製造業	① 82.9	55.7	55.0	40.0	24.3
	卸売業	① 77.6	69.4	65.3	38.8	16.3
	小売業	42.9	① 71.4	28.6	10.7	28.6
	建設業	① 75.4	49.1	66.7	36.8	17.5
	運輸業	① 74.1	48.1	66.7	22.2	25.9
	サービス業	① 81.2	65.2	52.2	33.3	26.1
規模別	5 人未満	① 68.8	59.7	45.5	29.9	32.5
	5～19 人	① 76.5	56.1	55.1	31.1	19.9
	20～49 人	① 83.3	59.1	72.7	42.4	12.1
	50 人以上	① 87.1	74.2	58.1	51.6	41.9
全体		**77.0**	**58.9**	**56.5**	**34.6**	**23.0**

（注）表中の「①」は各区分での最高値。

（３）取り組み内容

同じく**前項２－(1)**で、自社業務のデジタル化に「取り組んでいる」と答えた企業（全企業の 28.5%、372 社）に対し、具体的にどのようなデジタル施策に取り組んでいるか、複数回答で聞いた結果が**第２表－(3)**である。

全体でみると、「①オンラインによる営業（商談・取引・販売）」と答えた企業（54.9%）が５割を超え最も多くなっている。次いで、「②キャッシュレス対応」（36.8%）、「③ペーパーレス化」（35.7%）、「④定型業務の自動化（ＲＰＡ等）」（34.3%）がほぼ横並びで続き、以下、「⑤テレワーク（在宅勤務、会議等）」（30.3%）、「⑥ＳＮＳを利用した情報発信、宣伝」（25.1%）、「⑦新商品・サービスの創出」（20.5%）などの順となった。

業種別でみると、「①オンライン営業」と答えた企業割合は、卸売業（75.5%）が７割を超え、とくに高くなっているほか、製造業（57.9%）やサービス業（53.6%）で５割を超えた。また、小売業では「⑥ＳＮＳを利用した情報発信、宣伝」（50.0%）、運輸業では「④定型業務の自動化」（51.9%）が最高となっており、バラツキがみられる。

第2表－(3) 取り組み内容　（複数回答、%）

区分＼項目		①オンライン営業	②キャッシュレス	③ペーパーレス化	④業務の自動化	⑤テレワーク	⑥SNS情報発信	⑦新商品サービス
業種別	製造業	① 57.9	37.1	27.9	35.7	30.0	20.0	17.1
	卸売業	① 75.5	30.6	44.9	32.7	32.7	22.4	24.5
	小売業	42.9	35.7	21.4	28.6	10.7	① 50.0	10.7
	建設業	① 43.9	42.1	42.1	36.8	24.6	15.8	12.3
	運輸業	40.7	29.6	37.0	① 51.9	33.3	14.8	37.0
	サービス業	① 53.6	39.1	44.9	26.1	40.6	39.1	29.0
規模別	5人未満	① 46.8	36.4	36.4	22.1	26.0	32.5	19.5
	5～19人	① 54.8	37.1	33.5	36.5	25.4	24.9	21.3
	20～49人	① 61.5	33.8	47.7	38.5	41.5	16.9	12.3
	50人以上	① 61.3	41.9	22.6	41.9	48.4	25.8	35.5
全体		**54.9**	**36.8**	**35.7**	**34.3**	**30.3**	**25.1**	**20.5**

（注）表中の「①」は各区分での最高値。

（４）取り組まない理由

次に、**前項２－（１)**で、業務のデジタル化について「取り組んでいない」と答えた企業（全企業の 71.5%、931 社）に対し、取り組まない理由を複数回答で聞いた結果が**第２表－(４)**である。

全体でみると、「①適した業務がない」と答えた企業が 39.1%で最も多い。次に「②時間的余裕がない」とする企業が 33.3%で多く、他に優先事項があり手が回らない状況がうかがえる。以下、「③スキルのある人材が不足している」が 28.8%、「④費用負担が大きい」が 23.6%、「⑤セキュリティ面が不安」が 16.1%と続いており、「⑥何から手を付けて良いのかわからない」とした企業も 15.8%あった。

第2表－(4) 取り組まない理由　　（複数回答、%）

区分＼項目		①適した業務がない	②時間的余裕がない	③人材不足	④費用負担が大きい	⑤セキュリティ面不安	⑥何から手を付けて良いのかわからない
業種別	製造業	① 36.3	① 36.3	33.1	25.9	18.0	15.8
	卸売業	36.3	35.3	① 37.3	26.5	23.5	20.6
	小売業	① 46.6	19.3	25.0	29.5	9.1	19.3
	建設業	① 41.8	36.9	21.3	14.2	14.9	11.3
	運輸業	① 44.7	36.2	21.3	17.0	8.5	21.3
	サービス業	① 37.2	29.9	26.3	24.8	15.3	12.4
規模別	5 人未満	① 43.1	27.7	21.8	20.7	13.0	15.2
	5～19 人	35.6	① 36.3	35.6	26.0	19.3	17.5
	20～49 人	37.5	① 51.6	29.7	26.6	17.2	9.4
	50 人以上	27.3	31.8	① 40.9	27.3	18.2	18.2
全体		**39.1**	**33.3**	**28.8**	**23.6**	**16.1**	**15.8**

（注）表中の「①」は各区分での最高値。

３．デジタル化の影響見通し

最後に、デジタル技術で業務やビジネスを変革する「デジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）」の進展が、今後自社に与える影響についてどのように考えているか、すべての企業に聞いた結果が**第３表**である。

全体でみると、「①好影響がある」とする企業はわずか 3.8％である。最も多いのは「②とくに影響なし」と答えた企業で 65.2％と６割を超えている。一方、「③悪影響がある」とした企業は 31.0％で、約３割となった。

急速なデジタル化の進展は、企業間格差が広がるなど既存ビジネスに極めて大きな影響をもたらすといわれており、中小企業においても悪影響の拡大が懸念される。

業種別でみると、「③悪影響がある」と答えた企業割合は、製造業（38.2％）、運輸業（37.2％）、卸売業（33.7％）で比較的高くなる一方、小売業（18.4％）、建設業（21.2％）で低い。

従業者規模別でみると、「③悪影響がある」と答えた企業割合は、規模が大きくなるほど高く、規模間で格差がみられる。すなわち、５人未満（22.2％）で２割程度であるのに対し、50 人以上（50.8％）では半数に及んでいる。

第3表　デジタル化の影響見通し　（％）

区分＼項目		①好影響がある	②とくに影響なし	③悪影響がある	計
業種別	製造業	3.5	58.3	38.2	100.0
	卸売業	5.7	60.6	33.7	100.0
	小売業	5.6	76.0	18.4	100.0
	建設業	2.7	76.1	21.2	100.0
	運輸業	3.5	59.3	37.2	100.0
	サービス業	3.5	68.4	28.1	100.0
規模別	5 人未満	3.7	74.1	22.2	100.0
	5～19 人	3.4	61.4	35.2	100.0
	20～49 人	4.1	58.9	37.0	100.0
	50 人以上	8.8	40.4	50.8	100.0
全体		**3.8**	**65.2**	**31.0**	**100.0**

【資料６】滋賀経済同友会の提言（抽出）

提　言

ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙ・ﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の本質について
～滋賀のグリーン経済を実現するために～

令和３年３月26日

滋賀経済同友会
ＤＸ（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）研究会

目　次

Ⅰ．はじめに　…… 3

Ⅱ．ＤＸとは何か　…… 5
　１．コロナ禍によるデジタル技術導入の流れ
　２．「デジタル技術の導入」の観点から
　３．「トランスフォーメーション」の観点から

Ⅲ．ＤＸによって変化すべき経営発想　…… 13

Ⅳ．提言１「企業（経営者）に向けて」…… 15

Ⅴ．提言２「行政（滋賀県）に向けて」…… 16

あとがき　…… 18

参考．研究会の実施結果　…… 19

Ⅳ．提言１「企業（経営者）に向けて」

これまで述べてきたとおり、ＤＸとは、「単にデジタル技術を導入し、業務効率化やコスト削減を図ることを目的とするだけでなく、新たな価値を創造する」ことである。

また、デジタル技術の導入を速やかに着手する必要はあるが、そのうえで、顧客が求める製品・サービスを創造するとは、デジタル技術の導入状況から新たな価値を見据えることができる経営者の感性に他ならず、これを磨くことがいま必要なのである。

従来の経営発想からパラダイムシフトしていくことにより、次世代型の経営者がもつべき感性が自ずと養われ、企業（経営者）は、ＤＸに着手しやすくなるのである。

これまでの振り返りをもとに企業（経営者）に向けた提言をまとめる。

＜滋賀経済同友会からの提言（企業（経営者）に向けて）＞

◆ デジタル技術を導入するハードルは決して高くなく、デジタル技術を進んで導入していくべき

◆ ＤＸは、単にデジタル技術を導入し、業務効率化やコスト削減を図ることを目的とするだけでなく、経営者の感性によって、新たな価値を創造することであると認識すべき

◆ 経営者の感性とは、鑑識眼、発想力、先見力、直感力、認識力、気づき、見極め、アンテナ、センス（感覚）などを指しており、ＤＸを実現するためには、経営者の感性の他に、柔軟さや寛容さが必要であると認識すべき

◆ 顧客が求める製品・サービスを創造していくためには、従来の経営発想からパラダイムシフトしていくことにより、経営者の感性を磨いていくべき

◆ 滋賀の経営者は、ＤＸを進めて行くうえで、環境先進県の一員として、顧客が求める製品・サービスを創造していくだけでなく、グリーン経済の実現に対しても、トランスフォーメーションに取り組んでいくべき

Ｖ．提言２「行政（滋賀県）に向けて」

これまで、企業（経営者）がＤＸを実現するためにどうすべきかを述べてきたが、ここからは、行政（滋賀県）に向けた提言をまとめていく。

まずは、滋賀県におけるデジタル化の状況について、以下７つ紹介する。

① ＦＴＴＨ[3]サービスの普及率が全国１位

滋賀県は、ＦＴＴＨサービスの普及率が全国１位（２０２０年３月現在末現在）と高速通信回線の普及が全国で最も進んでおり、ＩＣＴやデータを有効に活用できる素地がある。

② 情報科学やデータサイエンスを研究する大学・大学院が県内に集積

滋賀大学、滋賀県立大学、立命館大学、龍谷大学など情報科学やデータサイエンスを研究する大学・大学院も数多く集積しており、今後も滋賀県内で養成されたデジタル人材を地域で定着させ、さらに県外からも人材を呼び込むことも期待できる。

③ 「スマート自治体滋賀モデル研究会」

滋賀県は、書面や押印などにまつわる非効率を是正するために、「スマート自治体滋賀モデル研究会」を立ち上げ、滋賀県と県内１４市町が協働してさまざまな行政サービスをオンラインで行えるシステム構築に向けた取組みを進めている。

④ 「滋賀ＤＸ計画」（仮）に改定

２０１８年に策定した「滋賀県ＩＣＴ推進戦略」を国の動向を踏まえ、「滋賀県ＤＸ計画」（仮）として改定する動きもあり、デジタル技術の導入による社会の姿を描き、県民の暮らしの利便性向上、地域産業の振興、行政業務の効率化、県民サービスの向上のため、さらなるデジタル基盤整備やデジタル人材育成など県の果たすべき役割が定められる予定である。

⑤ 「滋賀県デジタル社会推進本部」の開設

県庁組織の生産性を高め、県民の暮らしをより豊かにするイノベーションを実現するため、中條副知事（ＣＩＯ）をトップとする組織として、「滋賀県デジタル社会推進本部」が今年度開設された。

⑥ 「地域デジタル化連携推進室」の設置

来年度「デジタル庁」創設が計画される中、滋賀県においても国の動きに対応しつつ、市町や企業と連携し、県民サービス・情報提供のデジタル技術の導入をはじめ、地域のデジタル技術の導入を一層推進していくため、情報政策課に「地域デジタル化連携推進室」を来年度設置し、情報政策部門の強化を図る。

[3] Ｆｉｂｅｒ　Ｔｏ　Ｔｈｅ　Ｈｏｍｅの略で、光ファイバーを伝送路として一般個人宅へ直接引き込む、アクセス系光通信の網構成方式。

⑦ 「ＤＸ官民協創サロン」の開設

ＤＸ技術の積極活用に向けて高い専門性を有する民間企業と市町、県内事業者のマッチングプラットフォームとして、「ＤＸ官民協創サロン」を来年度開設する予定である。

企業（経営者）がＤＸを実現しやすくなるよう、行政（滋賀県）が様々な取組みをさらに加速させることで、より豊かな滋賀県を目指していくべきである。

滋賀県のデジタル化の状況をふまえたうえで、行政（滋賀県）に向けた以下の提言とする。

＜滋賀経済同友会からの提言（行政に向けて）＞

◆ **県庁横断的な組織（滋賀県デジタル社会推進本部）を中心に、県庁内各部署との連携を図るだけでなく、産業界との連携を図るとともに、滋賀県が独自に進めるグリーン経済実現を含めた新たな価値創造、いわゆるトランスフォーメーションのための協議会的な組織を設置すべき**

◆ **企業情報、行政情報、研究情報など産官学が連携して情報（データ）を利活用する、デジタルプラットフォーム（仮称：しがデジタルプラットフォーム）を構築すべき**

◆ **県内企業のＤＸ推進に向けた現状や課題に対する認識を共有し、ＤＸに向けたアクションにつなげる気づきの機会を提供するものとして、国の「ＤＸ推進指標[4]」 とは別に、グリーン経済実現の観点を追加した滋賀県独自のＤＸ推進指標（仮称：滋賀ＤＸ推進指標）を設定すべき**

◆ **滋賀県でＤＸを推進するにあたり、デジタル人材の採用・育成、デジタル技術の導入・革新に必要な資金援助や規制緩和など国から必要な支援を受けるための働きかけを行うべき**

[4]本指標は、各企業が簡易な自己診断を行い、経営幹部や事業部門、ＤＸ部門、ＩＴ部門などが現状や課題に対する認識を共有し、次のアクションにつなげる気付きの機会を提供することを目的としたもの。さらに、各企業が他社との比較によって自社の状況を把握することができるよう、各企業の自己診断結果を情報処理推進機構（ＩＰＡ）に提出し、自己診断結果を収集・分析し、全体データとの比較が可能となる。

【資料７】企業を対象とした新学科アンケート調査結果

【企業】滋賀短期大学　デジタルライフビジネス学科（仮称）に関するアンケート

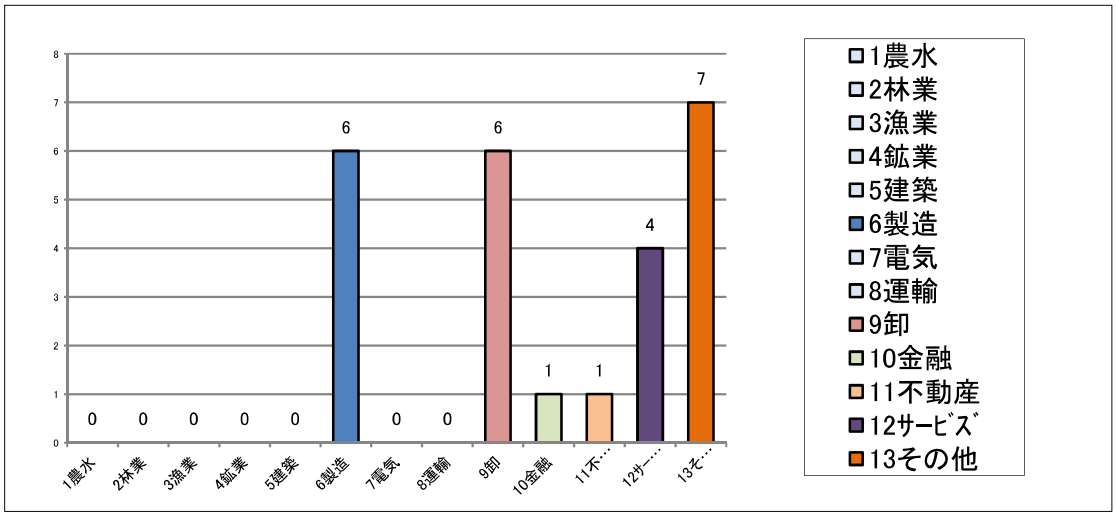
【基本情報】
〇対象企業
　本学で過去3年間に採用実績のある企業（幼稚園・保育園などの事業所は除く）64社に依頼し、25件の回答を得た。
〇実施時期
令和3年7月30日～8月31日

【調査結果概要】
　アンケートでは、新学科の特色の中でもデータサイエンス、デジタルサイエンス分野への関心の高さが示された。また、採用の意向についても「積極的に採用したい」「採用したい」「採用を検討したい」の合計が84%と興味を示している。

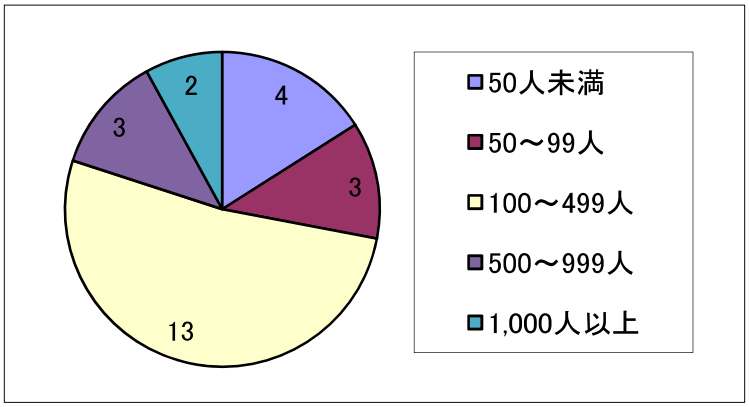
滋賀短期大学新学科設置に関するアンケート 結果詳細

※アンケート回答25社

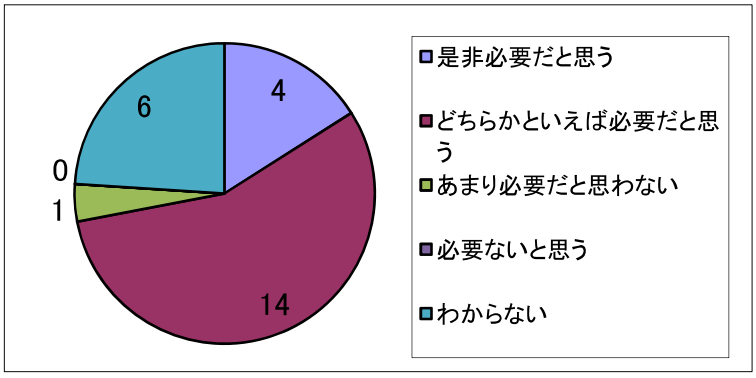
1. 貴社の業種について教えてください。



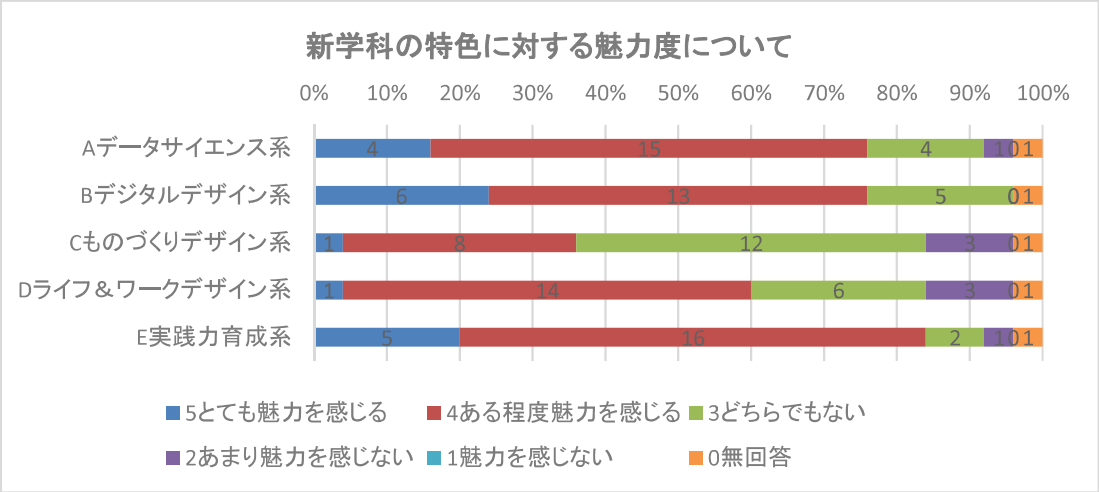
2. 貴社の従業員規模について教えてください。



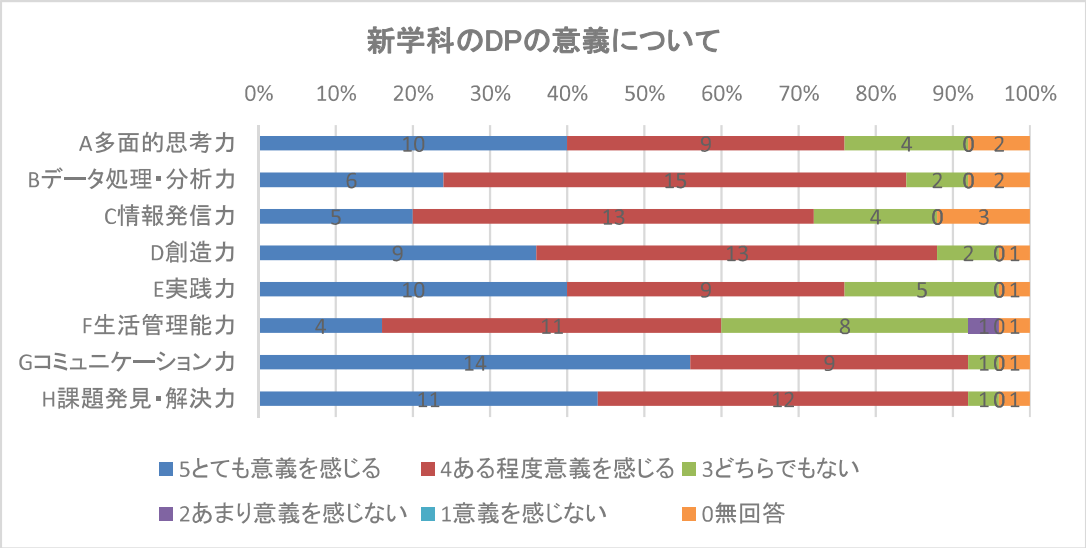
3.「デジタルライフビジネス学科」(仮称)」は必要だと思われますか。



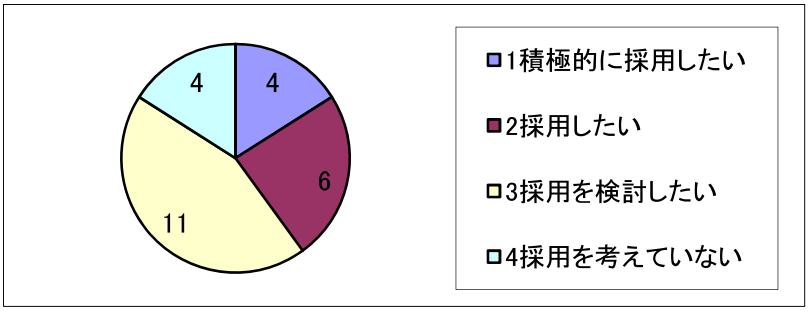
4. 新教育組織「デジタルライフビジネス学科」(仮称)では、次のような特色ある教育を行う予定です。
どの程度魅力を感じられますか。



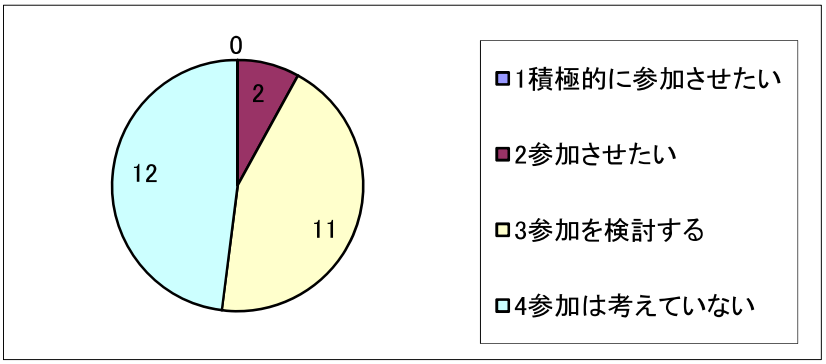
5. 新教育組織「デジタルライフビジネス学科」(仮称)では、次の能力を身につけた学生を輩出する予定です。
これらについて、意義を感じられますか。



6. 滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科」（仮称）が開設された場合、本学科の卒業生を採用することについてどのようにお考えですか。



7. 滋賀短期大学「デジタルライフビジネス学科」（仮称）」において、デジタルライフ、デジタルビジネスに関する公開講座等が開設された場合、貴社の社員教育の一環として講座等に参加させることについて、どのようにお考えですか。



8. 要望を自由にお書き下さい。

・情報システムの管理
・web関連の知識
・これからの時代に必要になってくる学科かもしれません。
・特に意見はございません。どの学科でも介護業界に興味がある方、業界の事を知りたい方がいられましたら是非会社説明会に足を運んでいただければ幸いです。
・人事業務のリクルート関連ではSNS発信やウェブ、映像デザイン力が求められてきています。事務業務においてもビジネス実務のスキル、情報処理能力のある人材を求めていますので学科新設に期待しています。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	アキヤマ　モトヒデ 秋山　元秀 ＜平成30年4月＞		文学修士		学校法人純美禮学園理事長 〈令和3.4～令和6.3〉 滋賀短期大学学長 〈平成30.4～令和6.3〉

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（デジタルライフビジネス学科：以下略称としてDLBとする。）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	特任講師	ｺｳﾑﾗ　ﾘｶ 河村　梨花 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		ファッションクリエイティブ実習Ⅰ ファッションデザイン ファッションクリエイティブ実習Ⅱ カラーコーディネート論 きものコーディネート ハンドメイドデザインⅠ ハンドメイドデザインⅡ ネイルアートデザインⅠ ネイルアートデザインⅡ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 2前 2後 1前 1後	2 2 2 2 2 2 2 1 1 0.4 0.2	2 1 2 1 2 2 2 1 1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平29.4）	5 日
2	専・兼担	特別教授（学科長）	ｵｻﾅｲ　ｺｳｼﾞ 小山内　幸治 ＜令和4年4月＞		教育学修士		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ 地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ データサイエンス入門 データサイエンス応用 データ分析入門	1前 1前 2後 1前 1後 1後 2後 1前 1後 1･2後	0.1 0.1 0.2 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平23.4）	5 日
3	専・兼担	特別教授	ｼﾐｽﾞ　ﾏﾕﾐ 清水　まゆみ ＜令和4年4月＞		博士（農学）		フードライフデザイン（食品と栄養） 生活文化入門※	1後 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平23.4）	5 日
4	専・兼担	教授	ﾅｶﾋﾗ　ﾏﾕﾐ 中平　真由巳 ＜令和4年4月＞		修士（家政学）		生活文化入門※ フードライフデザイン（調理と文化） フードライフ実習Ⅰ フードライフ実習Ⅱ	1前 2前 2前 2後	0.1 2 1 1	1 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授（平16.4）	5 日
5	専・兼担	教授	ｴﾐ　ｶｽﾞｱｷ 江見　和明 ＜令和4年4月＞		修士（経営学）		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ 経営学概論 簿記会計実務Ⅰ アントレプレナー論 マーケティング 地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ	1前 1前 2後 1前 1前 1後 1前 1後 2後	0.1 0.1 0.4 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平23.4）	5 日
6	専・兼担	特任助教	ｼﾐｽﾞ　ﾐｻﾄ 清水　美里 ＜令和4年4月＞		修士（言語文化学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ 日本語表現 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ インターンシップⅠ インターンシップⅡ	1前 1後 1前 1前 1後 1前･休 1後･休	1 1 2 0.4 0.2 1 1	1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 特任助教（令3.4）	5 日
7	兼担	教授	ｻｻｸﾗ　ﾁｶﾋﾛ 笹倉　千佳弘 ＜令和4年4月＞		修士（文学）		生活文化入門※ 子ども社会 教育を考える	1前 1･2前 1･2後	0.1 2 2	1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平30.4）	
8	兼担	教授	ｲｼｲ　ｱｷﾗ 石井　明 ＜令和4年4月＞		専門学校卒		生活文化入門※	1前	0.5	1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平31.4）	
9	兼担	講師	ﾔﾏｵｶ　ﾋﾄﾐ 山岡　ひとみ ＜令和4年4月＞		修士（教育学）		生活文化入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 生活学科 講師 （平26.4）	
10	兼担	助教	ﾊｲﾄｳ　ﾕﾘｺ 灰藤　友理子 ＜令和4年4月＞		学士（家政学）		ラッピング演習 生活文化入門※	2後 1前	1 0.1	1 1	滋賀短期大学 生活学科 助教 （平29.4）	
11	兼担	教授	ｵｷﾔﾏ　ｹｲｺ 沖山　圭子 ＜令和4年4月＞		教育学士		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※	1前 1前	0.4 0.1	1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平29.4）	
12	兼担	教授	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｼ 山中　博史 ＜令和4年4月＞		教育学士		スポーツ実技（テニス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ） キャリア基礎演習※	1前 1前･休 1前･休 1後･休 1前	1 1 1 1 0.1	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科教授 （昭55.4）	
13	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾋﾛﾕｷ 田中　裕之 ＜令和4年4月＞		博士（医学）		現代の健康 ビジネス入門※ キャリア基礎演習※	1･2後 1前 1前	2 0.1 0.1	1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（令3.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
14	兼担	特別准教授	ﾜｶｺｳ　ﾏﾘｺ 若生　眞理子 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ ビジネスマナー	1後 2後 1前･休 1後･休 1前	1 1 1 1 2	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 准教授（平29.4）	
15	兼担	特任准教授	ﾊｷﾞ　ﾋﾛﾐ 萩　寛美 ＜令和4年4月＞		文学士		地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ	1後 2後 1前･休 1後･休	1 1 1 1	1 1 1 1	京都産業大学 専任実学英語講師 (平27.4)	
16	兼担	講師	ｲｻﾞﾜ　ﾘｮｳｽｹ 伊澤　亮介 ＜令和4年4月＞		修士 (文学) (言語文化学)		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1前 1後	0.3 0.1 0.2	1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 講師（令1.10）	
17	兼担	教授 (学長)	ｱｷﾔﾏ　ﾓﾄﾋﾃﾞ 秋山　元秀 ＜令和4年4月＞		文学 修士		近江学入門 国際地理	1･2前 1･2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 教授 (平30.4)	
18	兼担	教授	ｷﾀｵ　ﾀｹｵ 北尾　岳夫 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		子ども理解入門※ スポーツ実技（フィットネス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ）	1前 1前 1前･休 1前･休 1後･休	0.3 1 1 1 1	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平24.4)	
19	兼担	教授	ﾌｶｵ　ﾋﾃﾞｶｽﾞ 深尾　秀一 ＜令和4年4月＞		美術学士 (米国)		美術をみる目 子ども理解入門※	1･2前 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平24.4)	
20	兼担	教授	ﾕﾉｷ　ﾀﾏﾐ 柚木　たまみ ＜令和4年4月＞		芸術学士		音楽とは何か 子ども理解入門※	1･2前 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平17.4)	
21	兼担	特任教授	ﾅｶﾞﾋｻ　ｷﾝﾔ 永久　欣也 ＜令和4年4月＞		修士 (国際関係学)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 特任教授 (平31.4)	
22	兼担	准教授	ｸﾒ　ﾋﾃﾞﾔ 久米　央也 ＜令和4年4月＞		教育学士		数の不思議 子ども理解入門※	1･2後 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平29.4)	
23	兼担	准教授	ﾏﾂｲ　ﾉﾘｺ 松井　典子 ＜令和4年4月＞		Master of Music Studies (豪州)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平29.4)	
24	兼担	准教授	ﾘ（ﾔﾏﾀﾞ）　ｶ 李（山田）　霞 ＜令和4年4月＞		博士 (教育学)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平28.4)	
25	兼担	准教授	ﾐｶﾐ　ﾖｼｺ 三上　佳子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (令2.4)	
26	兼担	准教授	ﾏﾂﾑﾗ　ﾐﾔｺ 松村　都子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子どもの世界	1･2後	2	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平31.4)	
27	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ﾋﾛｱｷ 山本　洋明 ＜令和4年4月＞		学士 (学術)		ウェブデザインⅡ CG演習 マルチメディア演習	2前 1後 2前	2 1 2	1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令3.10)	
28	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ　ﾔｽﾉﾘ 武内　康則 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		ことばと人間	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令2.4)	
29	兼任	講師	ｵｶﾞｻﾜﾗ　ﾋﾛｵ 小笠原　寛夫 ＜令和4年4月＞		学士 (芸術)		コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ プログラミングⅠ ウェブデザインⅠ プログラミングⅡ SNSⅠ SNSⅡ	2前 2前 1後 2後 1後 2前	2 1 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1	㈱デンキトンボ 取締役プログラミングディレクター (平25.3)	
30	兼任	講師	ｶﾐﾑﾗ　ﾕｷ 神村　有紀 ＜令和4年4月＞		修士 (社会学)		心と身体のヘルスケア	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平25.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
31	兼任	講師	ｷﾀ　ｹﾝｲﾁ 北　憲一 ＜令和4年4月＞		経済学士		コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1前	1	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
32	兼任	講師	ｷﾀﾆﾔｽｺ 木谷　康子 ＜令和4年4月＞		家政学 修士		ハウスプランニング 生活学概論 インテリアデザインⅠ（理論） インテリアデザインⅡ（演習）	1後 1後 2前 2後	2 2 2 1	1 1 1 1	滋賀短期大学非常勤講師（平29.4） 平6.4～29.3本学専任教員	
33	兼任	講師	ｼﾉ　ﾅｵｷ 篠　直樹 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令3.4）	
34	兼任	講師	ｼﾊﾞﾀ　ﾋﾃﾞｷ 柴田　秀樹 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平28.4）	
35	兼任	講師	ｽｶﾞﾓﾄ（ﾀﾆｸﾞﾁ）ﾕｳｺ 菅本（谷口）　祐子 ＜令和5年4月＞		MA Fine Art （英国）		デザイン論	2前	1	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
36	兼任	講師	ｽｷﾞ　ﾘﾂｺ 杉　律子 ＜令和5年4月＞		学士 （芸術）		ショップマネジメントⅠ ショップマネジメントⅡ	2前 2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
37	兼任	講師	ﾀｼﾞﾏ　ﾋﾄｼ 田島　等 ＜令和4年4月＞		芸術学士		ファッションマーチャンダイジング	1前	2	1	上田安子服飾専門学校 校長 （平26.4）	
38	兼任	講師	ﾀﾆｵｸ　ｺｳｼﾞ 谷奥　孝司 ＜令和4年4月＞		文学士		ビジネス法規入門 イベントプロデュース論 イベントプロデュースプロジェクト	1前 1後 2前	2 2 1	1 1 1	㈱ミリカ・ミュージック常務取締役 （平26.7）	
39	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ　ｼｹﾞﾄ 早川　滋人 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		心理学	1･2前	2	1	滋賀短期大学非常勤講師（平28.9） 平15.4～28.3本学専任教員	
40	兼任	講師	ﾊﾔｼ　ﾔｽｺ 林　泰子 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		情報処理	1後	2	1	芦屋大学 経営教育学部 准教授 （令2.4）	
41	兼任	講師	ﾑﾗﾀ　ﾋﾛｺ 村田　浩子 ＜令和5年4月＞		学術 修士		染色演習【隔年】	2後	2	1	畿央大学 健康科学部 教授 （平15.4）	
42	兼任	講師	ﾓﾘ　ﾊﾙｺ 森　治子 ＜令和4年4月＞		博士 （家政学）		生活文化論	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平13.4）	
43	兼任	講師	ﾔﾏﾑﾗ　ｻﾄｼ 山村　聡 ＜令和4年4月＞		学士 （共生科学）		健康スポーツ論 スポーツ実技（バレー）	1後 1前	1 1	1 1	株式会社ASOBILITY 代表取締役 （平28.1）	
44	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ﾔｽﾋﾛ 山本　泰弘 ＜令和4年4月＞		法学士		テレビ映像と現代社会	1･2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令3.10）	
45	兼任	講師	ﾘ　ｹｲﾎｳ 李　景芳 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平9.4）	
46	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ｱｷﾋｺ 渡邉　暁彦 ＜令和4年4月＞		修士 （法学）		日本国憲法	1･2前	2	1	滋賀大学 教育学部 教授 （平12.4）	
47	兼任	講師	ﾕｹﾞ　ﾀｶﾋﾛ 弓削　高広 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	1.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（昭63.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
48	兼任	講師	ﾊﾏﾁ　ｼﾝｲﾁ 濱地　紳一 ＜令和5年4月＞		高等学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（平4.3）	
49	兼任	講師	ｶｲｽﾞ　ﾋﾛｶ 海津　比呂可 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（令3.4）	
50	兼任	講師	ﾊﾞﾊﾞ　ﾄﾓﾔ 馬場　知也 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.1	1	びわ湖大津プリンスホテル（平7.4）	
51	兼任	講師	ﾆｼｵ　ｹｲｲﾁﾛｳ 西尾　圭一郎 ＜令和5年4月＞		博士 （商学）		ライフ・ファイナンシャルプランニング	2前	1	1	愛知教育大学 教育学部 准教授 （平27.4）	
52	兼任	講師	ﾅｶﾋﾗ　ﾏﾘｶ 中平　万里歌 ＜令和4年4月＞		学士 （国際英語）		インターネットビジネス SNS起業プロジェクト	1後 2後	2 1	1 1	㈱ソッタス 代表取締役社長 （令3.6）	
53	兼任	講師	ﾜｷﾊﾗ　ﾀﾞｲｽｹ 脇原　大輔 ＜令和5年4月＞		学士 （情報科学）		映像デザインⅠ（実習） 映像デザインⅡ（実習）	2前 2後	1 1	1 1	元　京都造形芸術大学芸術学部 専任講師 （平21.3まで）	
54	兼任	講師	ｻｲﾄｳ　ﾋﾛﾌﾐ 齋藤　浩文 ＜令和5年4月＞		理学修士		情報社会論	2前	2	1	滋賀大学 教育学部 教授 （平10.10）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（生活学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授 （学科長）	ﾅｶﾋﾗ　ﾏﾕﾐ 中平　真由巳 ＜令和4年4月＞		修士 （家政学）		生活文化入門※ フードライフデザイン（調理と文化） フードライフ実習Ⅰ フードライフ実習Ⅱ 調理学 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 地域伝統食実習 世界と地域の食文化 地域食育演習 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 2前 2前 2後 1前 1前 1後 2後 2後 2後 1前 2後	0.1 2 1 1 4 1 1 1 2 2 0.1 0.1	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平16.4）	5 日
2	専	教授	ｻｻｸﾗ　ﾁｶﾋﾛ 笹倉　千佳弘 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		生活文化入門※ 子ども社会 教育を考える 教師論 教育原理 道徳教育論 特別活動論（総合的な学習の時間を含む） 生徒指導論 栄養教諭教育実習 教育実習事前事後指導(栄養教諭)※ 教職実践演習(栄養教諭)※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1･2前 1･2後 1後 1前 2前 2前 2前 2前 1後～2前 2後 1前 2後	0.1 2 2 2 2 1 1 2 1 0.4 1 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平30.4）	5 日
3	専	教授	ｲｼｲ　ｱｷﾗ 石井　明 ＜令和4年4月＞		専門学校卒		生活文化入門※ 製菓専門実習（洋菓子）Ⅱ 製菓専門実習（洋菓子）Ⅲ 製菓専門実習（技術） 製菓応用実習Ⅰ 製菓応用実習Ⅱ マイスター・トレーニング 製菓特別実習 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1後 1後 1前 2前 2後 2前 1後･休 1前 2後	0.5 2 2 2 2 2 1 1 0.3 0.3	1 2 2 2 2 2 1 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平31.4）	5 日
4	専	講師	ﾔﾏｵｶ　ﾋﾄﾐ 山岡　ひとみ ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		生活文化入門※ 食生活論 臨床栄養学 臨床栄養管理学 臨床栄養学実習 臨床栄養管理学実習 給食経営計画管理論 給食経営計画実習 給食経営管理実習 給食経営管理学外実習（栄養士） 給食経営管理学外実習事前事後指導 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1･2前 2前 2後 2前 2後 2前 2前 2後 2前 1後～2前 1前 2後	0.1 2 2 2 1 1 2 2 1 1 1 0.1 0.1	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科講師 （平26.4）	5 日
5	専	助教	ﾊｲﾄｳ　ﾕﾘｺ 灰藤　友理子 ＜令和4年4月＞		学士 （家政学）		生活文化入門※ 栄養教諭教育実習 教育実習事前事後指導(栄養教諭)※ 教職実践演習(栄養教諭)※ 応用栄養学実習 栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習Ⅰ 献立作成演習 学校食育論 ラッピング演習 応用栄養学 地域食育演習 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 2前 1後～2前 2後 2前 1前 1後 1前 1後 2前 2後 1後 2後 1前 2後	0.1 1 0.4 1 1 2 2 1 1 2 1 2 2 0.1 0.1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1	滋賀短期大学 生活学科助教 （平29.4）	5 日
6	専	特別教授	ｼﾐｽﾞ　ﾏﾕﾐ 清水　まゆみ ＜令和4年4月＞		博士 （農学）		生活文化入門※ 食品学総論 基礎栄養学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実験 食品学実験 キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1前 1前･1後 1後 1後 2後 1･2前 1前 2後	0.1 2 4 2 2 2 2 0.3 0.3	1 2 4 1 1 3 3 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平23.4）	5 日
7	兼担	特任講師	ｺｳﾑﾗ　ﾘｶ 河村　梨花 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		カラーコーディネート論	2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平29.4）	
8	兼担	特別教授	ｵｻﾅｲ　ｺｳｼﾞ 小山内　幸治 ＜令和4年4月＞		教育学 修士		ビジネス入門※ 教育の課程と方法 データ分析入門	1前 1後 1･2後	0.1 2 2	1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平23.4）	
9	兼担	教授	ｴﾐ　ｶｽﾞｱｷ 江見　和明 ＜令和4年4月＞		修士 （経営学）		ビジネス入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科教授 （平23.4）	
10	兼担	特任助教	ｼﾐｽﾞ　ﾐｻﾄ 清水　美里 ＜令和4年4月＞		修士 （言語文化学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 特任助教（令3.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
11	兼担	教授	ｵｷﾔﾏ　ｹｲｺ 沖山　圭子 ＜令和4年4月＞		教育学士		ビジネス入門※	1前	0.4	1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平29.4）	
12	兼担	教授	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｼ 山中　博史 ＜令和4年4月＞		教育学士		スポーツ実技（テニス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ）	1前 1前･休 1前･休 1後･休	1 1 1 1	1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（昭55.4）	
13	兼担	教授	ﾀﾅｶ　ﾋﾛﾕｷ 田中　裕之 ＜令和4年4月＞		博士 (医学)		現代の健康 ビジネス入門※ 生理学 解剖生理学 解剖生理学実験	1･2後 1前 1前 1前 2前	2 0.1 2 2 1	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（令3.4）	
14	兼担	特任准教授	ﾊｷﾞ　ﾋﾛﾐ 萩　寛美 ＜令和5年4月＞		文学士		ホスピタリティ論 ブライダル論	2前 2前	2 2	1 1	京都産業大学 専任実学英語講師 (平27.4)	
15	兼担	講師	ｲｻﾞﾜ　ﾘｮｳｽｹ 伊澤　亮介 ＜令和4年4月＞		修士 (文学) (言語文化学)		ビジネス入門※	1前	0.3	1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 講師（令1.10）	
16	兼担	教授 (学長)	ｱｷﾔﾏ　ﾓﾄﾋﾃﾞ 秋山　元秀 ＜令和4年4月＞		文学 修士		近江学入門 国際地理	1･2前 1･2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 教授 (平30.4)	
17	兼担	教授	ｷﾀｵ　ﾀｹｵ 北尾　岳夫 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		子ども理解入門※ スポーツ実技（フィットネス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ）	1前 1前 1前･休 1前･休 1後･休	0.3 1 1 1 1	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平24.4)	
18	兼担	教授	ﾌｶｵ　ﾋﾃﾞｶｽﾞ 深尾　秀一 ＜令和4年4月＞		美術学士 (米国)		美術をみる目 子ども理解入門※	1前 1･2前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平24.4)	
19	兼担	教授	ﾕﾉｷ　ﾀﾏﾐ 柚木　たまみ ＜令和4年4月＞		芸術学士		音楽とは何か 子ども理解入門※	1･2前 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 (平17.4)	
20	兼担	特任教授	ﾅｶﾞﾋｻ　ｷﾝﾔ 永久　欣也 ＜令和4年4月＞		修士 (国際関係学)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 特任教授 (平31.4)	
21	兼担	准教授	ｸﾒ　ﾋﾃﾞﾔ 久米　央也 ＜令和4年4月＞		教育学士		数の不思議 子ども理解入門※	1･2後 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平29.4)	
22	兼担	准教授	ﾏﾂｲ　ﾉﾘｺ 松井　典子 ＜令和4年4月＞		Master of Music Studies (豪州)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平29.4)	
23	兼担	准教授	ﾘ（ﾔﾏﾀﾞ）　ｶ 李（山田）　霞 ＜令和4年4月＞		博士 (教育学)		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平28.4)	
24	兼担	准教授	ﾐｶﾐ　ﾖｼｺ 三上　佳子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (令2.4)	
25	兼担	准教授	ﾏﾂﾑﾗ　ﾐﾔｺ 松村　都子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子どもの世界	1･2後	2	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 (平31.4)	
26	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ　ﾔｽﾉﾘ 武内　康則 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		ことばと人間	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令2.4)	
27	兼任	講師	ｵｶﾞｻﾜﾗ　ﾋﾛｵ 小笠原　寛夫 ＜令和4年4月＞		学士 (芸術)		情報処理基礎Ⅰ 情報処理基礎Ⅱ	1･2前 1･2後	2 2	2 2	㈱デンキトンボ 取締役プログラミングディレクター (平25.3)	
28	兼任	講師	ｶﾐﾑﾗ　ﾕｷ 神村　有紀 ＜令和4年4月＞		修士 (社会学)		心と身体のヘルスケア	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平25.4)	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
29	兼任	講師	ｷﾀﾆﾔｽｺ 木谷　康子 ＜令和4年4月＞		家政学修士		生活学概論	1･2後	2	1	滋賀短期大学非常勤講師（平29.4） 平6.4～29.3本学専任教員	
30	兼任	講師	ｼﾉ　ﾅｵｷ 篠　直樹 ＜令和4年4月＞		修士(文学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	滋賀短期大学非常勤講師（令3.4）	
31	兼任	講師	ｼﾊﾞﾀ　ﾋﾃﾞｷ 柴田　秀樹 ＜令和4年4月＞		修士(文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学非常勤講師（平28.4）	
32	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ　ｼｹﾞﾄ 早川　滋人 ＜令和4年4月＞		修士(文学)		心理学 教育心理学	1･2前 1前	2 2	1 1	滋賀短期大学非常勤講師（平28.9） 平15.4～28.3本学専任教員	
33	兼任	講師	ﾓﾘ　ﾊﾙｺ 森　治子 ＜令和4年4月＞		博士(家政学)		生活文化論	1･2前	2	1	滋賀短期大学非常勤講師（平13.4）	
34	兼任	講師	ﾔﾏﾑﾗ　ｻﾄｼ 山村　聡 ＜令和4年4月＞		学士(共生科学)		健康スポーツ論 スポーツ実技（バレー）	1後 1前	1 1	1 1	株式会社ASOBILITY代表取締役（平28.1）	
35	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ﾔｽﾋﾛ 山本　泰弘 ＜令和4年4月＞		法学士		テレビ映像と現代社会	1･2後	2	1	滋賀短期大学非常勤講師（令3.10）	
36	兼任	講師	ﾘ　ｹｲﾎｳ 李　景芳 ＜令和4年4月＞		修士(文学)		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学非常勤講師（平9.4）	
37	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ　ｱｷﾋｺ 渡邉　暁彦 ＜令和4年4月＞		修士(法学)		日本国憲法	1･2前	2	1	滋賀大学教育学部教授（平12.4）	
38	兼任	講師	ﾕｹﾞ　ﾀｶﾋﾛ 弓削　高広 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	1.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（昭63.4）	
39	兼任	講師	ﾊﾏﾁ　ｼﾝｲﾁ 濱地　紳一 ＜令和5年4月＞		高等学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（平4.3）	
40	兼任	講師	ｶｲｽﾞ　ﾋﾛｶ 海津　比呂可 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（令3.4）	
41	兼任	講師	ﾊﾞﾊﾞ　ﾄﾓﾔ 馬場　知也 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.1	1	びわ湖大津プリンスホテル（平7.4）	
42	兼任	講師	ﾔｼﾞﾏ ｻﾄｼ 矢嶋　聡 ＜令和4年4月＞		修士(経営管理)		マーケティング論	1後	2	1	兵庫県立大学大学院准教授（令2.4）	
43	兼任	講師	ﾉﾀﾞ　ﾄｼｵ 野田　敏夫 ＜令和4年4月＞		経済学士		製菓理論（和菓子） 菓子と食生活	1前 1後	2 2	2 1	滋賀短期大学非常勤講師（平17.4）	
44	兼任	講師	ｲﾉｳｴ　ﾀｹﾋｺ 井上　剛彦 ＜令和4年4月＞		農学士		食品衛生学Ⅱ 食品衛生学Ⅲ 食品衛生学実験	1前 1後 1･2後	2 2 2	1 1 2	滋賀短期大学非常勤講師（平29.10）	
45	兼任	講師	ｲﾏｲ　ﾕｳｽｹ 今井　悠輔 ＜令和4年4月＞		専門学校卒		製パン理論 製菓基礎実習（製パン） 製菓専門実習（製パン）	1前 1前 1後	2 2 2	1 2 2	㈱クラブハリエ ジェブリルタン（平23.2）	
46	兼任	講師	ｶﾜﾁ　ｱｷｺ 河地　章子 ＜令和4年4月＞		経営学士		製菓基礎実習（和菓子）	1前	2	2	滋賀短期大学非常勤講師（平23.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
47	兼任	講師	ﾏｴﾀﾞ ｼｮｳｿﾞｳ 前田　省三 ＜令和4年4月＞		高等学校卒		製菓基礎実習（洋菓子） 製菓専門実習（洋菓子）Ⅰ	1前 1後	2 2	2 2	㈱パレット 代表取締役 (昭61.10)	
48	兼任	講師	ﾏｽﾀﾞ ｴﾐ 増田　絵美 ＜令和4年4月＞		学士（農学）		製菓理論（洋菓子） 製菓理論（総合）	1前 1後	2 2	1 1	近畿製粉㈱ (平18.4)	
49	兼任	講師	ﾏﾂﾀﾞ ﾖｳｺ 松田　陽子 ＜令和4年4月＞		家政学士		栄養教育論実習Ⅱ	1後	1	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平22.4)	
50	兼任	講師	ﾔﾏﾅｶ ﾁｶﾔ 山中　千佳也 ＜令和5年4月＞		家政学士		公衆栄養学	2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令1.10)	
51	兼任	講師	ﾖｼｵｶ ﾄｼﾋｺ 吉岡　敏彦 ＜令和4年4月＞		薬学士		食品衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅰ	1前 1後	2 2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平26.4)	
52	兼任	講師	ｼﾏﾀﾞ ｲｸｿﾞｳ 島田　伊久三 ＜令和4年4月＞		薬学士		食品衛生学Ⅰ	1後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令2.10)	
53	兼任	講師	ﾊﾔｼ ﾋﾛｶｽﾞ 林　　宏一 ＜令和4年4月＞		獣医学士		公衆衛生学Ⅰ 公衆衛生学Ⅱ 衛生法規	1前 1後 1前	2 2 2	1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令3.4)	
54	兼任	講師	ﾐｳﾗｻﾂｷ 三浦　さつき ＜令和4年4月＞		修士 (生活環境学)		食品学各論	1･2後	4	2	滋賀短期大学 非常勤講師 (平30.4)	
55	兼任	講師	ｳﾀﾞｶﾞﾜ ｼﾞｭﾝ 宇田川　潤 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		解剖生理学実験	2前	0.3	1	滋賀医科大学 医学部 教授 (平23.4)	
56	兼任	講師	ｳﾁﾑﾗ ﾔｽﾋﾛ 内村　康寛 ＜令和5年4月＞		博士 (医学)		解剖生理学実験	2前	0.4	1	滋賀医科大学 医学部 助教 (平29.4)	
57	兼任	講師	ﾊﾏｸﾞﾁ ﾐﾔｺ 濱口　美弥子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		教育実習事前事後指導(栄養教諭)※	1後～2前	0.2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平29.10)	
58	兼任	講師	ｵｵﾀ ﾋﾛﾂｸﾞ 太田　容次 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育	2前	1	1	京都ノートルダム女子大学 現代人間学部准教授 (平29.4)	
59	兼任	講師	ｼﾀﾞ ﾉｿﾞﾑ 志田　望 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		教育相談	2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 (平29.10)	
60	兼任	講師	ｽｷﾞ ﾘﾂｺ 杉　律子 ＜令和5年4月＞		学士 (芸術)		ショップマネジメントⅠ ショップマネジメントⅡ	2前 2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 (令2.4)	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（ビジネスコミュニケーション学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専任	教授 (学科長)	ｵｷﾔﾏ　ｹｲｺ 沖山　圭子 ＜令和4年4月＞		教育学士		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ 情報システム概論 医療関係法規 医療保険事務Ⅰ 医療保険事務Ⅱ 医療保険事務Ⅲ 医療保険事務Ⅳ 医療事務コンピュータ 電子カルテ演習 医療秘書学 医療秘書実務 実技演習 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ	1前 1前 1後 2後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 1前 2前 2前･休 1後 2前	0.4 0.1 2 2 2 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平29.4）	5　日
2	専任	教授	ﾔﾏﾅｶ　ﾋﾛｼ 山中　博史 ＜令和4年4月＞		教育学士		スポーツ実技（テニス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ） キャリア基礎演習※ 教養基礎 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ	1前 1前･休 1前･休 1後･休 1前 1後 1後 2前	1 1 1 1 0.1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（昭55.4）	5　日
3	専任	教授	ﾀﾅｶ　ﾋﾛﾕｷ 田中　裕之 ＜令和4年4月＞		博士 (医学)		現代の健康 ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ からだの構造と機能 健康と疾病 臨床検査と薬の知識 医療用語 実技演習	1･2後 1前 1前 1後 2前 1前 1後 1後 2前 2前･休	2 0.1 0.1 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（令3.4）	5　日
4	専任	特別准教授	ﾜｺｳ　ﾏﾘｺ 若生　眞理子 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 教養基礎 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ コミュニケーション論 オフィス総論 プレゼンテーション演習 総合実践論 医療秘書実務 秘書実務Ⅰ 秘書実務Ⅱ	1後 2後 1前･休 1後･休 1後 1後 2前 2後 1前 2前 2後 2前 1前 1後	1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 准教授（平29.4）	5日
5	専任	特任准教授	ﾊｷﾞ　ﾋﾛﾐ 蓡　寛美 ＜令和4年4月＞		文学士		地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ インターンシップⅠ インターンシップⅡ 教養基礎 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ ホスピタリティ論 ホテル業務概論 ブライダル論 ホテル業務演習 ホテルマネジメント論 観光学特講Ⅰ 観光学特講Ⅱ	1後 2後 1前･休 1後･休 1後 1後 2前 2前 1後 2前 2後 2前 1後 2前	1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都産業大学 専任実学英語講師 (平27.4)	5日
6	専任	講師	ｲｻﾞﾜ　ﾘｮｳｽｹ 伊澤　亮介 ＜令和4年4月＞		修士 (文学) (言語文化学)		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ 教養基礎 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ 公務員演習Ⅱ ＴＯＥＩＣⅠ ＴＯＥＩＣⅡ ＴＯＥＩＣⅢ ビジネス基礎	1前 1前 1後 1後 1後 2前 1後 1前 1後 2前 1前	0.3 0.1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 講師（令1.10）	5　日
7	専	教授	ｴﾐ　ｶｽﾞｱｷ 江見　和明 ＜令和4年4月＞		修士 (経営学)		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ 経営学概論 簿記会計実務Ⅰ 地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ 教養基礎 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ マーケティング論 地域ビジネス論 事務管理 地域づくり論 ビジネス基礎	1前 1前 2後 1前 1前 1後 2後 1後 1後 2前 2前 1後 2前 2後 1前	0.1 0.1 0.4 2 4 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平23.4）	5　日

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務従事週当たり平均日数
8	専	特任助教	ｼﾐｽﾞ　ﾐｻﾄ 清水　美里 ＜令和4年4月＞		修士 （言語文化学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ 日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ ビジネス日本語 インターンシップⅠ インターンシップⅡ	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 1前･休 1後･休	1 1 0.4 0.2 8 8 2 1 1	1 1 1 1 4 4 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 特任助教（令3.4）	5 日
9	専	特別教授	ｵｻﾅｲ　ｺｳｼﾞ 小山内　幸治 ＜令和4年4月＞		教育学 修士		ビジネス入門※ キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※ コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅰ コンピュータリテラシー（データ処理）Ⅱ 地域貢献演習Ⅰ 地域貢献演習Ⅱ 教養基礎 データベース演習 特別演習Ⅰ 特別演習Ⅱ	1前 1前 2後 1前 1後 1後 2後 1後 2後 1後 2前 1･2後	0.1 0.1 0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	滋賀短期大学 ビジネスコミュニケーション学科 教授（平23.4）	5 日
10	兼担	特任講師	ｺｳﾑﾗ　ﾘｶ 河村　梨花 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		キャリア基礎演習※ キャリアデザイン演習※	1前 1後	0.4 0.2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平29.4）	
11	兼担	教授	ﾅｶﾋﾗ　ﾏﾕﾐ 中平　真由巳 ＜令和4年4月＞		修士 （家政学）		生活文化入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平16.4）	
12	兼担	教授	ｻｻｸﾗ　ﾁｶﾋﾛ 笹倉　千佳弘 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		生活文化入門※ 子ども社会 教育を考える	1前 1･2前 1･2後	0.1 2 2	1 1 1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平30.4）	
13	兼担	教授	ｲｼｲ　ｱｷﾗ 石井　明 ＜令和4年4月＞		専門学校卒		生活文化入門※	1前	0.5	1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平31.4）	
14	兼担	講師	ﾔﾏｵｶ　ﾋﾄﾐ 山岡　ひとみ ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		生活文化入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 生活学科 講師 （平26.4）	
15	兼担	助教	ﾊｲﾄｳ　ﾕﾘｺ 灰藤　友理子 ＜令和4年4月＞		学士 （家政学）		生活文化入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 生活学科 助教 （平29.4）	
16	兼担	特別教授	ｼﾐｽﾞ　ﾏﾕﾐ 清水　まゆみ ＜令和4年4月＞		博士 （農学）		生活文化入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 生活学科 教授 （平23.4）	
17	兼担	教授 （学長）	ｱｷﾔﾏ　ﾓﾄﾋﾃﾞ 秋山　元秀 ＜令和4年4月＞		文学 修士		近江学入門 国際地理	1･2前 1･2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 教授 （平30.4）	
18	兼担	教授	ｷﾀｵ　ﾀｹｵ 北尾　岳夫 ＜令和4年4月＞		修士 （体育学）		子ども理解入門※ スポーツ実技（フィットネス） スポーツ実技（ボウリング＆ゴルフ） スポーツ実技（キャンプ） スポーツ実技（スノースポーツ）	1前 1前 1前･休 1前･休 1後･休	0.3 1 1 1 1	1 1 1 1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 （平24.4）	
19	兼担	教授	ﾌｶｵ　ﾋﾃﾞｶｽﾞ 深尾　秀一 ＜令和4年4月＞		美術学士 （米国）		美術をみる目 子ども理解入門※	1･2前 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 （平24.4）	
20	兼担	教授	ﾕﾉｷ　ﾀﾏﾐ 柚木　たまみ ＜令和4年4月＞		芸術学士		音楽とは何か 子ども理解入門※	1･2前 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 教授 （平17.4）	
21	兼担	特任教授	ﾅｶﾞﾋｻ　ｷﾝﾔ 永久　欣也 ＜令和4年4月＞		修士 （国際関係学）		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 特任教授 （平31.4）	
22	兼担	准教授	ｸﾒ　ﾋﾃﾞﾔ 久米　央也 ＜令和4年4月＞		教育学士		数の不思議 子ども理解入門※	1･2後 1前	2 0.1	1 1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 （平29.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務従事週当たり平均日数
23	兼担	准教授	ﾏﾂｲ　ﾉﾘｺ 松井　典子 ＜令和4年4月＞		Master of Music Studies（豪州）		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 （平29.4）	
24	兼担	准教授	ﾘ（ﾔﾏﾀﾞ）　ｶ 李（山田）　霞 ＜令和4年4月＞		博士（教育学）		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 （平28.4）	
25	兼担	准教授	ﾐｶﾐ　ﾖｼｺ 三上　佳子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子ども理解入門※	1前	0.1	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 （令2.4）	
26	兼担	准教授	ﾏﾂﾑﾗ　ﾐﾔｺ 松村　都子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		子どもの世界	1･2後	2	1	滋賀短期大学 幼児教育保育学科 准教授 （平31.4）	
27	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ　ﾋﾛｱｷ 山本　洋明 ＜令和4年4月＞		学士（学術）		ウェブデザインⅡ ＣＧ演習 マルチメディア演習	2前 1後 2前	2 1 2	1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令3.10）	
28	兼任	講師	ﾀｹｳﾁ　ﾔｽﾉﾘ 武内　康則 ＜令和4年4月＞		博士（文学）		ことばと人間	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
29	兼任	講師	ｵｶﾞｻﾜﾗ　ﾋﾛｵ 小笠原　寛夫 ＜令和4年4月＞		学士（芸術）		コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅱ プログラミングⅠ ウェブデザインⅠ プログラミングⅡ	2前 2前 1後 2後	2 1 2 1	2 1 1 1	㈱デンキトンボ 取締役プログラミングディレクター （平25.3）	
30	兼任	講師	ｶﾐﾑﾗ　ﾕｷ 神村　有紀 ＜令和4年4月＞		修士（社会学）		心と身体のヘルスケア	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平25.4）	
31	兼任	講師	ｷﾀ　ｹﾝｲﾁ 北　憲一 ＜令和4年4月＞		経済学士		コンピュータリテラシー（情報表現）Ⅰ	1前	2	2	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
32	兼任	講師	ｼﾉ　ﾅｵｷ 篠　直樹 ＜令和4年4月＞		修士（文学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令3.4）	
33	兼任	講師	ｳﾁﾀﾞ　ﾕｷｮ 内田　幸代 ＜令和4年4月＞		修士（言語教育情報学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	1前 1後 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平27.10）	
34	兼任	講師	ｼﾊﾞﾀ　ﾋﾃﾞｷ 柴田　秀樹 ＜令和4年4月＞		修士（文学）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平28.4）	
35	兼任	講師	ｽｶﾞﾓﾄ（ﾀﾆｸﾞﾁ）ﾕｳｺ 菅本（谷口）　祐子 ＜令和5年4月＞		MA Fine Art（英国）		デザイン論 ウェブデザイン演習	2前 2後	1 2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
36	兼任	講師	ｽｷﾞ　ﾘﾂｺ 杉　律子 ＜令和4年4月＞		学士（芸術）		ショップマネジメントⅠ ショップマネジメントⅡ 販売管理論	2前 2後 1後	2 2 2	1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令2.4）	
37	兼任	講師	ﾀﾆｵｸ　ｺｳｼﾞ 谷奥　孝司 ＜令和4年4月＞		文学士		ビジネス法規入門 イベントプロデュース実習	1前 1後	2 1	1 1	㈱ミリカ・ミュージック常務取締役 （平26.7）	
38	兼任	講師	ﾊﾔｶﾜ　ｼｹﾞﾄ 早川　滋人 ＜令和4年4月＞		修士（文学）		心理学 心理学概論	1･2前 1後	2 2	1 1	滋賀短期大学非常勤講師（平28.9） 平15.4～28.3本学専任教員	
39	兼任	講師	ﾊﾔｼ　ﾔｽｺ 林　泰子 ＜令和4年4月＞		修士（教育学）		情報処理	1後	2	1	芦屋大学 経営教育学部 准教授 （令2.4）	
40	兼任	講師	ﾓﾘ　ﾊﾙｺ 森　治子 ＜令和4年4月＞		博士（家政学）		生活文化論	1･2前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平13.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
41	兼任	講師	ﾔﾏﾑﾗ ｻﾄｼ 山村　聡 ＜令和4年4月＞		学士 （共生科学）		健康スポーツ論 スポーツ実技（バレー）	1後 1前	1 1	1 1	㈱ASOBILITY 代表取締役 （平28.1）	
42	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾔｽﾋﾛ 山本　泰弘 ＜令和4年4月＞		法学士		テレビ映像と現代社会	1･2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令3.10）	
43	兼任	講師	ﾘ ｹｲﾎｳ 李　景芳 ＜令和4年4月＞		修士 （文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平9.4）	
44	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｱｷﾋｺ 渡邉　暁彦 ＜令和4年4月＞		修士 （法学）		日本国憲法	1･2前	2	1	滋賀大学 教育学部 教授 （平12.4）	
45	兼任	講師	ﾕｹﾞ ﾀｶﾋﾛ 弓削　高広 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	1.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（昭63.4）	
46	兼任	講師	ﾊﾏﾁ ｼﾝｲﾁ 濱地　紳一 ＜令和5年4月＞		高等学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（平4.3）	
47	兼任	講師	ｶｲｽﾞ ﾋﾛｶ 海津　比呂可 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.3	1	びわ湖大津プリンスホテル（令3.4）	
48	兼任	講師	ﾊﾞﾊﾞ ﾄﾓﾔ 馬場　知也 ＜令和5年4月＞		専門学校卒		フードコーディネート論※	2前	0.1	1	びわ湖大津プリンスホテル（平7.4）	
49	兼任	講師	ｺﾔﾏ ﾐﾂｵ 小山　三亀雄 ＜令和4年4月＞		経営学士		簿記会計実務Ⅰ 簿記会計実務Ⅱ 工業簿記	1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平25.10）	
50	兼任	講師	ﾔｼﾞﾏ ｻﾄｼ 矢嶋　　聡 ＜令和4年4月＞		修士 （経営管理）		簿記会計実務Ⅰ 簿記会計実務Ⅱ 簿記会計演習 経営学特講Ⅰ 経営学特講Ⅱ 経営学演習	1前 1前 1後 1後 2前 2前	2 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	兵庫県立大学 大学院 准教授 （令2.4）	
51	兼任	講師	ﾑﾗﾀ ﾕｳｼﾞ 村田　有司 ＜令和4年4月＞		経営学士		観光学 観光概論 国内地理	1前 1後 1前	2 2 2	1 1 1	元　日本春秋旅行㈱ 大阪支店長 （平28.1まで）	
52	兼任	講師	ｶｷｳﾁﾐﾜｺ 垣内　美和子 ＜令和4年4月＞		短期大学卒		医療事務総論	1前	2	1	㈱ソラスト 講師 （平11.9）	
53	兼任	講師	ﾊﾗﾀﾞ ﾅｵｺ 原田　直子 ＜令和5年4月＞		家政学士		手話	2後	1	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令1.4）	
54	兼任	講師	ﾇﾏｸﾞﾁ ﾄﾓﾉﾘ 沼口　智則 ＜令和5年4月＞		法学修士		現代社会論	2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （昭58.4）	
55	兼任	講師	ﾏﾂﾀﾞ ﾜｺﾄ 松田　和郎 ＜令和5年4月＞		博士 （医学）		患者論と医の倫理	2前	2	1	京都ゆうゆうの里診療所 （平30.5）	
56	兼任	講師	ﾐｳﾗｻﾂｷ 三浦　さつき ＜令和4年4月＞		修士 （生活環境学）		栄養学	1前	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平30.4）	
57	兼任	講師	ｵｶﾓﾄ ﾖｼﾅﾘ 岡本　芳也 ＜令和5年4月＞		修士 （社会福祉学）		地域福祉	2後	2	1	滋賀短期大学 非常勤講師 （平15.4）	

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学の職務に従事する週当たり平均日数
58	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ ﾐﾕｷ 吉田　みゆき ＜令和4年4月＞		短期大学卒		秘書実務Ⅰ 秘書実務Ⅱ	1前 1後	2 2	2 2	滋賀短期大学 非常勤講師 （平9.4）	
59	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾏｻｵ 長谷川　正雄 ＜令和4年4月＞		文学士		公務員特講Ⅰ 公務員特講Ⅱ 公務員演習Ⅰ	1前 1後 1前	1 1 1	1 1 1	東京アカデミー （平21.10）	
60	兼任	講師	ﾄｳﾄﾞｳ ﾀｶｼ 藤堂　隆司 ＜令和5年4月＞		経営学士		医療情報学 医療経営学	2後 2後	2 2	1 1	滋賀短期大学 非常勤講師 （令1.10）	
61	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾋｻｼ 佐藤　　尚 ＜令和4年4月＞		学士 （社会福祉学）		産業車両演習	1後	1	1	㈱瀬田月輪自動車教習所 （平10.3）	
62	兼任	講師	ﾊﾞﾝﾊﾞ ｶﾂﾐ 馬場　克巳 ＜令和4年4月＞		文学士		安全運転管理	1前	1	1	㈱瀬田月輪自動車教習所 （昭63.3）	
63	兼任	講師	ﾂﾂﾐ ﾋﾛｼ 堤　　洋 ＜令和4年4月＞		学士 （文学）		安全運転管理	1前	1	1	㈱瀬田月輪自動車教習所 （平6.5）	
64	兼任	講師	ﾋﾗﾀ ｼﾝﾔ 平田　進也 ＜令和4年4月＞		文学士		おもしろ観光ツアー演習	1･2前	1	1	㈱日本旅行 （昭55.4）	
65	兼任	講師	ｷﾀﾉ ﾕｳｼﾞ 北野　友士 ＜令和4年4月＞		博士 （商学）		経済学概論 経済学特講Ⅰ 経済学特講Ⅱ 経済学演習	1前 1後 2前 2前	2 1 1 1	1 1 1 1	大阪市立大学商学部・経営学研究科 准教授 （令2.4）	

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

デジタルライフビジネス学科　専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	人	人	人	1 人	人	1 人	
	修　士	人	人	人	2 人	人	1 人	人	3 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	1 人	人	人	人	人	人	人	1 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	人	人	人	1 人	人	1 人	
	修　士	1 人	人	人	2 人	人	1 人	人	4 人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	1 人	人	人	人	人	1 人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にそ記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

（デジタルライフビジネス学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	採用根拠等
2	専 ・ 兼担	特別教授 (学科長)	ｵｻﾅｲ　ｺｳｼﾞ 小山内　幸治 ＜令和4年4月＞	65 (高)	滋賀短期大学定年退職者の再雇用に関する取扱い要綱により特別教授としての就任を理事長が承認した（R3.9.1）。
3	専 ・ 兼担	特別教授	ｼﾐｽﾞ　ﾏﾕﾐ 清水　まゆみ ＜令和4年4月＞	65 (高)	滋賀短期大学定年退職者の再雇用に関する取扱い要綱により特別教授としての就任を理事長が承認した（R3.9.1）。

附帯事項等への対応を記載した書類

滋賀短期大学

１．附帯事項（遵守事項）

学科連係課程実施学科名称の「デジタルライフビジネス」に関し、「デジタル」「ライフ」「ビジネス」の関係性を明確にするとともに、学位に付記する専攻分野の名称である生活ビジネス学の定義及び教育課程との整合性を明確にした上で届出を行うこと。

【学科名称について】

学科名称の「ライフ」は生活学科の特性を継承するものであり、「ビジネス」はビジネスコミュニケーション学科の特性を継承するものである。それらを「デジタル」という概念で結びつけ、相互に関連させながら、新時代の生活およびビジネスの場で実際に活用できる能力を身につけさせようとすることが学科の教育目的である。

連係課程としての３つのキーワードである「デジタル」「ライフ」「ビジネス」の間の有機的な関連については以下のとおりである。

本学科の学生は、全員が生活学概論などの生活基礎の科目と、経営学概論などのビジネス基礎の科目を履修し、生活学とビジネス学に関する基礎を身につける。そのうえで、アイディアやデザインを実際の「モノ」に作り上げる力を身につけるために「ものづくりデザイン分野」の科目（具体的にはファッションデザイン、ファッションクリエイティブ演習など）を学ぶ。

これらは、これまでの生活学科（ライフ）の開設科目を継承している。

また、アイディアをデジタル上に実現するのに必要な力を身につけるために「デジタルデザイン分野」の科目（ウェブデザインⅠ、ウェブデザイン演習、CG 演習など）を学ぶ。これらは、これまでのビジネスコミュニケーション学科（ビジネス）の開設科目を継承している。

さらに、これら 2 つの分野の学びを統合することにより、インターネット上に自らが作成した作品や製品、企画に関する情報発信を行うことができるようになり、それらをビジネス化することも可能となる。また、このような能力は、一般企業のビジネスの現場でも必要とされるものである。これらの力をつけるための「実践力育成分野」の科目（SNS 起業プロジェクト、インターネットビジネスなど）が設置されている。

Society5.0 では、データを統合化し、AI や IoT が生活やビジネスの現場に溶け込んでいる社会になるといわれている。生活やビジネスの場においても、よりデータが重要視されるようになるであろう。このような情況からデータの収集、処理、分析、活用の基礎的知識を身につけ、生活の意思決定や企業の DX などの課題解決に活かしていけるような知識を身につける必要がある。これに対応して「データサイエンス分野」の科目（データサイエンス入門、データサイエンス応用など）が設置されている。

さらに、新しい社会は、生活や仕事の内容を大きく変えるといわれており、新しい時代の生活や仕事について考える「ライフ&ワークデザイン分野」の科目（ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザイン演習など）が設置されている。

以上のように、本学科は、データサイエンスとデジタルデザインを象徴する「デジタル」と、ものづくりやライフ&ワークデザインを象徴する「ライフ」、起業や簿記、経営学などを象徴する「ビジネス」の三者が有機的に結合している。学生に新しい時代の生活やビジネスの場で、生き抜いていくための力を身につけさせるための学科の名称として「デジタルライフビジネス学科」は適切であると考える。

また、学科名の国際通用性においては、英国のエジンバラ大学では、大学の研究者が取り組むインパクトのある研究 5 つのうちのひとつとして、デジタルテクノロジーが私たちの生活と働き方にどのように影響を与えているかについて研究する Digital Life 分野が取り上げられているほか、オーストラリアのビクトリア大学でも Digital Life & Learning という講義が行われている。また、多くの海外の大学や大学院において、デジタルテクノロジーとビジネスを関連させた Digital Business に関する学科やコースが存在する。学問的な分野においても、国際的に Digital Life、Digital Business という概念が定着しつつある。本学科の英文名は「The Department of Digital Life and Business」であり、国際的にも通用する名称であると考える。

【学位名称について】

学位名称である、「生活ビジネス学」とは、これまで説明したような生活学に関連する専門性と、経済経営学、情報処理などを基礎とする実践的なビジネス学の専門性を統合した分野に対する学位の名称である。

参考【教育課程との関連】

Ⅰ. 生活学関連

- 生活基礎分野

  生活学概論、フードライフデザイン、ハウスプランニング

- ものづくりデザイン分野

  ファッションクリエイティブ演習、ファッションデザイン、ファッションマーチャンダイジング、インテリアデザイン、ハンドメイドデザイン、ネイルアートデザインなど

- ライフ＆ワークデザイン分野

  ライフ・ファイナンシャルプランニング、キャリアデザイン演習、情報社会論など

Ⅱ. ビジネス学関連

- ビジネス基礎分野

  経営学概論、簿記会計実務、ショップマネジメント、ビジネスマナーなど

- データサイエンス分野

  データサイエンス入門、データサイエンス応用、コンピューターリテラシーⅠ・Ⅱ、情報処理など

- デジタルデザイン分野

  ウェブデザインⅠ・Ⅱ、映像デザインⅠ・Ⅱ・プログラミングⅠ・Ⅱ、マルチメディア演習、CG 演習など

Ⅲ. 生活学・ビジネス学連係科目

- 実践力育成分野

  SNS 起業プロジェクト、イベントプロデュースプロジェクト、地域貢献演習など

このように、生活学とビジネス学の専門科目が有機的にバランスよく配置されており、これらの専門科目群の修得によって、新しい社会に必要な生活とビジネスの知識とスキルを身につけさせることができる。したがって「生活ビジネス学」という学位名称は適切であると考える。

＜届出書での反映箇所＞

書類 ： デジタルライフビジネス学科設置の趣旨等を記載した書類

項目 ： ３ 学科の名称及び学位の名称

２．附帯事項（助言事項）

完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。

本学科の設置については、学科連係課程実施学科として、現存の生活学科、ビジネスコミュニケーション学科の特性と、これまでの教育研究上の蓄積を生かして計画しているところから、新学科のカリキュラムにおいても、現存学科の所属教員を担当教員として配置している。

そのため、新学科の担当教員の一部には設置年度に退職年齢を超える教員も含んでいる。これに対して、設置年度に定年退職を迎える教員で、新学科の設置に必要な教員については、再雇用によってその後も継続して勤務できる制度を令和３年７月に設け、少なくとも新学科の完成年度までは勤続可能にした。

しかし短期的には再雇用によって担当教員が確保できても、中長期的には次世代を担う人材が必要であり、令和４年４月採用を目指して、現在、専任講師クラスの教員を公募している。その後も同様の措置を行う予定である。

＜届出書での反映箇所＞

書類　：　デジタルライフビジネス学科設置の趣旨等を記載した書類

項目　：　７　教員組織の編成の考え方及び特色